

整理番号

D-1-4 530

標 題 名

病菌害虫駆除予防主任技術官協議会要録

著 者 名

発行者名

農林省農務局

発 行 年

大正 15 年 3 月（1926 年 3 月）

製作年月

2026 年 8 月

大正拾五年三月

病菌害蟲彙報
第十六號

病菌害蟲驅除豫防主任技術官協議會要錄

(大正十四年七月開催)

農林省農務局

病菌害蟲驅除豫防主任技術官協議會要錄

目 次

第一 農林大臣訓示ノ要旨	一頁
第二 農務局長訓示ノ要旨	三
第三 諮問事項及其ノ答申	六
甲 諮問事項	六
乙 答 申	七
第四 協議事項及其ノ決議	八八
甲 農林省提出協議事項	八八
乙 府縣提出協議事項	八八
丙 農林省提出協議事項ニ對スル決議	九〇
丁 府縣提出協議事項ニ對スル決議	一〇五
第五 議事經過ノ大要	一一五
第六 出席者官職氏名	一四五

附 錄

一 講 演	一四九
二 印刷物配付目錄	一六〇
三 道府縣病害蟲驅除豫防費豫算並病害蟲專任技術員調	一六〇
四 螟蟲卵寄生蜂ニ關スル調査	一六四
五 葉鞘變色莖摘採ノ効果並踏込動搖ノ影響ニ關スル調査	一七九

病菌害蟲驅除豫防主任技術官協議會要錄

第一 農林大臣訓示ノ要旨

國民經濟ノ發達ヲ期スル上ニ於テ農業振興ノ忽緒ニ附スヘカラサルハ敢テ言ヲ要セス而シテ農業ノ振興ニ關シテハ其ノ方策一ニシテ足ラスト雖モ就中最モ重要ナル事項トシテ掲クヘキハ農業收益ノ増進ヲ企圖スルニ在リ之ニ關シテハ從來官民共ニ施設經營ニ努メ敢テ怠ル所ナキカ如キモ仔細ニ觀察スルトキハ尙遺憾トスヘキ點鮮シトセス農作物ノ減損ニ重大ナル關係ヲ有スル病菌害蟲ノ防除ニ對シ意ヲ用フルコトノ足ラサルカ如キ即チ其ノ缺點ノ最モ大ナルモノナリ統計ニ徵スルニ最近我内地ニ於ケル農產物ノ年產額ハ約三十四億圓ニシテ假ニ其ノ一割ハ病菌害蟲ノ侵ス所ニヨリテ失フモノトセハ實ニ三億余圓ノ多キニ達ス今若シ之カ防除ニヨリ其ノ損失ノ半ヲ償ヒ得タリトセハ農家ノ收益ハ新ニ一億六七千萬圓ヲ加フ寔ニ莫大ナル額ト云ハサルヘカラス之ニヨツテ見ルモ病菌害蟲ノ驅除豫防カ農家ノ經濟ニ將又國民一般ノ福利ニ關スル所如何ニ大ナルモノアルカヲ知ルニ足ラン而シテ病菌害蟲ノ防除ノ發達ニ關シテハ農家ノ自覺ヲ促スヲ根本義トシ其ノ

實施ニ當リテハ効果ノ萬全ヲ期スル爲ニ之ヲ共同的ニ施行セシムルヲ必要トスヘキカ尙
一ノ豫防ハ百ノ驅除ニ勝ルモノアルヲ以テ禍ヲ未然ニ防クノ點ニ關シテ持ニ深甚ノ注意
ヲ拂ハサルヘカラス諸君ハ常ニ管内ニ於ケル重要病菌害蟲並其ノ防除方法等ニ關シ試験
研究ヲ行フヘキハ勿論如上ノ趣旨ニ基キ農家ノ知識ヲ啓發スルト共ニ防除實行上指導督
勵ニ關シ遺憾ナキヲ期セムコトヲ望ム

其ノ詳細ナル事項ニ關シテハ農務局長其ノ他ヨリ協議アルヘキヲ以テ忌憚ナキ意見ヲ吐
露シ充分審議ヲ行ハレンコトヲ希望ス

第二 農務局長訓示ノ要旨

今般病菌害蟲驅除豫防主任技術官協議會ヲ開催スルニ當リ多數諸君ノ參同ヲ得テ茲ニ關係事項ニ關シ協議ヲ爲スノ機會ヲ得タルハ本官ノ欣幸トスル所ナリ

惟フニ病菌害蟲ノ驅除豫防ハ農產物ノ改良増殖上最モ緊要ナル事項タルヤ敢テ論スルヲ要セス之カ防除ノ大要ニ關シテハ大臣ヨリ訓示セラル、ヲ以テ本官ハ茲ニ防除實施ニ關スル注意事項ヲ舉ケテ諸君ノ考慮ヲ促サントス

一 害蟲驅除豫防法ノ施行ニ係ル命令ノ發布ニ關スル件

害蟲驅除豫防法ノ施行ニ係ル命令ヲ以テ驅除豫防ヲ強制スルハ農家經濟ニ重大ナル關係ヲ有スルヲ以テ此場合ニ於ケル防除方針及方法ハ病菌害蟲ノ種類、發生狀況、傳播蔓延ノ有無及地方ノ事情ニ應シ極メテ適切ナラシムルヲ要ス

二 共同防除獎勵ニ關スル件

病菌害蟲ノ驅除豫防ハ之ヲ共同施行スル場合ニ於テ特ニ其ノ效果顯著ナルヲ以テ共同防除組織ノ普及發達ニ努メ之ニ對シテハ防除用諸材料ノ紹介、購入ノ斡旋若ハ貸與等相當便宜ヲ與フルヲ要ス

三 病菌害蟲發生報告ニ關スル件

病菌害蟲發生シタルトキハ直ニ其旨ヲ本省ニ報告スヘキコトニ規定シアリ之蓋シ大ナル主義ニ於ケル共同防除ノ爲必要ナリ然ルニ之ヲ勵行セサル地方アルノミナラス從來ノ例ニヨレハ往々其ノ著シク蔓延シタル後ニ至リ初メテ報

告セラルル向モ尠ナカラス從ツテ驅除豫防上多大ノ困難ヲ感スル次第ニ付病菌害蟲ノ發生ヲ認メタル場合ハ遲滯ナク報告セラルルヲ要ス

四 販賣殺蟲殺菌劑及防除用器具器械ノ利用ニ關スル件

驅除豫防上效果大ナル藥劑及器具器械ニ對シテハ紹介及購入上ノ便宜ヲ圖リ之カ普及利用ニ努ムルコト同時ニ新ニ發賣セラルルモノハ之ヲ蒐集シ農事試驗場等ニ於テ充分ノ試驗ヲ行ヒ成ルヘク速ニ其ノ成績ヲ發表シ一般ノ參考ニ資シ農民ヲ迷ハシメサラムコトヲ望ム

五 種苗ニ依テ傳播スル病菌害蟲ノ防除ニ關スル件

(イ) 種苗需要者ノ知識開發並種苗購入ニ關スル件

種苗ノ需要者ハ種苗ニ依ツテ傳播スル病菌害蟲ニ關スル知識ヲ缺ク結果病菌害蟲附着ノ有無ヲ不問ニ附シテ單ニ安價ナル種苗ヲ購入セムトスル傾向アルヲ以テ講習講話又ハ簡易適切ナル印刷物ノ配付等ニ依リ種苗ニ依テ傳播スル病菌害蟲ニ關スル知識ノ開發ヲ圖ルト共ニ購入種苗ノ検査消毒ヲ獎勵シ各種機關ニ於テ之カ指導援助ニ努ムルヲ要ス

(ロ) 種苗ノ病菌害蟲ノ驅除豫防及移出取締ニ關スル件

本件ハ經費上ノ關係モアルコトナルヘキモ種苗ヲ多ク生産スル道府縣ニ於テハ重要ト認ムル病菌害蟲ノ種類及驅除豫防方法ヲ害蟲驅除豫防法施行規則中ニ規定シ種苗ノ育成、貯藏又ハ假植中ニ於テ周到ナル驅除豫防ヲ勵行セシメ健全ナル種苗ノ供給ニ努メ種苗ヲ移出スル場合ニ於テハ成ルヘク検査取締ヲ實施スルニ努ムルヲ要ス

六 ベタリヤ瓢蟲ノ放飼ニ關スル件

イセリヤ介殼蟲驅除ニ對スルベタリヤ瓢蟲ノ效果ハ極メテ顯著ナルヲ以テ之カ利用ノ獎勵ハ必要ナリト雖瓢蟲飼育

ニ要スル勞費ノ關係上其ノ配付頭數ニ制限アルヲ以テ放飼數ヲ最少限度ニ止メ放飼後ニ於ケル野外繁殖ヲ圖リ其ノ後放飼ノ必要ヲ生シタル場合ハ之ヲ利用スルヲ要ス

七 輸移入植物ノ取締ニ關スル件

植物検査所ハ大正十三年十二月行政整理ノ結果廢止セラレ其ノ事務ハ各各税關ニ併合セラレタリト雖輸出入植物取締法ノ施行ハ依然トシテ農林省ノ所管ニシテ本省ハ從前通り海外等ヨリスル病菌害蟲ノ侵入防止ニ努メツアリ故ニ諸君ハ輸移入者ノ不正行爲其ノ他ノ原因ニ依リ未検査品ノ輸移入ヲ發見シタル場合ニ於テハ速ニ其ノ旨ヲ税關又ハ農務局ニ通知セラレムコトヲ望ム

八 氣象ト病菌害蟲ノ發生ニ關スル件

病菌害蟲ノ發生ハ氣象ト密接ナル關係ヲ有シ氣象狀態ヨリ病菌害蟲ノ發生ヲ豫測シ得ル場合尠シトセサルカ故ニ兩者ノ關係ヲ一層精密ニ調査シ發生ノ處アリト認ムルニ於テハ豫メ警戒ヲ加ヘ充分防除ノ手段ヲ講スル様努ムルヲ要ス

九 病菌害蟲ノ試験研究ニ關スル件

道府縣ニ於テ病菌害蟲ニ關スル試験研究ヲ行フ場合ニ於テハ廣ク各種ノ研究機關ニ於ケル試験研究ノ成績ヲ參考シ又ハ利用スルニ努メ其ノ重複ヲ避クルヲ要ス

一〇 調査研究及指導督勵ニ關スル件

病菌害蟲ノ驅除豫防ハ農產物ノ改良増殖上最モ緊要ナル事項ノ一ナリト雖其ノ實行ノ時期及方法ニシテ當ヲ得サラムカ其ノ效果ヲ減殺スルノミナラス不測ノ損害ヲ招クコトナキニ非ルヲ以テ諸君ハ常ニ管内ノ重要病菌害蟲及其ノ防除ニ關シ常ニ適確ナル調査研究ヲ行ヒ技術上並經濟上適切ナル指導督勵ヲ行フヲ要ス

第三 諮問事項及其ノ答申

甲 諮問事項

一、現行害蟲驅除豫防法ニ付改正ヲ要スト認ムル事アラハ其ノ事項
二、農作物及農産物ノ病菌害蟲驅除豫防ニ關スル試験成績又ハ經驗ノ結果ニシテ之カ應用ニ依リ農産物ノ改良増殖上著シキ利益ヲ與ヘタル事例アラハ其ノ概要

三、共同的ニ驅除豫防ヲ行ヒ成績優良ナルモノアラハ其ノ事例竝共同驅除豫防ノ普及發達ヲ圖ルニ適當ナル組合組織イ、優良ナル共同驅除豫防事例

(一) 名稱

(二) 所在地

(三) 沿革

(四) 地區及關係者ノ員數

(五) 目的

(六) 組織ノ大要

(七) 經費竝經費賦課徵收ノ方法

(八) 事業ノ施行狀況及成績

(九) 事業ノ發達ニ關スル今後ノ見込

(一〇) 本事業ノ改善發達ニ關シ特ニ注意スヘキ事項

(一一) 其ノ他參考トナルヘキ事項

(一二) 規約等

ロ、共同驅除豫防ノ普及發達ヲ圖ルニ適當ナル組合組織

乙 答 申

一、現行害蟲驅除豫法中改正ヲ要スト認ムル事項

(一) 害蟲驅除豫法中「害蟲」トアルヲ左ノ如ク改ムルコト

秋田縣	「病害蟲」	富山縣	「病害蟲」
-----	-------	-----	-------

石川縣	「病害蟲」	長野縣	「病菌害蟲」
-----	-------	-----	--------

滋賀縣	「病害蟲」	兵庫縣	「病菌害蟲」
-----	-------	-----	--------

岡山縣	「病害蟲」	廣島縣	「病害蟲」
-----	-------	-----	-------

福岡縣	「病害蟲」	佐賀縣	「病害蟲」
-----	-------	-----	-------

(二) 害蟲驅除豫法第一條ノ改正

北海道 貯穀害蟲ニモ本法ヲ適用シ得ル様改ムルコト

秋田縣 「農作物ヲ害スル」ヲ「農作物及農產物ヲ害スル」ニ改ムルコト

富山縣 「農作物」ノ次ニ「又ハ農產物」ヲ加フ

山梨縣 「蟲類」ノ次ニ「病菌並ニ蟲類以外ノ有害動物」ヲ加ヘ第十條ヲ削除スルコト

諮問事項及其ノ答申

長野縣 「農作物」ノ次ニ「農產物及農產種苗」ヲ加ヘ害蟲驅除豫防法中「作人」トアルヲ總テ「作人及農產物及

農產種苗所持者等」ニ改ムルコト

滋賀縣 「農作物」ノ次ニ「及農產物」ヲ加フルコト

山口縣 病害ヲ加フルコト

愛媛縣 移動苗木及果實ニ本法ヲ適用シ得ル項ヲ設クルコト

福岡縣 農作物以外ノ植物及農產物ノ病害蟲ニモ本法ヲ適用シ得ル様改ムルコト

佐賀縣 「各種ノ」ノ次ニ「菌類」ヲ加フルコト

大分縣 農產物、農林用苗木ヲモ包含セシムルコト

鹿兒島縣 「農作物」ノ次ニ「及農產物」ヲ加フルコト

(三) 害蟲驅除豫防法第二條ノ改正

青森縣 第一項中「農商務大臣ノ認可ヲ經テ」第二項中「認可ヲ經タル」及「此ノ場合」以下ヲ削除スルコト

岩手縣 驅除豫防スヘキ害蟲ノ種類及驅除豫防ノ方法制定ニ關シ主務大臣ノ認可ヲ經ルノ必要ナキ様改ムルコト

宮城縣 右ニ同シ

茨城縣 第一項中「農商務大臣ノ認可ヲ經テ」及第二項ヲ削除スルコト

石川縣 第二項削除

福井縣 岩手縣ニ同シ

長野縣 驅除豫防スヘキ害蟲ノ種類及驅除豫防ノ方法ハ地方長官之ヲ定メテ主務大臣ニ報告スル様改ムルコト

岐阜縣 長野縣ニ同シ

三重縣 右ニ同シ

滋賀縣 驅除豫防スヘキ病害蟲ノ種類ハ命令ヲ以テ指定スルコト

岡山縣 害蟲驅除豫防ニ對スル地方長官ノ權限ヲ擴張シ國費又ハ地方費ヲ以テ賠償スル場合ノ外ハ驅除豫防ノ方法ハ地方長官ニ於テ之ヲ定メ得ル様改ムルコト

廣島縣 第二項中「害蟲發生シ」ノ次ニ「又ハ第十條ニ定メタル動物ニ對シ」ヲ加フルコト

福岡縣 驅除豫防スヘキ病害蟲ノ種類及驅除豫防方法ノ制定ハ之ヲ地方長官ノ權限ニ委任スルコト

(四) 害蟲驅除豫防法第三條ノ改正

福井縣 市町村制ノ改正ニ伴ヒ第二項ヲ改ムルコト

山梨縣 「發生シタルトキ又ハ發生ノ虞アルトキハ」ヲ「發生シ被害甚シカラントスルトキハ」ニ「前項ノ場合ニ於テ作人驅除ヲ行ハサルトキハ」ヲ「前項ノ場合ニ於テハ」ニ改ムルコト

愛知縣 種苗等ニシテ運搬ノ途中ニアルモノ或ハ緣日商人ノ所持セルモノ若ハ害蟲發生地區ニ入りテ開店セントスルモノ等ヲモ取締リ得ル様改ムルコト

滋賀縣 田畑ノ作人ヲシテ驅除豫防ヲ行ハシムル場合其ノ經費ノ一部ヲ田畑ノ所有者ニ負擔セシメ或ハ全部又ハ一部ヲ市町村費ヲ以テ支辨セシメ得ル様改ムルコト

廣島縣 「發生シタルトキ又ハ發生ノ」ヲ「發生シ被害甚シキトキ又ハ被害甚シカラムトスルノ」ニ改ムルコト

山口縣 田畑以外ノ地ニ發生シタルトキ又ハ發生ノ虞アル場合ヲモ加フルコト

(五) 害蟲驅除豫防法第四條ノ改正

山梨縣 削除

(六) 害蟲驅除豫防法第五條ノ改正

長野縣 害蟲驅除豫防法第一條ノ改正ニ伴ヒ夫役賦課ノ方法ヲ改ムルコト

福井縣 第五項ヲ改正市町村制ニ依リ改ムルコト

(七) 害蟲驅除豫防法第六條ノ改正

富山縣 「溝渠ヲ設ケ」ノ次ニ「農産物」ヲ加フルコト

福井縣 「溝渠ヲ設ケ」ヲ削リ「燒却スルコトヲ得」ヲ「燒却シ其ノ他驅除豫防上適當ナル施設ヲ爲スコトヲ得」ニ改ムルコト

山口縣 田畑以外ノ地ノ樹木ニモ適用シ得ル様改ムルコト

愛媛縣 山林、庭園、堤塘等ニ於テ害蟲發生シ拔棄若ハ燒却ヲ必要トスル場合ニモ適用シ得ル様明示スルコト
大分縣 「必要アルトキハ」ノ次ニ「地方長官直接之ヲ執行シ又ハ」ヲ加フ

(八) 害蟲驅除豫防第七條ノ改正

栃木縣 「但シ必要ト認メタル場合ハ補償スルコトアルヘシ」ヲ加フルコト

神奈川縣 全文ヲ左ノ如ク改ム

第七條 地方長官ハ左ノ區分ニ從ヒ農作物又ハ草木ノ所有者ニ對シ手當金ヲ交付ス

但シ勅令ノ定ムル最高金額ヲ超ユルコトヲ得ス

イ、病菌害蟲ニ犯サレタル農作物又ハ草木ヲ拔棄又ハ燒却シタルトキ評價額ノ五分ノ二
ロ、病菌害蟲傳播ノ虞アル農作物又ハ草木ヲ拔棄又ハ燒却シタルトキ評價額ノ五分ノ四

第七條ノ二 前項以外ノ損害ニ對シテハ被害者ハ賠償ヲ要求スルコトヲ得ス

静岡縣 賠償ヲ認ムル箇條ヲ加フルコト

愛知縣 國費ヲ以テ賠償スルノ途ヲ講スルコト

三重縣 種類ヲ限定シ賠償ノ途ヲ開クコト

滋賀縣 國費ヲ以テ全部又ハ一部ノ賠償ヲナスノ途ヲ開クコト

岡山縣 被害植物ノ賠償ハ國費若ハ地方費ヲ以テ行ヒ其ノ他ノ費用ハ市町村ニ負擔セシムル様改ムルコト

(九) 害蟲驅除豫防法第九條ノ改正

富山縣 「給與シ」以下ヲ「貸與シ又ハ藥品ヲ給與スルコトヲ得」ニ改メ「又ハ郡長」及「又ハ郡費」ヲ削除スル

コト

沖繩縣 「又ハ郡費」ヲ削除スルコト

(一〇) 害蟲驅除豫防法第十條ノ改正

青森縣 「農商務大臣ノ認可ヲ經テ」ヲ削除スルコト

岩手縣 法律ノ適用ニ關シ主務大臣ノ認可ヲ經ルノ必要ナキ様改ムルコト

宮城縣 右ニ同シ

茨城縣 「農商務大臣ノ認可ヲ經テ」ヲ削除スルコト

福井縣 岩手縣ニ同シ

長野縣 「黴菌」ヲ「植物」ニ改ムルコト

石川縣 右ニ同シ

山梨縣 削除

岐阜縣 「農林大臣ノ認可ヲ經テ」ヲ削除スルコト

滋賀縣 「蟲類以外ノ動物又ハ微菌ト雖農作物」ヲ「病害蟲以外ノ動植物ト雖農作物又ハ農產物」ニ改ムルコト

廣島縣 「蟲類」ノ前ニ「病菌及」ヲ加ヘ「又ハ微菌」ヲ削除スルコト

佐賀縣 「蟲類」ノ前ニ「菌類」ヲ加フルコト

(一一) 害蟲驅除豫防法第十一條ノ改正

富山縣 「五錢以上」以下ヲ「科料又ハ拘留ニ處ス」ニ改ムルコト

福井縣 罰則ヲ重クスルコト

長野縣 適宜修正ヲ行フコト

兵庫縣 罰則輕キニ過クルヲ以テ適當ニ改正スルコト

和歌山縣 科料及拘留ヲ最大限度迄引上グルコト

廣島縣 「五錢以上」以下ヲ「拘留又ハ科料ニ處ス」ニ改ムルコト

山口縣 罰則輕キニ失スルヲ以テ適宜修正ヲ行フコト

長崎縣 罰則輕キニ失スルヲ以テ數倍重クスル様改ムルコト

大分縣 科料ノ金額ヲ相當ニ擴大スルコト

沖繩縣 罰金ヲ増額スルコト

(一二) 害蟲驅除豫防法第十二條ノ改正

富山縣 「二圓以上」以下ヲ「二百圓以内ノ罰金又ハ二ヶ月以内ノ禁錮ニ處ス」ニ改ムルコト

福井縣 罰則ヲ重クスルコト

長野縣 適宜修正ヲ行フコト

廣島縣 「二圓以上二拾圓」ヲ「二百圓」ニ「十一日」以下ヲ「料料ニ處ス」ニ改ムルコト

山口縣 罰則輕キニ失スルヲ以テ適宜修正ヲ行フコト

沖繩縣 罰金ヲ増額スルコト

(一三) 害蟲驅除豫防法第三十條ノ改正

沖繩縣 「沖繩縣ノ區(間切島)」ヲ削除スルコト

(一四) 害蟲驅除豫防法取扱手續中害蟲トアルヲ左ノ如ク改ムルコト

石川縣 病害蟲

(一五) 害蟲驅除豫防法取扱手續第一條ノ改正

青森縣 第一項中「第一項」及「ニ付本大臣ノ認可ヲ請フトキハ各害蟲ニ付左ノ事項ヲ記載スヘシ」並第二項全

文ヲ削除スルコト

石川縣 「ニ付キ本大臣ノ認可ヲ請フ」ヲ「定メタル」ニ改メ第二項ヲ削除スルコト

(一六) 害蟲驅除豫防法取扱手續第五條ノ改正

石川縣 「區域ヲ定メ」ノ次ニ「豫防」ヲ加フルコト

(一七) 害蟲驅除豫防法取扱手續第六條ノ改正

青森縣 「本大臣ノ認可ヲ請フトキハ」ヲ削除スルコト

石川縣 「動物」ヲ「動植物」ト改メ「第一項」ヲ削除スルコト

(一八) 害蟲驅除豫防法取扱手續第七條ノ改正

諮問事項及其ノ答申

佐賀縣 「害蟲發生」ノ意義ヲ明確ナラシムルコト

(一九) 狩獵法ノ改正

長野縣 狩獵法第十二條、第十五條ノ取扱ヲ簡易ナラシムルコト

滋賀縣 狩獵法第十五條ヲ改ムルコト

(二〇) 毒物劇物營業取締規則ノ改正

滋賀縣 第八條ヲ改ムルコト

(二一) 種苗取締規則ノ制定

三重縣 大分縣 規則ノ制定ヲ要ス

奈良縣 左記要項ヲ以テ取締規則ヲ設ケラレ度キコト

イ、苗木ノ育成又ハ販賣ヲ爲サントスルモノハ地方長官ノ免許ヲ受クルヲ要スルコト

ロ、販賣スヘキ苗木ハ當該官吏ノ検査ヲ要シ合格證ノ添付ヲ受クルニアラサレハ販賣スルコトヲ得サラ

シムルコト

ハ、苗木販賣ノ免許ヲ受ケタルモノニシテ行商ヲナサントスルトキハ行商地ノ地方長官ノ行商鑑札ヲ受

クルヲ要スルコト

ニ、當該官吏ハ苗木ノ育成者、販賣者又ハ運送業者ニ隨時ニ臨檢シ取扱ヒツルアル苗木ニツキ検査ヲナ

シ得ル様ニスルコト

ホ、當該官吏苗木ノ検査ヲ施行シタル際病菌害蟲ノ附着又ハ其ノ虞アリト認メタル時ハ驅除豫防上ニ關

シ必要ナル命令ヲ發シ得ル様ニスルコト

へ、取締ルヘキ苗木ノ種類、病害蟲ノ種類及驅除豫防ノ方法ハ主務大臣之ヲ定ムルコト

ト、不正苗木販賣者ニ對スル罰則ヲ制定スルコト

(二二) 病菌害蟲附着物ノ搬出入ニ對スル取締

兵庫縣 地方長官ハ必要ニ應シ病菌害驅除豫防ノ爲病菌害蟲ノ附着セル植物、器具、機械及包裝ニ使用シタル物料ノ搬出搬入ヲ制限又ハ禁止シ得ル様ニナシ其ノ命令ニ違反シタルモノヲ重ク處分シ得ル様ニナスコト

(二三) 販賣殺蟲殺菌劑ニ關スル取締法ノ制定

埼玉縣 取締法ノ制定ヲ要スルコト

二、病菌害蟲驅除豫防ニ關スル試驗成績又ハ經驗ノ結果ニシテ之カ應用ニ依リ農産物ノ改良増殖上著シキ利益ヲ與ヘ

タル事例

右事例ニ關シ道府縣ヨリ答申アリタルモノノ全部ヲ輯録スルコト困難ナルヲ以テ比較的參考トナルヘキモノト認メタルモノノミニ付便宜答申ノ儘ヲ摘記スルコトトセリ

(一) 青 森 縣

苹果ノ病害蟲豫防試驗成績ノ普及

青森縣ノ苹果ハ栽培反別七千七百餘町歩收量五百萬貫價格四百萬圓ニ上リ青森苹果ノ名聲ハ各地ニ喧傳セラルルニ至レルモ其ノ茲ニ至ルニハ幾多ノ障害アリ就中病菌害蟲ノ蔓延ハ全ク斯業ノ死活ニ關スル一大事ニシテ縣ハ之レカ爲メ曩ニ病理專攻ノ技師ヲ置キ専ラ苹果病害ノ研究ニ當ラシメ更ニ果樹園藝ノ主任技師ヲ置キ大正七年苹果試驗園ヲ設置シテ病菌害驅除豫防法ノ實地應用ノ試驗ニ着手セルニ成績顯著ナリシヲ以テ其實驗ニ基キ藥劑撒布曆ヲ作り毎年三千枚以上ヲ印刷シテ栽培家ニ配布シ更ニ委員ヲ設ケテ之カ督勵ニ努メタルニ現今ニ於テハ當業者ハ爭フテ其配布ヲ求め壁上ニ掲ケテ無二ノ指針ト爲シ縣ノ督勵ヲ待タスシテ之ヲ實行スルニ至レリ

撒布層ノ配布ト相俟テ縣ハ大形噴霧器ノ共同購入ヲ獎勵シ經費ノ三割以內ノ補助ヲ交付セルコトトセルニ昨年度ニ於テ百三十九臺ノ購入ヲ見、本年度ハ二百二十九臺ノ申請アリテガソリン噴霧器六臺ノ普及ヲ見略普及ノ目的ヲ遂ケ得タルモノニシテ尙管ニ苹果病蟲害ノ驅除豫防ノ効果大ナルモノアルノミナラス他ノ作物ニモ利用スルノ慣習ヲ馴致スルニ至レリ

(二) 山 形 縣

稻熱病ト春期耕土ノ過乾トノ關係

本縣庄內三郡ノ稻田三萬六千餘町步ノ中耕地整理地區一萬八千町步ハ灌溉水ノ供給概ネ五月廿日前後ニシテ本田耕起後灌水迄ノ期間約一箇月餘ニシテ之ノ期間中土壤面ノ蒸發量高ク耕土過乾ニ陷ル時ハ風化作用ニ依リ耕土中肥料ノ分解促進セラレ其後整地施肥ニ注意セス加フルニ插秧後ノ天候不順ナランカ稻ノ生育軟弱トナリ往々生育期ヨリ成熟期ニ掛ケ稻熱病ヲ誘發シ著シキ病害ヲ醸ス事アリ明治四十四年ノ稻熱病被害ノ如キハ此ノ好例ニシテ同年春期間四月二十一日ヨリ五月二十日ニ至ル蒸發量ハ合計三十耗ニシテ之ヲ平年ノ蒸發量二十耗四ニ比スレバ其ノ差九・六耗ニシテ四七%ノ増トナリ加フルニ同年ハ移植後七月十五日ヨリ九月二十三日ニ掛ケ概ネ曇雨天勝ニシテ著シキ稻熱病被害ヲ見タリ此ノ事實ニ徴シテ庄內地方耕地整理地區一般春季著シク乾燥スル場合ハ揚水期ヲ早ムルカ或ハ施肥量ヲ減スルノ必要アリ勿論移植後ノ天候如何ニ至大ノ關係ヲ有スルカ故ニ假令以上ノ如キ過乾狀態ニ陷ルトスルモ插秧後ノ天候サヘ順調ナランカ稻ノ發育良好ニシテ斯ル病害ヲ醸ス事稀ナリ

故ニ庄內地方一般春季蒸發量高ク過乾ノ狀態ニ陷ル虞アル時ハ揚水、灌溉ノ時期ヲ早メ整地、施肥ニ留意シ過肥ノ狀態ニ陷ル事ヲ避ケ稻熱病豫防ノ効果顯著ナルモノアルニ至レリ

(三) 栃 木 縣

夜盜蟲幼蟲驅除ニ砒酸鉛撒布法

本縣大麻作ニ於ケル夜盜蟲ノ被害ハ最近數年間ハ年々アリテ其損害尠キモ數萬圓多キハ數十萬圓ニ達シタルコトアリ之カ驅除豫防ニ關シテハ從來溝渠遮斷法、捕殺法等ニ依ルノ外ナク大發生ノ場合ニアリテハ之カ驅除ヲ督勵スルモ充分ナル効果ヲ舉クルコト能ハサル狀況ナリキ大正十一年本省ヨリノ通知ニ依リ縣農事試驗場員ヲシテ東京府ニ於ケル驅除豫防試驗ヲ視察セシメタル結果大正十二年發生ノ夜盜蟲ニ對シ砒酸鉛ノ撒布ヲ試驗シ又上都賀郡農會ハ郡内數ヶ所ニ於テ八種ノ藥劑ヲ以テ之カ驅除ヲ試驗シタル結果南桁原村ニ於テ實施シタル砒酸鉛ノ効果最偉大ナルヲ確メタリ同村農會ヨリ報告アリタル成績左ノ如シ

試驗成績

一、試驗地 南桁原村大字榆木字東浦

一、試驗畝步 二畝步 大麻耕作人小林廣作

一、使用藥品 砒酸鉛（糊狀）一ポンドヲ水二斗ニ溶解

一、使用ノ月日 六月十八日午後二時

一、檢查時間 六月三十日午前十一時

一、結果 殆ント全滅

一、作物ノ狀況 一層草生良好

一、試驗立會人 村長、農區長、督勵員、縣產業技手、技術員

斯ノ如ク顯著ナル成績ヲ得タルヲ以テ大正十二年ハ夜盜蟲ノ發生最激甚ヲ極メ第一期發生ハ大麻作一、五一二町步煙草作七〇町步ニ達シ第二期發生ハ蔬菜類二百六十四町步ニ亘リタルニ拘ハラズ急遽技術員會及文書ヲ以テ之カ使用ヲ

獎勵シ驅除ニ努メテ好結果ヲ得タリ

大正十三年ハ害蟲驅除豫防法施行規則中夜盜蟲驅除法ニ砒酸鉛ノ使用ヲ加ヘ千七百圓ノ補助金ヲ交付シ一萬封度以上ノ使用ヲ見タリ

大要右ノ如ク從來良法ナキニ苦ミタル夜盜蟲幼蟲ノ驅除法ニ一大革新ヲ加ヘタリ

(四) 福 井 縣

稻黑椿象驅除豫防方法ノ概要(左記第三法ノ普及獎勵ニ依リ從前ニ比シ著シキ幼果ヲ擧ケ得タリ)

1 越冬期ニ於ケル捕殺

黑椿象ハ冬期山中ニ自生スル「ヒカゲスゲ」等ノ草叢中又ハ石下、石垣、山麓ノ落葉「コケ」類及積藁等ノ間ニ成蟲ニテ潜伏越年シ六月中、下旬ニ至リ活動ヲ開始シ本田ニ襲來スルモノナルヲ以テ襲來以前ニ於テ潜伏場所ヲ探リ捕殺ヲナスヘシ而シテ害蟲ノ驅除ハ個人的觀念ヲ捨テ共同的ニ實施スルニアラザレバ其ノ効果薄弱ナリ

2 産卵前本田ニ於ケル成蟲ノ捕殺

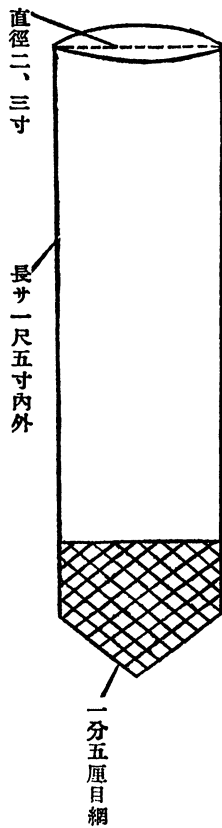
黑椿象ハ越冬場所ヨリ本田襲來ニ際シテハ稻ノ生育促進セルモノニ好シテ襲來シ插秧ノ早晚ニ依ル襲來蟲數ノ多少ニ著シキ差ヲ生ジ初期ニ於テ其差大ニシテ稻ノ發育促進スルニ隨ヒ其ノ差ヲ少クス尙襲來模様ヨリ考察スルニ襲來初期ニ於テハ氣溫ノ關係ナルカ飛翔力微弱ニシテ氣溫上昇ニ從ヒ飛翔力ヲ増加スルモノノ如シ故ニ早植田ヲ設置シ以テ早効肥料施肥等ノ方法ニ依リ一般田ヨリ著シク生育ヲ促進セシメタル稻田ヲ所々ニ點々設置スルトキハ椿象ノ大部分ハ此ノ生育促進セル稻田ニ飛來集合セシムルコトヲ得ヘク尙一般田ハ從來ノ插秧期ヨリモ稍々遅植トナシ其發育ニ著ルシク差ヲ生セシメ置クトキハ一層其ノ効果ヲ大ナラシムルコトト信ス尙早植田設置面積ハ普通田一町歩ニ付約五畝歩内外ノ割合ニテ出來得ル限り箇所ノ數ヲ多クスルヲ可トシ此レニ襲來セル成蟲ヲ共同シテ少ナクモ

三、四同ノ捕殺ヲ行ヘハ一般田ハ極ク小部分ノ成蟲襲來ヲ受クルニ過キササルヲ以テ彼等ノ産卵孵化セル幼蟲ニ對シテ左記ノ如ク煙草粉ヲ撒布スルトキハ其ノ年ノ幼蟲ヲ殺スノミナラス翌年ノ襲來蟲數ニモ大ナル減少ヲ見ルニ至ルヘシ尙發生被害輕少ニシテ早植田設置ノ効果薄弱ナル所ニアリテハ一般田ニ於テ極力共同捕殺ニ努ムルト共ニ幼蟲期ノ驅除ニ全力ヲ注クヘシ

3 幼蟲期ニ於ケル驅除

幼蟲期ニ於ケル驅除ハ專ラ煙草粉撒布ニ依ルモノニシテ大正十三年度ニ於ケル試驗ノ結果ニ依レハ本蟲ノ一齡ヨリ五齡初期ニ於テ最モ有効ナリ而シテ幼蟲期ノ初期及末期ハ成蟲混セルヲ以テ充分ナル効果ヲ舉クルヲ得ス故ニ最盛期タル八月上、中旬ハ殆ント八、九割迄幼蟲ナルヲ以テ此ノ期ニ於テ灌漑水ヲ排除シ株際土面ノ潤濕ナルヲ程度トシ稻株及蟲體ノ濕潤ナル時即チ雨天ノ直後夕刻早朝等ニ煙草粉反當十八貫内外ヲ撒布スルトキハ幼蟲ノ約九割以上ハ死滅セシムルヲ得ヘシ

以上ハ一回撒布ノ場合ナルモ二回撒布ノ場合ニハ第一回ハ八月初旬第二回ハ八月中、下旬ニ撒布スルヲ要ス尙本劑ヲ撒布スルニハ各株毎ニ手ニテ稻株ノ葉先一、二寸ノ下方ヨリ均一ニ撒布スルモ可ナレトモ此ノ場合ニアリ



諸問事項及其ノ答申

テハ各株ニ於ケル撒布量ニ多少ノ差ヲ生ス假ニ平等ニ撒布スルノ目的ニテ右ノ如キ亞鉛製ノ圓筒ニ金網ヲ取付タル用器ヲ造リ稻株上ニテ上下ニ振リ撒布スルトキハ撒布量約十二貫内外ニテ止マル見込ナリ

4 其他卵塊ノ採集、稻刈取直後ニ於ケル成蟲ノ捕殺ニ努ムル外被害地ノ稻束及積藁、山中ノ落葉等ニハ本蟲ノ潜伏スル場合多キヲ以テ之ヲ他ノ被害ヲ受ケサル地ヘ運搬セサル様注意スヘシ

經過習性並移動ノ方法

一年一回ノ發生ニシテ冬期ハ山中ニ自生スル「ヒカグスゲ」等ノ草叢中又ハ石下、石垣、山麓ノ落葉及積藁等ノ間ニ成蟲ニテ潜伏越年シ翌春氣溫ノ加ハルニ隨ヒ活動ヲ初メ稻田ノ濃緑ヲ呈スル頃（六月下旬）ノ氣溫ニ至リ初メテ本田ニ飛來シ稻ノ莖葉中ノ養液ヲ吸收シ産卵、孵化、成蟲トナリ氣溫ノ低下スル頃（九月下旬）ニ至リ越冬場所ニ飛去越年スルモノトス山中ニ越年セル成蟲ハ五月中ハ舉動甚ダ不活發ナルモ六月十日頃ニ至レハ舉動活發トナリ一分間ニ最長三尺四寸少キハ二尺一寸平均二尺五寸内外ノ匍匐力ヲ有スルニ至ル插秧ノ頃ニ至レバ稀ニ苗代ニ本蟲ヲ見ルコトアリ移動開始ハ前記ノ如ク六月下旬ニシテ遠距離ノ移動ハ主トシテ飛翔ニ依リ山麓又ハ畦畔等ニ潜伏セルモノハ主トシテ隣接地ノ稻田ヘ匍匐ニ依リ又山麓ヲ流レル河水ニ依リ移動セラルルコト多シ稻田ヨリ稻田ヘノ移動ハ步行又ハ飛翔ニ依リ株ヨリ株ヘノ移動ハ主トシテ匍匐並ニ曇天及黄昏ヨリ夜間葉ノ先端ニ上リ垂葉ニ依リ葉ヨリ葉ニ移動スルモノ多ク越冬ノ場合ハ飛翔、稻草運搬等ニ依リ移動ス要スルニ本蟲ノ習性トシテ甚タ陰性ニシテ雨天、黄昏、夜間等ニ於テ盛ニ葉上ニ活動シ日中陽光ノ直射スル場合ハ稻株ノ下方ニ潜伏セルヨリ考察スルニ移動ハ主トシテ雨天曇天又ハ黄昏ヨリ夜間ニ亘リテスルモノノ如ク更ニ日中ニ於テ飛翔等容易ニ發見シ得サル事項ヨリ察スレハ移動ノ最モ盛ナルハ黄昏ヨリ夜間ニ亘リ多キガ如シ

左ニ野外並ニ圃内ニ於テ調査セル各變態時期及各期間ヲ示セハ次ノ如シ

本田襲來期			交尾期			卵態期			幼蟲期		
初期	最盛期	末期	初期	最盛期	末期	初期	最盛期	末期	初期	最盛期	末期
六月十三日頃	七月八日頃	八月五日頃	六月十七日頃	七月五日頃	八月十日頃	七月八日頃	七月二十五日頃	八月五日頃	七月七日頃	八月五日頃	九月十七日頃
卵期間			幼蟲期間			一雌ノ產卵塊數			一雌ノ產卵粒數		
最短	最長	平均	最少	最多	平均	最短	最長	平均	最少	最多	平均
四日	七日	五、五日	三、五日	四、八日	四、四日	一塊	五塊	二、七塊	二粒	五粒	六粒

被害狀況

本蟲ハ六月下旬稻田ニ飛來シ多キハ一株四十匹内外群カリテ加害シ白晝ハ稻ノ下部ニ曇天、雨天及黄昏ハ葉上ニ於テ活動ス共ニ稻ノ養液ヲ吸收スルガ爲ニ自然稻ハ發育スルヲ得ス萎縮病ノ如ク甚タ矮小トナル而シテ七月中、下旬ヨリ八月上中旬ニ亘リ產卵セラレタル卵ハ盛ニ孵化シ成蟲ト共ニ加害スルヲ以テ愈々發育不完全トナリ全ク出穂スルニ至ラサルモノアリ出穂期ニ被害セシモノハ登熟充分ナラスシテ白穂トナリ又出穂セルモノト雖モ穂中ノ養液ヲ吸收セラ
ルルカ爲完全ニ成熟スルモノ少ナキノミナラス米質甚タ疎惡ナリ

黑椿象驅除上早植田設置ニ關スル研究成績

水稻發育程度ト黑椿象襲來蟲數調査

第一區 早植速効肥區

苗代播種四月十五日、本田插秧五月廿日、肥料基肥大豆粕反當十貫目硫酸反當三貫目、追肥ナシ、品種（早生）福井大場一號

第二區 普通植普通肥區

苗代播四月二十日、本田插秧六月一日、肥料基肥大豆粕反當十四貫目、追肥（七月下旬）米糠反當十五貫目木灰反當十五貫目

品種（早生）福井大場一號

第三區 遲植普通肥區

苗代播種五月一日、本田插秧六月十日肥料第二區ニ同シ

品種（晚生）白珍子

第四區 最遲植普通肥區

苗代播種五月十五日、本田插秧六月二十日肥料第二區ニ同シ

品種（晚生）白珍子

一、以上ノ如ク四區ヲ設置シ各區七十五坪内外ノ比較的大面積ヲ使用シ第二試驗地ノ二ヶ所ニ於テ大略同様ニ試驗ヲ施行セリ

一、第一試驗地ノ位置ハ被害劇甚圃地ノ一隅ニ位シ椿象ノ越冬山腹ニ直ク接續セル水田ニシテ椿象襲來ノ影響ハ極一小部分ノ越冬山野ニ限定セラレ其ノ距離僅ニ數間ニ過キス

一、第二試驗地ハ同被害劇甚圃地ノ中央ニ位シ三方トモ黑椿象越冬ノ山岳ヲ以テ圍マレ西方ハ一帯ノ水田ニ接續セリ而シテ試驗地ヨリ越冬場所マテノ距離ハ二町乃至四町トス

一、黑椿象襲來期近ツクニ從ヒ附近山野ニ於ケル越冬蟲ノ動靜並ニ試驗地内及其附近ノ稻田ニ就キ黑椿象ノ存在ニ關シ隔日或ハ毎日觀察セリ

一、六月二十三日第一試驗地第一區及第二區ニ襲來セルヲ最初トシ其後毎日或ハ三、四日毎ニ各區ノ襲來蟲ヲ全部手ニテ捕獲調査―七月三十二日ニ至リ之カ調査ヲ打チ切りタリ

一、各區ニ於ケル襲來蟲數反當ノ換算次表ノ如シ

調査期日	第一試驗地(被害圃地一隅)				第二試驗地(被害圃地中央)			
	早植區 五月二十日植	普通植區 六月一日植	遲植區 六月十日植		早植區 五月二十日植	普通植區 六月一日植	遲植區 六月十日植	最遲植區 六月二十日植
六月二十二日	二、二三	三	〇		〇	〇	〇	〇
六月二十三日	四八	六二	一〇		〇	〇	〇	〇
六月二十四日	三三	一四八	〇		〇	〇	〇	〇
六月二十七日	六六三	二八五	一七		〇	〇	〇	〇
六月三十日	三、一〇九	六二	三七	一五、七二四	五、六六三	六八	〇	〇
七月四日	五、四六八	一、〇二三	五四	二、〇九六	九、六三二	二八〇	〇	〇
七月八日	二、六七三	三、五六九	五〇一	二六、九六八	二六、一二九	四、〇六〇	五三	
七月十二日	二、九八四	四、五六三	三、一〇	二、四九八	一五、六二六	二、〇〇九	七	
七月十六日	二、八三四	七、二八七	四、七九	一七、六八	一二、九五九	三、七三五	一五	
七月十八日	五、一七三	三、二八	一、九〇三	二、〇九六	七、三三六	一、四二三	三七	
七月十九日	一、八二七	一、四七〇	六〇五	三、三三四	二、七五五	一、二八五	五二	
七月二十日	一、一九四	八二五	二六六	三、二九四	二、六四三	八四三	七五	

七月二十一日	一、八九九	一、七六五	四七一	二、四二七	二、八六三	二、三五六	九六
七月二十二日	九四八	八六七	二六九	二、五〇九	一、九九一	二、三三三	六〇
合計	七〇、六七二	三五、八〇三	一二、四七三	一六、五五三	八七、五七三	一八、六八二	三九六
早植區ヲ百	一〇〇%	三六、五二	一七、六五	一〇〇%	六八、一二	一四、三	〇、三〇
トセル歩合							

右調査成績ニ依リ次ノ如キ事實ヲ確ムルヲ得タリ

- 1 椿象ハ稻ノ生育促進スルモノニ好ムテ襲來スルノ性質ヲ有ス
- 2 插秧ノ遲速ニ依ル襲來蟲數ノ多少ハ襲來初期ニ於テ其ノ差大ニシテ稻ノ發育進ムニ隨ヒ次第ニ其ノ差ヲ減ス
- 3 第一及第二兩試驗地ノ位置及椿象襲來模様ヨリ判斷スルニ襲來初期ハ氣候ノ關係上其ノ飛翔力極メテ微弱ナルモ溫度ノ加ハルニ隨ヒ其飛翔力ヲ増加スルモノノ如シ
前試驗地ニ於ケル玄米收量ヲ示セハ次ノ如シ

	第一 試驗地		第二 試驗地	
	品 種 名	反當玄米收量	品 種 名	反當玄米收量
第一區(早植區)	福井大場一號	一、〇二九 ^石	福井大場一號	一、三〇二 ^石
第二區(普通植區)	福井大場一號	一、二〇二	福井大場一號	一、四一四
第三區(遲植區)	鹽田	一、三一一	白珍子	二、三九三
第四區(最遲植區)			白珍子	二、四九一

煙草粉試驗

目的 本試驗ハ黑椿象ノ幼蟲驅除ニ對シ煙草粉ノ効果ヲ知ラントス

方法 灌溉水ハ株際土面ノ濕潤セルヲ程度トシテ全部排除シ稻株及蟲體相當濕潤ナル時期ニ煙草粉反當十八貫ノ割合ニテ各株毎ニ株上ヨリ手ニテ撒布ス

第一回 煙草粉驅除實驗 大正十三年七月三十一日

蟲ノ發育程度 孵化當時乃至四齡

煙草粉 一株一匁二分(反當十八貫ノ割)

一株ノ蟲數 六十匹

三十分後ノ生死蟲數 生 ○

死 六十匹

歩 合 死 百分

以上ノ實驗ニヨリ煙草粉ノ效果大ナルヲ確メ次ノ如ク實地試驗ヲ施行セリ

第二回 煙草粉實地驅除試驗(其一) 大正十三年七月二十一日

蟲ノ發育程度 孵化當時乃至四齡

煙草粉 反當十八貫

施行ニ要セシ時間 二畝歩一人十七分(一反當一時間二十五分)

施行試驗場所々二、三十株ニ就キ幼蟲存在數ノ大略ヲ調査シ置キ施行一日後特ニ同株ニ就キ殘存蟲數ヲ調査スルニ殆ント生存蟲ヲ認メス推定九十%以上ノ效果ヲ確ム

諸問事項及其ノ答申

第三回 煙草粉實地驅除實驗（其二）大正十三年八月一日

蟲ノ發育程度 孵化當時乃至四齡

煙 草 粉 反當十八貫

方 法 手ニテ撒布

施 行 面 積 四 畝 步

施行ニ要セシ時間 三十分（一反步一時間十五分）

施行一日後殘存蟲數ヲ調査セシニ殆ント生存蟲ヲ認メス唯施行ニ際シ偶然撒布漏ヲ生セシ株ニハ多數ノ生存蟲ヲ認メ効果九十%以上ナルヲ確ム

第四回 煙草粉實地驅除實驗（其三）八月七日

蟲ノ發育程度 孵化當時乃至五齡初期

煙 草 粉 反當十五貫

方 法 手ニテ撒布

施 行 面 積 二 畝 步

施行ニ要セシ時間 不 明

本試驗ハ縣郡農會技術員、穀物検査員等十三名ニテナシ一日後其ノ成績ヲ調査セシニ前二回ト同様九十%以上ノ効果ヲ認ム

以上數回ノ試驗ノ成績ニ依リ黑椿象幼蟲（一齡乃至四齡）ニ對シテ煙草粉反當十五貫乃至十八貫ヲ各株毎ニ雨天乃至早朝夕刻等ノ稻株及蟲體ノ濕潤ナル時ニ撒布スル時ハ幼蟲九割以上ヲ死滅セシムルヲ得ルヲ知レリ

黒椿象幼蟲ニ對スル煙草粉ノ効果成績（其一）

早生種早珍子ニ就キ坪刈成績

一、坪刈供試田、隣接スル二田圃ニシテ同一品種早珍子栽培田ニ就キ九月二十日坪刈ヲ行ヘリ
栽培法ハ兩田圃トモ無肥料栽培ニシテ煙草粉施用田ハ坪四十五株植不施用田ハ六十株植トス

一、椿象成蟲手捕殺回数

第一區煙草粉施用區 六月下旬ヨリ八月初旬迄成蟲ヲ手ニテ捕殺二回、八月十日煙草粉反當二十貫匁ヲ面積約四畝
步ニ施用

第二區同不施用區 六月下旬ヨリ八月初旬迄成蟲ヲ手ニテ捕殺二回、八月上旬ヨリ中旬迄ニ成蟲幼蟲ヲ手ニテ捕

殺二回面積約二畝十五步

一、坪刈當時ニ於ケル兩區生育狀況

第一區煙草粉施用區

附近普通煙草粉使用田ノ生育ト同様ナルモ分蘖、草丈、穗長等ハ無被害地方ノ本年本種（早珍子）ノ生育ニ比シ著シク見劣レルモ椿象被害穗ヲ認メス唯點々被害粒ヲ見ルノミ刈取り當日ニ於ケル椿象蟲ノ生棲ハ殆ント之ヲ認メス

第二區 不施用區分蘖、草丈、穗長、第一區ニ比シ著シク劣等ニシテ出穂セルモノハ過半ハ被害枯穂ニシテ唯點

々完全粒ヲ認ムルノミ

一、坪刈成績

	一坪當生粃收量	反當生粃收量	反當玄米收量擧歩 合三五%トシテ	差
第一區煙草粉反當二十貫施用區	一、八六七 ^升	五、六二八 ^石	一、九七〇 ^石	(±) 〇、五四六 ^石
第二區 不施用區	〇、四〇二	一、二一〇	〇、四二四	—

一、煙草粉効果經濟關係

反當增收量	價格 (石三十五圓)	煙草粉代 (反廿貫、六貫俵一俵ニ付二圓六十八錢)	差引利益
一、五四六 ^石	五四、一一 ^圓	八、九三 ^圓	四五、一八 ^圓

(五) 大阪府

李ノ害蟲玉介殼蟲驅除ニ赤星瓢蟲ノ偉大ナル効果アリシ實例

大正十一年五月府下駒ヶ谷村大字飛鳥李栽培者カ「たまかいがらむし」ノ發生セルヲ認メ今村役場及郡役所ヲ經由シ右被害標本ヲ提示シ其害蟲名及驅除法ノ指導ヲ乞ヒシヲ以ラ之ヲ檢セシニ前記「たまかいがらむし」ナルヲ確メ直ニ其驅除ノ沿革ヲ稽フルニ十數年前神奈川縣ノ李樹ニ明治四十三年長野縣ノ楓樟樹ニ發生シ何レモ其驅除ニ多大ノ辛酸ヲ嘗メタルヲ知リ府立農事試驗場及府ノ害蟲驅除委員ヲシテ慎重之カ驅除法ヲ審議對究セシメタル結果之ヲ二期ニ分チ驅除セシムルコトトシ其第一回ハ發芽前石灰硫黃合劑ヲ發芽後五月下旬孵化期ニ際シ松脂合劑ノ灌注驅除ヲ行フ計畫ヲ定メ差當リ十一年度ハ松脂合劑ノ驅除ヲ實行セシメ農事試驗場病蟲主任及府ノ害蟲驅除委員ヲシテ其ノ指導並ニ監督ニ當ラシメ大正十四年三月迄組織的ニ之カ驅除豫防實施ニ從事セシメタリ其結果松脂合劑ノ夏季灌注ノ約八割石灰硫

黄合劑ノ發芽前灌注ハ約三割ノ死滅率ヲ見タルモ繁殖力ノ偉大ナル該蟲ハ驅除毎ニ幾割カノ殘存蟲ヲ見十月末被害樹ヲ巡視スレニ殆ント前年同様ノ發生被害ヲ爲シ爲ニ大正十二年度モ十三年度モ三町五反歩ノ李樹ハ一顆ノ收穫ヲモ見サルノ慘害ヲ受ケ如何ニ驅除ニ熱心ナリシ當業者モ將ニ李樹ヲ伐採シテ代フルニ葡萄樹ヲ栽植セント企ツル者サヘ生セリ然レトモ府下ノ葡萄樹ハ年々増殖セラレ今ヤ其栽植ノ極度ニ達セントセルノ狀況ナルヲ以テ李ノ維持ヲ獎勵シ大正十三年六月驅除委員ヲシテ赤星瓢蟲二百頭ヲ採集シ來ラシメ試ミニ「たまかいがら」發生ノ中心地三樹ニ之ヲ放飼セシメタルニ其効果極メテ顯著ニシテ當年五月下旬松脂合劑驅除後ニ殘存セシ害蟲ノ全部ヲ食滅シ被害樹ノ成育ハ勢見ル見ル回復シ同年十月其効果ノ偉大ナルヲ確メタルモ更ニ本年六月四日害蟲驅除委員ヲシテ被害地ヲ巡視セシメ天敵瓢蟲ノ狀況ヲ調査セシメタルニ害蟲ハ殆ント絶滅シ容易ニ其ノ形態ヲ發見シ得サルノ狀況ニシテ天敵瓢蟲ハ時恰モ一齊ニ蛹化シ被害樹ノ各枝ニ念珠繋キニ附着シ李樹ハ樹勢旺盛結實豐饒平均反當收量六七百貫ヲ豫想セラレ（最モ優良ナルモノハ反當約九百貫）二年間打續ケル收穫皆無ヨリ一轉シテ李栽植以來ノ絶對最大收穫ヲ豫想セシム之レニ天敵利用ノ効果ニシテ柑橘「イセリア」介殼蟲ニ對スル「ペタリア」瓢蟲ノ効果ニ劣ラサル偉大ナルモノタルヲ認メタリ之カ爲メ該地方當業者ニ李栽培者ニ熱心ト勇氣ヲ倍加セシメ病蟲害驅除豫防ノ效果ノ偉大ナルヲ感受セシメタルノミナラス府下三十町歩ノ李栽培者及隣接セル京都府寺田李ノ產地ニ多大ナル福音ヲ齎スヘキ事例タルヲ信ス

（六） 岡 山 縣

イ、小麥種子ノ發芽ヲ害スル跳蟲

明治三十七八年頃ヨリ縣下兒島郡興除村ニテ該蟲ノ被害ヲ認メ最近ニテハ同村附近一帶並ニ邑久郡地方ニ於テ發生甚シク到底完全ナル發芽ヲ見ル能ハサルニ至レルヲ以テ大正十年度ヨリ農事試驗場ニ於テ之レカ經過習性並ニ防除ニ關スル試驗研究ヲ開始シ今尙繼續中ニ在ルモ該蟲ノ被害ハ種子ノ早播ニヨリ完全ニ豫防シ得ルコトヲ確メタルヲ

以テ之レカ實行宣傳ニ努メ相當効果ヲ舉ケツ、アリ

ロ、桃赤蟲ノ防除

該蟲ハ大正元年頃ヨリ一二局所のニ被害ヲ認メ大正六年頃ヨリ俄カニ被害激甚トナリ縣下桃栽培ノ前途憂慮スヘキ状態トナリタルヲ以テ農事試驗場ニ於テ大正八年ヨリ五ヶ年間該蟲ノ經過習性並ニ防除ニ關スル試驗研究ヲ行ヒ「袋掛ノ改良」「犠牲果誘殺」ノ方法ニヨリ防遏シ得ル事實ヲ確メ之レカ指導宣傳ニ努メタル結果現在ニ於テハ被害地ノ當業者皆該方法ヲ實行シ殆ト被害ヲ免カル、ニ至レリ

ハ、葡萄粉蟲ノ驅除

該蟲ハ明治四十三年縣下小田郡小田村ニ於テ發見セル以來各地ノ葡萄園ニ發生セリ葡萄葉ニ寄生シ汁液ヲ吸收スル結果果實ノ成熟ヲ著シク阻害シ非常ナル損害ヲ被ラシメタルモノナリ最初發生ヲ認ムルヤ直チニ農事試驗場ニ於テ經過習性ノ研究ヲ行ヒ秋季落葉前ニ至レバ葡萄ヨリ轉シテ木斛葉ニ寄生シ越冬スルノ事實ヲ確カメタルヲ以テ各地ノ被害地ニ於テ春期發芽前迄ニ木斛ヲ伐採セシメタルニ（伐採スル能ハサル事情アルモノハ葉柄ヨリ摘ミ取ラシム）完全ニ之レカ被害ヲ防キ得ルニ至レリ

(七) 愛 媛 縣

三化螟虫ニ對シ移植時期ノ繰下ケ統一

本縣立農事試驗場ニ於テ明治三十四年以降各種試驗並ニ實地調査ノ結果該蟲ノ大發生地ハ稻ノ移植期間長期ニ亘リ早キハ五月中旬ヨリ晚キハ六月中、下旬ノ早晚植アル地方ニシテ加之早晚稻ノアル場合ニ於テ晚稻ノ著シキ大被害ヲ被リ之ニ反シ六月下旬前後ニ短期間ニ於テ移植ヲ行ハルル地方ニ於テハ全々之カ被害ナキヲ認メタルヲ以テ水利關係等ニ於テ支障ナキ地方ニ發生スル該蟲ニ對シ稻移植時期ヲ第一化期產卵化終了後ニ行ハシムルコトトシ之カ實行ニ依リ

著シク其ノ大發生ヲ防止シ得タル地方次ノ如シ

イ、宇摩郡川之江、三島町間（六百五十町歩）大正三年以降

ロ、新居郡東部（高津、神郷、垣生村）（四百町歩）大正五年以降

ハ、周桑郡中川村（二百町歩）大正六年以降

ニ、南宇和郡全部（千百五十町歩）大正十三年

就中南宇和郡ニアリテハ大正元年本蟲發生ニ際シ株堀焼却處分ヲ施行セル地方ニシテ大正十二年再ヒ大發生ヲ來シ當年實收高一萬五百三十三石ニシテ平年收量ニ比シ九千石ノ減收ヲ來セリ此處ニ於テ縣、郡協力稻移植期繰下統一ヲ獎勵指導シタル結果十三年度ニ於テハ實收二萬千百九十二石前年ニ比シ一萬石、平年ニ比シ三千餘石ノ增收ヲ舉ケタリ斯ノ如ク十三年度ニ於テハ近年稀有ノ旱魃年ナリシニ不拘如上ノ記錄ヲ得タルコトハ蓋シ本法ノ偉効ト稱スヘキナリ

三、共同的ニ驅除豫防ヲ行ヒ成績優良ナルモノアラハ其ノ事例

右事例ニ關シ道府縣ヨリ答申アリタルモノ全部ヲ輯録スルコト困難ナルヲ以テ比較的參考トナル可モノト認メタルモノノミヲ茲ニ摘記スルコトトセリ

（一） 宮 城 縣

一、名 稱 牡鹿郡蛇田村谷地農事改良組合

二、所在地 宮城縣牡鹿郡蛇田村下谷地四十七番地

三、沿 革 大正十年小學校教員御宿及同村僧侶枝倉ノ兩氏谷地區ノ青年團ヲ指導シ孟春俱樂部ヲ設立セリ（當時ハ專ラ精神修養ニ勉メタリ）

大正十二年ヨリ二、三名共同シ病蟲害驅除豫防藥劑ノ共同調劑ヲナセリ、大正十三年二月十九日同組合ヲ設立スルニ至レリ

四、地 區 谷地一圓（關係者三十三名）

五、目 的 病蟲害驅除豫防及蔬菜ノ採種共同出荷

六、組織ノ大要 別記ノ通り

七、經費並ニ經費徵收ノ方法 別記ノ通り

八、事業ノ施行狀況及成績 別記ノ通り

九、事業ノ發達ニ關スル今後ノ見込 漸次發達ノ見込

一〇、本事業ノ改善發達ニ關シ特ニ注意スヘキ事項ナシ

一一、其地參考トナルヘキ事項ナシ

一二、規約等 別記ノ通り

蛇田村谷地農事改良組合規約

第一條 本組合ハ組合員一致協力シテ農業改良ヲ實行シテ所屬農會ノ發達ヲ助ケ共存共榮ノ實ヲ舉クルヲ以テ目的トス

第二條 本組合ハ蛇田村谷地農事改良組合ト稱ス

第三條 本組合ハ蛇田村字谷地區一圓ヲ設置區域トス

第四條 本組合ハ設置區域内ニ居住スル蛇田村農會員ヲ以テ組織ス

第五條 本組合ハ其ノ目的ヲ達スル爲左ノ事業ヲ行フ

一、共同病蟲害驅除豫防

二、共同採種圃

第六條 本組合ニ左ノ役員ヲ置ク

組合長一名、副組合長一名、委員七名

第七條 組合長ハ組合事務ヲ總理シ組合ヲ代表ス

副組合長ハ組合長ヲ補佐シ組合長事故アルトキハ之ヲ代理ス委員ハ組合長ノ指揮ヲ受ケ組合事務ニ從フ

第八條 役員ハ組合員中ヨリ互選シ其ノ任期ハ事業年度ニ從ヒ三ケ年トス但再選ヲ妨ケス

第九條 役員ハ名譽職トス

第十條 本組合ハ毎年二月及十一月ノ二回定期總會ヲ開クモノトス

第十一條 總會ニ於テ決議スヘキ事項左ノ如シ

一、役員ノ選舉

二、年度内實行事業ノ計畫

三、收支豫算並賦課徵收方法

四、規約ノ變更

五、其他必要ナル事項

第十二條 總會ハ組合員半數以上出席ヲ要シ出席者ノ過半數ヲ以テ決議ス

第十三條 本組合ノ經費ハ組合員ノ負擔トス

但シ寄附ヲ受クルコトヲ妨ケス

第十四條 本組合ノ事業年度ハ四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ終ルモノトス

第十五條 本組合ニ左ノ帳簿ヲ備付クルモノトス

一、組合員名簿

二、會計ニ關スル帳簿

三、各種統計及記錄

第十六條 總會ノ決議及事業成績ハ其ノ都度蛇田村農會ニ報告スルモノトス

第十七條 組合員ハ本規約ヲ遵守シ之カ實行ヲ誓約スル爲署名捺印スルモノトス

蛇田村谷地農事改良組合共同病蟲害驅除豫防規程

第一條 共同病蟲害驅除豫防ニ關シテハ本規約ニ依ル外總テ本規程ニ據ルモノトス

第二條 共同病蟲害驅除豫防ニ關スル事業及其ノ施行方法左ノ通り定ム

一、馬鈴薯

一、五月中旬莖丈三寸位ニ成長シタルトキ三斗五升式ボルドウ液

二、其ノ後二週日毎ニ二斗五升式ボルドウ液（亞砒酸加用）

二、胡瓜

一、定植七日前六匁式銅石鹼液

二、定植後活着シタルトキ六匁式銅石鹼液

三、其ノ後二週間毎ニ三斗式ボルドウ液（砒酸鉛加用）

三、茄子

一、苗床地ハ播種二十日前石灰窒素坪六十匁使用

二、移植後一週間前六匁式銅石鹼液

三、活着後二週間毎ニ三斗五升式（二回）（砒酸鉛加用）

四、甘 藍

一、結球シ初メタル頃ヨリ二週間毎ニ二斗五升式ボルドウ液（カゼイン石灰加用）

二、病菌發生シタル莖葉ハ燒却シ其ノ跡ヲ消毒スヘシ

五、結球白菜

一、葉五、六枚生シタルトキ六匁式銅石鹼液（砒酸鉛加用）

二、二週日毎ニ八匁式銅石鹼液（但收穫三十日前ニ止ム）

三、病菌發生シタル莖葉ハ甘藍ト同一方法ヲ行フ

六、長 薺

一、七月下旬葉完全ニ成長シタルトキ三斗式ボルドウ液

二、其ノ後ハ二週日毎ニ二斗五升式ボルドウ液（亞砒酸加用）

七、驅除豫防實施方法

一、天候及病菌害蟲發生ノ狀況ニ依リ藥劑ノ種類及分量施行期ヲ變更スルコトアルヘシ

二、藥液ノ配付ヲ受ケタルトキハ各自ニ於テ直チニ撒布スルコト

三、組合長ハ驅除豫防劑調製ニ要スル人夫出役ノ方法等ヲ定メ委員ニ通知ス

四、共同病蟲害驅除豫防ニ要スル消耗品ハ藥劑使用量ニ應シ按分種類別ニ定メテ徵收スルモノトス

五、病蟲害驅除豫防ニ要スル備品費ハ組合員平等據出スルモノトス

六、組合ニハ病蟲害驅除豫防日誌ヲ備付ケ組合長ニ於テ日々作業其他ヲ記錄スルモノトス

七、藥劑撒布ノ翌日組合長ハ撒布場所ヲ巡視シ藥害ノ有無及其ノ効果ノ程度ヲ調査スルモノトス

八、栽培上左記ノ事項ニ注意スルコト

一、肥料ノ配合

二、空氣ノ流通日光透射乾濕ノ度

八、特殊害蟲驅除

一、蚜蟲

二、二式除蟲菊粉加用石鹼液

二、二式又ハ三式石鹼液

二、サルハ蟲

二十倍ノ石油乳劑（除蟲菊粉三斗ニ對シ五十匁使用）

栽培反別（申込）

大正十三年度

馬鈴薯	胡瓜	茄子	甘藍	白菜	長菜	黃	計
四、三〇町	一、一一町	三、三三町	一、八六町	二、四四町	一、〇四町	一、〇四町	一四、一一町

事業成績（大正十三年度）

一、馬鈴薯實施反別 五町二反歩

五月十日ヨリ三回亞砒酸ボルドウ液撒布

二、胡瓜實施反別 一町一反歩

床四月二十日ヨリ二回銅石鹼液撒布

本畑五月十五日ヨリボルドウ液六回撒布

除蟲菊粉加用石鹼三回使用

三、茄子實施反別 三町五反

六月十日ヨリ三回砒酸鉛加用銅石鹼液使用

除蟲菊粉加用石鹼液三回使用

四、甘藍實施反別 二町歩

秋蒔ハ六月十日ヨリ二回カゼイン石灰加用ボルドウ液

五、結球白菜實施反別 二町七反二畝歩

九月一日ヨリ銅石鹼液三回撒布

六、長蕒實施反別 一町一反歩

七月十五日ヨリボルドウ液二回撒布

八月十七日ヨリ亞砒酸加用ボルドウ液撒布（二回）

谷地農事改良組合共同病蟲害驅除豫防收支決算（大正十三年度）

收 入

種	目	豫算高	決算高	増減	備考
一、組	合 費	四三、〇〇 _円	四九、〇〇 _円	六、〇〇 _円	△ハ減ヲ示ス

二、寄附金	五〇、〇〇	九〇、〇〇	四〇、〇〇	
三、補助金	一五〇、〇〇	一四四、〇〇	六、〇〇	
四、藥品代	一一五、四八	二二〇、七八	一〇五、三〇	
計	三五八、四八	五〇三、七八	一四五、三〇	

支出

一、機械購入費	一九九、二〇 ^円	二八六、五〇 ^円	八七、三〇 ^円	噴霧器、藥箱、錠、調製用桶、秤 液量器、運搬桶、枺、鍋、柄杓
二、消耗品費	七、五〇	七、五〇	—	ゴムホース、木綿
三、藥品代	一二一、九六	二〇七、四八	八五、五二	硫酸銅、生石灰、亞砒酸、炭酸曹 達、粉石鹼、砒酸鉛、除蟲菊粉
四、雜支出	二九、八二	二、三〇	二七、五二	
計	三五八、四八	五〇三、七八	一四五、三〇	

(二) 長野縣

一、名稱 飯島農事小組合

二、所在地 諏訪郡四賀村字飯島

三、沿革 明治十三年該村飯島、里見庄一郎梨樹苗木五十本ヲ山梨縣ヨリ買求メ六畝步程ノ畑ニ植付ケ栽培ニ努ム
ルニ結果頗ル優良ナルヨリ附近ノ農家之ヲ見倣ヒ漸次該樹ノ栽培ヲ見ルニ至レリ其ノ結果病蟲害ノ被害甚シクナリ
其儘放置スルトキハ豫期ノ成績ヲ擧ゲ得ルコト到底困難トナルニ至ランコトヲ該村飯島、河西民作氏憂ヒ大正八年

四月果樹組合ヲ設置シ該區一帶ノ梨ノ消毒ニ努メ優秀ナル成績ヲ舉クルニ至レリ

大正十年四月果樹組合ノ名義ヲ農事小組合ト改メ前述ノ病蟲害ノ防除ニ努ムルコトハ勿論今日ニテハ梨樹ノ肥料試驗肥料藥劑共同購入、藥劑ノ共同調製、生産物ノ共同販賣等ヲナスニ至レリ

四、地區及關係者員數

飯島區一圓梨樹栽培者十八名

五、目的

病害蟲ノ共同驅除、藥ノ共同購入生産物ノ共同販賣、梨樹栽培法ノ研究

六、組織ノ大要

組合長一名、理事二名、會計二名、指導員一名

七、經費並經費賦課徵收方法

大正十三年度

收入總額 金四百九拾貳圓五拾錢

支出總額 金四百九拾貳圓五拾錢

收入內譯

種	目	金	額	事	由
反別割	割	三一、五〇〇	門	總反別三町五反歩一反歩九十錢ノ割	
人頭割	割	九、〇〇〇		組合員十八名一名五十錢ノ割	

前年度繰越金	四、〇〇〇	
藥品共同購入割	四四八、〇〇〇	藥品共同購入割ニヨリ徴收ス
合計	四九二、五〇〇	

支出内譯

種目	金額	事由
役員報酬	三五、〇〇〇 ^円	組合長一名、十圓(事務所費ヲモ含ム)理事二名十圓、會計二名十圓、指導員一名五圓
雜費	九、五〇〇	硫黃華、硫酸銅、生石灰、硫酸ニコチン、砒酸鉛、カゼイ
藥品共同購入費	四四八、〇〇〇	ン石灰、アデカ石鹼
合計	四九二、五〇〇	

八、事業ノ施行狀況及成績

栽培ニ關スル事項及病害蟲ノ防除ハ別冊年中行事曆ニ據リ施行ス尙生産物ハ縣外へ共同販賣トナス其他肥料成績及石灰硫黃合劑ノ共同調製ヲナシ之ヲ組合員ニ配付シツツアルカ其成績頗ル優良ニテ組合員ヲ益スルコト大ナリ

九、事業發達ニ關スル今後ノ見込

最近漸ク該業ノ有利ナルコトヲ自覺シ果樹園ノ擴張及新ニ果樹園ヲ設置スルモノ増加スルニ至レリ

一〇、本事業ノ改善發達ニ關シ特ニ注意スヘキ事項

一、組合員ノ研究心ヲ養成セシムルコト

二、最有利ニ販賣スル生産物共同販賣方法

一一、規約

第一條 本組合ハ四賀村飯島第一農事小組合ト稱ス

第二條 本組合ハ組合員協力一致シ左記要項ニ據リ専ラ梨樹栽培ノ獎勵及改善經濟的施設ノ實行ヲ期スルヲ以テ目的トス

(イ) 漸次老木ヲ除キ且ツ優良品種ニ改植統一スルコト

(ロ) 剪定整枝ヲ完全ニ行フコト

(ハ) 肥料ノ配合ヲ合理的ニ且ツ適量ヲ施スコト

(ニ) 摘果並ニ袋掛ヲ完全ニ行フコト

(ホ) 病菌害虫ノ驅除豫防ヲ完全ニ行フコト

(ヘ) 梨果ノ販賣ヲ共同的施設ニヨリ有利ヲ計ルコト

(ト) 果實ノ貯藏ヲ完全ニ行フコト

(チ) 園藝物資ノ共同購入ヲナスコト

第三條 本組合ハ四賀村字飯島區々域内ニ於テ専ラ梨樹栽培ニ従事スル同志ヲ以テ組織ス

第四條 本組合ノ事務所ハ四賀村四百五十三番地ノ内一番ニ置ク

第五條 本組合ニ左ノ役員ヲ置ク

組合長 一 名

理事 二 名

諮問事項及其ノ答申

會計 二 名

指導員 一 名

第六條 組合長ハ組合ヲ代表シ且ツ組合事務一切ヲ執掌シ理事ハ組合長ヲ補佐シ或ハ代理シ其諮問ニ答ヘ事業計畫

事務整理ニ任シ會計ハ組合員事業全部ノ會計ニ任ス指導員ハ懇切ニ指導スルモノトス

第七條 役員ノ選舉ハ總會ニ於テ組合員ノ互選トス

第八條 役員ノ任期ハ滿二ケ年トシ再選スルモ差支ナシ

第九條 組合會ハ通常會臨時會ノ二種トシ通常會ハ毎年一回トシ臨時會ハ必要ニ應ジ組合長之ヲ召集ス

第十條 組合ノ經費ハ組合員ノ負擔トス

第十一條 組合事務所ニハ左ノ帳簿ヲ備フ

組合員名簿 組合規約 作付臺帳

累年成績臺帳 收支豫算會計簿 組合日誌

大正拾貳年一月調製
大正拾四年一月訂正

梨樹栽培

年中行事曆

附 月次研究會規約

諏訪郡四賀村飯島第一農事小組合

栽培ノ案

- 一、各一家族ノ勞力ニテ足ルヲ限度トシ最モ集約的ニ栽培スルコト
- 二、病虫害ノ防除ヲ勵行シ之カ絶滅ヲ期スルコト
- 三、剪定、整枝、肥料等總テ合理的ナルコト
- 四、優良ナル系統ノ品種ニ統一スルコト

【一 月】

一月次研究會

二 組合定期總會

前年會計報告、經費豫算議定、滿期役員改選、年中行事曆改訂、共同購入品所要數量取纏メ等

(共同購入品々目) 硫酸銅、生石灰、

硫黃華、砒酸鉛、酸曹液、粉末煙

草、古新聞紙、小繩、バトロン紙

カゼイン石灰、硫酸ニコチン、粉

石鹼、アデカ石鹼、粉末除蟲菊等

補 遺

一

二

三

諸問事項及其ノ答申

【二 月】

一月次研究會

二 梨袋調製

一反步約二萬ノ袋ヲ用意スヘシ
(東京新聞紙型八ツ切形)

補 遺

一 古皮削去

二

三

【三 月】

一月次研究會

二 梨袋調製

三 剪定、整枝

遅クモ初旬中ニ調製ヲ終ルヘシ

中旬ヨリ剪定、整枝ニ從事シ彼岸

前ニ終ルヘシ

前年ノ例ニ依ルモ枝ノ密ニ過クル

諸問事項及其ノ答申

四四

ハ病虫害ヲ招キ易シ特ニ注意肝要ナリ

月末ヲ期シ組合員總出ニテ梨園全部ヲ巡視批評ス

四 施 肥

薑芽ノ間引モ怠ルヘカラス一ヶ所ニ二三個ノ花芽アレバ充分也

補 遺

但シ郡農會技手ノ臨監ヲ請フ事アリ

左ニ記載セル本縣農事試驗場施肥標準ヲ參考スヘシ

肥料ハ彼岸中ニ必ス施スヘシ

日本梨一本當

一 二 三

窒 素 燐 酸 加 里

【四 月】

十年生 八〇匁 九六匁 九六匁

一 月次研究會

十一年生 同 同 同

二 カゼイン石灰

本月十日頃迄ニ撒布スヘシ（大平種ニハ撒布セス）

十二年生 八六 一〇四 一〇四

加用石灰硫黃

種ニハ撒布セス）

十三年生 同 同 同

合劑撒布

ボーメー四度乃至五度 自製品五倍 酸曹液七倍

十四年生 九三 一一三 一一三

十五年生 同 同 同

三 蚜虫及梨木虱

棚ノ結ヒ換ヲナスト同時ニ繩ノ結

ノ成虫捕殺

ヒ目等ニ潜メル虫ニ注意スヘシ

現ハレテ花芽、葉芽ノ側ニ産卵ス細キ棒ニ鳥モチヲ纏ヘルモノヲ用

六 中 耕

淺ク耕スヘシ

意シ置ケハ捕殺容易ナリ

四 硫酸ニコチン

廿日前後脱苞ノ頃ボルドー液二斗

砒酸鉛カゼイ

五升式一斗ニ砒酸鉛二十五匁硫

ン石灰加用石

酸ニコチン一匁カゼイン石灰五匁

灰ボルドー液

加用液撒布 黒星 赤星病豫防

撒布

種々ナル芽虫ノ驅除

補遺

一

二

三

【五月】

一 月次研究会

二 硫酸ニコチン

一二日頃開花直前ニ作業スヘシ

カゼイン石灰

尙ホボルドー液一斗ニ對シカゼイ

砒酸鉛加用三

ン石灰五匁硫酸ニコチン一匁砒酸

斗式石灰ボ

鉛貳拾五匁加用撒布

三 開花中鋸蜂

梨園中最モ早ク開花セルモノ又ハ

ニ注意

花ノ密集(長十郎等)シテ咲ケルモ

ノニ集マルヲ以テ打落法ヲ行フヘ

諸問事項及其ノ答申

四

硫酸ニコチン

十日ヨリ十二三日頃(落花直後)

カゼイン石灰

シ 集來特ニ甚タシクハ硫酸ニコ

砒酸鉛加用三

チン一匁アデカ石鹼三十匁 水一

斗式石灰ボ

斗合劑撒布

ドー液撒布

五 梨木虱ノ幼虫

驅除

中旬頃ハ梨木虱ノ幼虫現ハル、時

期ナルヲ以テ鋸蜂ノ幼虫驅除ヲモ

兼ネテ石灰煙草粉合劑撒布可ナリ

生石灰一貫匁

煙草粉三百匁(水二石ノ割

見附ケ次第之ヲ處理シ他果ヘ移ラ

サル様スヘシ

六 鋸蜂ノ喰ヒ込

七 除虫菊加用八

匁式銅石鹼液

廿日頃撒布スヘシ 粉未石鹼五十

撒布

匁硫酸銅 八匁 六匁除虫菊廿

鋸蜂ノ殘有セルモノ及梨木虱等ヲ

モ併セ驅除シ得

八 大心喰虫幼蟲

下旬迄ニ至レハ幼蟲ノ梨果ニ喰入

捕殺

ルモノ現ハル、ヲ以テ捕殺スヘシ

九 第一回摘果

下旬一花序ニ二個以上アルモノ及
枝ノ先端若クハ密ニ過クルモノヲ
摘果スヘシ

補 遺

一

二

三

【六 月】

一月次研究會

二 誘蛾燈點火始

メ

本月上旬ヨリ葉捲蟲ノ蛾順次發生
ス點燈誘殺スヘシ

三 除蟲菊加用八

匁式銅石鹼液

上旬撒布スヘシ此時期概ネ多濕ニ
テ黒星病ノ發生スルアリ

撒布

尙ホ姬心喰ノ蛾飛ヒ出スコトアリ

捕殺スヘシ

四 皮モクリ蛾幼

蟲潰殺

剝離セル表皮ヲ除去シ幼蟲ヲ潰殺
スヘシ

五 第二回摘果

五日頃ヨリ十日頃迄ニ摘果シ大心

附 大心喰蟲

捕殺

喰蟲ノ喰ヒ込メルモノニ注意スヘ
シ 二間四方ニ擴カレル樹一本ハ

百四十四平方尺ノ面積ヲ有ス一平

方尺ニ一個半トスレハ一本ニ二百

十六個ノ梨果ヲ得此ノ内二割ヲ減

スルモノトシ平均六十匁トスレハ

一樹十貫五百匁ヲ收量ス若シ平均

七十匁ノ好成绩ナレハ正ニ十二貫

百匁ヲ收得ス 以テ標準トス

六 摘果狀況大巡

檢

十二三日頃組合員總出ニテ各梨園
摘果ノ狀況ヲ巡視批評ス

七 袋 掛

本月中旬ヨリ始ムルヲ適期トス其
レ以前ハ宜シカラズ袋ハバトロソ

紙ヲ用フヘシ

八 追 肥

下旬適當ナル即効性肥料ヲ用フヘ
シ

補 遺

一

二
三

【七月】

一 月次研究會

二 葉捲蟲
赤ダニ驅除

砒酸鉛カゼイ

ン石灰加用石

灰水

上旬ヨリ葉捲蟲ノ幼蟲發生シ葉ヲ
損シ果實ヲ害ス

前年ハ此ノ期ニ赤ダニモ發生セリ

砒酸鉛四十匁、カゼイン石灰二十

匁生石灰四十匁、水一斗ノ溶液撒

布

但シ新梢ニ黒星病發生ノ徵アラ

ハ銅石鹼液八匁式トシテ撒布ス

ヘシ

三 夏期剪定

上旬乃至中旬迄ニ行フ（新梢ノ木
質化當時ヲ適期トス）

一 樹全體日光ニ浴ス 二 樹姿調

ヒ通風ヲヨクス 三 樹液ヲ無用

ニ費ササルカ爲メ果實良ク發育シ

諮問事項及其ノ答申

四 下敷

五 袋調へ

六 姫心喰蟲蛾驅

除

補 遺

一

二

三

【八月】

一 月次研究會

二 姫心喰蟲幼蟲

驅除

且明年ノ花芽充實ス 四 徒長枝

ヲ果枝化シ得 五 病蟲害ヲ輕減

シ得

畑ニヨリ必要アルモノハ此ノ期ニ

行フヘシ

見廻リテ袋ノ檢查ヲナシ損シタル

モノヘハ袋ヲ重テ掛クヘシ晩三吉

種等ノ最晩熟種ニ重テ袋掛スヘシ

下旬ニ蛾發生スカゼイン石灰砒酸

鉛加用石灰水ヲ撒布スヘシ

中旬頃ニ至レハ早熟ノ眞鍮其ノ他
ノ梨果ヘ幼蟲喰ヒ込ムヘシ日々見

廻リテ被害果ヲ處分スヘシ

此ノ作業最モ必要ナリ後ノ大害ヲ輕減シ得

三 第二回夏期剪

定

腋芽ヨリ伸長セル二番枝ノ勢力強キモノハ二三葉ヲ殘シテ剪定スヘシ

四 袋調へ

袋ノ檢査ヲナシ被害果ハ處分シ早生赤種及其ノ他ノ晩熟種ハ破レタルモノニ重ネテ袋掛ス

五 姬心喰蟲蛾赤

ダニ驅除

下旬若クハ來月上旬酸曹液三百倍液カゼイン石灰十匁(一斗ニ付)加用液撒布スヘシ

補 遺

一

二

三

【九 月】

一月次研究會

二 除 袋

長十郎其他凡ソ採收十日前ニ除袋スヘシ

三 蟲害果處分

除袋ト同時ニ蟲害果ヲ處分スヘシ機逸スヘカラス

補 遺

一

二

三

【十 月】

一月次研究會

二 除 袋

初旬早生赤其ノ他除袋シ蟲害果ヲ處分スヘシ

附蟲害果處分

三 補 肥

梨果收穫終ラハ衰弱ノ樹ニハ液肥ヲ施シ樹勢ノ恢復ヲ計ルヘシ

補 遺

(一) 毎月四日ヲ期シ早夕飯ニテ當番ノ宅ニ會合ス

但シ金壹圓掛ノ無盡ヲ行ヒ取番ニ當リタルモノヲ其ノ來月ノ當番トス

(二) 年中行事曆ニ據リ前月中實行セル成績ヲ互ニ語リ合ヒ尙ホ當月實行スヘキ事業方法等ヲ研究ス

(三) 他ノ事業ノ爲メ多忙若クハ支障アリテ當月ノ行事ヲ自ラ爲ス能ハサルモノアルトキハ豫メ代リテ作業スヘキ者ヲ定ム

但シ此ノ場合ニハ相當ノ日給ヲ授受スルモノトス

(四) 斯業ニ關スル專問雜誌其ノ他ヲ購讀ス

(三) 奈 良 縣

一 名稱 齊音寺果樹栽培實行組合

二 所在地 北葛城郡馬見村大字三吉字齊音寺

三 沿革 當地方ニハ古クヨリ梨樹ヲ栽培セシカソノ技術ハ極メテ幼稚ニシテ殊ニ病害蟲ノ驅除豫防ノ如キハ何等顧ルモノナカリキ然ルニ時勢ノ進歩ハ優良品質ノモノヲ要求シ又病害蟲ハ年々増加シテ加害ヲ逞ウシ之カ爲ニ當業者ノ一部ハ梨樹ヲ伐採スルニ至レリコ、ニ於テ一部栽培者ハ幼稚ナル梨樹栽培者ヲ救ハンニハ病虫害驅除豫防ヲ勵行スルニアリトナシ自ラ大ニ研究スル所アリシカ漸次好成績ニ向ヘリコ、ニ於テ栽培者中ニモ覺ル所アリ病虫害ノ豫防驅除ハ勿論生産物ノ聲價ヲ向上センニハ共同ノ力ニ依ルノ外ナキヲ知リ遂ニ組合ヲ組織シ爾來十數年ヲ經テ今日ニ至レリ

四 地區及關係者ノ員數 馬見村大字三吉字齊音寺地區内梨栽培者二十八名ヲ以テ組織ス

五 目的 病害蟲ノ共同防除ニヨリ優良ナル品質ノモノヲ多産シ更ニ荷造ノ改善ヲ行ヒ共同出荷ニヨリ市場ニ於ケ

ル聲價ヲ高メルト共ニ又梨栽培ニ要スル肥料、病害蟲防除藥品、袋掛用新聞紙及荷造箱等ノ必需品ノ共同購入ヲ行ヒ生産費ヲ低下シ以テ農家經濟ヲ改善スルヲ以テ目的トセリ尙近年ニ至リ日用品ノ一部ヲモ共同購入シツツアリ

六 組織ノ大要 組合員ノ選舉シタル組合長、副組合長各一名幹事及評議員若干名ヲ置キ組合諸般ノ事務ヲ處理シ別紙規則ニヨリ事業ヲ施行ス

七 經費並經費賦課徵收ノ方法

イ 經費豫算

一金四百貳拾八圓也

總 額

內 譯

一金參百八拾參圓也

藥品購入費

一金四拾五圓

器具修繕及薪炭費

ロ 賦課徵收ノ方法

本組合ノ經費賦課ハ樹令ト本數トノ兩方面ヨリ比例賦課シツツアリ即チ滿四年生以上ノモノヲ成木トナシソレ以下ノモノヲ未成木トナシ兩者ノ賦課比ヲ二對一トナシ之ニ各組合員ノ所有スル樹數ヲ乘シタル積ヲ各組合ノ負擔比トナシ年度末ニ至リ實際使用シタル費用ヲ比例配分シテ徵收ス

八 事業ノ施行狀況及成績

事業ヲ施行スルニ當リテハ組合役員ニ各事業ヲ分擔セシメ專心研究ヲナサシメ機宜ノ處置ヲ誤ラサラシム組合員一同又之等ノ役員ニ全ク委任シツツアリ即チ病害蟲係、肥料共同購入係、販賣係、容器購入係、日用品購入係、會計係ニ分テリ而シテ病害蟲係ノ副組合長之ニ當リ藥品ノ購入ハ勿論常ニソノ技術ヲ研究シ觀察ヲ周密ニシ病害蟲防除

ノ計畫ヲ立テ必要ノ都度組合員ニ通知シ防除施行ノ當日ハ全員ヲ指揮ス

尙病害蟲防除ヲナスニアタリテハ組合員ヲ六班ニ分チ（相近接セル梨園ノ所有者ヲ集メテ一班トナス一班ノ人員二名乃至五名）各班ハ夫々共同事ニ當ル、又藥劑ノ調製ハ松脂合劑、石灰硫黃合劑ハ病害蟲係ノモトニ於テ各班ヨリ一名宛ノ應援ヲ得テ調製シソノ原液ヲ各班長ニ配付スルモン他ノ藥劑ハ原料ヲ各班長ニ交付シ各班ニテ調製ス尙藥劑撒布ハ常ニ一日ヲ以テ終ル様ニ努力シツ、アリ

病害蟲ノ防除計畫次ノ如シ

石灰ボルドウ液撒布 四月上、中、下旬。五月上、中、下旬各一回計六回

除蟲菊石鹼水撒布 蚜蟲及軍配蟲發生ノ都度約五回及八月中、下旬、九月上旬各一回計八回

松脂合劑撒布 二月中旬一回

石灰硫黃合劑撒布 三月下旬一回及夏期赤ダニ發生ノ際約一回

被害果ノ摘採 四月中、下旬、五月上、中、下旬ノ間ニ隨時

本組合ハ設立後十數年ヲ經過シ組合員ノ精神的融合ハ極メテ固クヨク一致協力事業ヲ遂行シツ、アリ今日ニアリテソノ生産品ハ和歌山縣ヲ始メ各地ニ搬出サレ大ナル信用ヲ博シツ、アリ

九 事業ノ發達ニ關スル今後ノ見込

今後益々發達スヘキモノト考ヘラル

一〇 本事業ノ改善發達ニ關シ特ニ注意スヘキ事項

本組合ノ事業改善ニ特ニ認ムヘキモノナシ

一一 其ノ他參考トナルヘキ事項

梨ノ栽培面積 二町七反二畝

一二 規約

第一章 總 則

第一條 本組合ハ馬見村齊音寺果樹栽培實行組合ト稱ス

第二條 本組合ハ果樹園ノ改善產果ノ販路擴張ヲ圖ルヲ目的トス

第三條 本組合ハ北葛城郡馬見村大字三吉字齊音寺ニ住居スル果樹栽培業者ヲ以テ組織ス

第四條 本組合ハ事務所ヲ馬見村大字三吉字齊音寺了慶寺内ニ置ク

第五條 本組合ハ村農會長ノ指揮監督ヲ受クルモノトス

第六條 組合員ハ第二條ノ目的ヲ達センカ爲左ノ事項ヲ行フ

一、病蟲害ノ驅除豫防ヲ勵行スルコト

二、肥料藥品並ニ用具ノ共同購入ヲナスコト

三、果實ニ袋掛ヲ勵行スルコト

四、果實ノ荷造ヲ改善シ共同販賣ヲナスコト

五、果樹ニ剪定ヲ行フコト

六、模範栽培者ヲ表彰スルコト

七、果樹品評會ヲ開催スルコト

八、時々専門家ヲ聘シ實地指導並ニ講習會ヲ催スコト

九、總テ農事ニ關スル獎勵事項ハ實行スルコト

諮問事項及其ノ答申

一〇、組合員ハ競走のニ勉勵スルコト

第二章 組合機關

第七條 本組合ハ一般ノ事務ヲ整理スル爲左ノ役員ヲ置ク

組長一名 副組長一名 幹事若干名 評議員若干名トシ名譽職トス

第八條 組長ハ組合諸般ノ事務ヲ總理ス副組長ハ組長ヲ補佐シ組長事故アルトキハ之ヲ代理ス幹事ハ組長ノ指揮ヲ受

ケ庶務ニ従事ス評議員ハ重要事項ヲ評議スルモノトス

第九條 役員ノ任期ハ滿二ケ年トシ總會ニ於テ組合員中ヨリ之ヲ互選ス

第三章 組合ノ經費並ニ蓄積財産

第十條 本組合ノ諸經費ハ果樹本數割ニ賦課スルモノトス

第十一條 蓄積財産ハ果樹一本ニ對スル金五錢宛毎年秋季總會ニ於テ徵收スルモノトス

第十二條 本組合總員決議ノ上解散スル場合或ハ半途ニテ財産ヲ處理スルヲ必要ト認メタル時ハ總會ノ決議ヲ經テ之ヲ定ム

第十三條 本組合ノ經費豫算並ニ分賦徵收方法ハ毎年總會ニ於テ之ヲ議定シ經費ノ決算並ニ事業成績ハ之ヲ總會ニ於テ報告スルモノトス

第十四條 組合規則並ニ議事録ハ組長之ヲ保管シ組合ノ收支計算、帳簿及財産貯金通帳ハ幹事之ヲ保管ス

第四章 會議

第十五條 總會ハ分チテ通常總會及臨時總會ノ二種トス

通常總會ハ春秋兩度開クモノトス

第五章 組 合 員

第十六條 組合員ハ病蟲害驅除豫防ノ爲必要ナル場合組長ノ命ヲ受ケ夫役ニ任スルモノトス

第十七條 組長ハ機ニ臨ミ組合員ヲシテ他方面へ實地果樹園ノ視察及研究ニ派遣スルコトアルヘシ

第十八條 組合員ハ組長ヨリ集合ノ命ヲ受ケタルトキハ速ニ應集スヘキ義務ヲ有スルモノトス

猥リニ組長ノ命ヲ無視シ違背スルコトアルヘカラス

但シ止ムヲ得サル事故ノタメ應集スル態ハサル場合ハ其ノ旨組長ニ報告スヘキモノトス

第十九條 本組合員ニ加入又ハ脱退セントスルモノハ組長ニ其ノ旨申出ツヘシ

組長ハ前項ノ申込ヲ受ケタル時ハ總會ノ決議ニヨリ許否ヲ決定ス

第二十條 組合員ニシテ組合ノ規則ニ違背シ組合ノ名譽ヲ傷クルカ如キ行爲アリタルトキハ總會ノ決議ニヨリ之ヲ除名ス

第二十一條 組合員ニシテ組合ヨリ除名セラレ又ハ脱退セントスル者ハ蓄積財産ノ拂戻ヲ受クルコトヲ得ス

第六章 梨果荷造及等級

第二十二條 組合員ノ生産スル梨果ニシテ鐵道輸送ヲナスモノノ荷造及等級ハ組長ヨリ精細ナル検査ヲ受クルモノトス

一、容器ハ石油箱形ニシテ新調ノモノナルコト

一、容器ノ外側ニハ組合ニ於テ規定セラレタル商標ヲ貼付スルコト

一、結繩ハ横二筋掛ケ二ヶ所トシ從繩二筋掛ケ一ヶ所トシ商標ノ見易キ様ニスルコト

第二十三條 組合員生産梨果ノ等級ハ左ノ五種トシ検査ス

一、鶴印 一箱ニツキ梨果八十個以下

二、龜印 同上 八十個以上百個以下

三、松印 同上 百個以上百二十個以下

四、竹印 同上 百二十個以上百四十個以下

五、梅印 同上 百四十個以下

第二十四條 組合員ニシテ規定ノ荷造ヲ怠リ蟲喰品及損傷品ヲ混入シタルモノハ送先ヨリ返戻ナサシメ之ニ關スル諸經費ハ出荷人ヲシテ負擔セシム

第二十五條 本組合員生産梨果ハ場合ニヨリ地方販賣ヲナスコトヲ得但シ地方販賣ノ場合ト雖モ荷造ヲ異ニスルコトヲ得ス

第七章 組合員ノ生産葡萄荷造等級規定

第二十六條 組合員ノ生産セル葡萄ニシテ鐵道輸送ヲナス場合ニハ左ノ荷造ヲ行フ

一、容器ハ縦一尺横七寸高四寸二分ノ新シキ箱ヲ用フ

一、一箱ノ容器ハ正味一貫匁トシ二箱合セテ一個トス外装ハ下結ハ普通繩ヲ以テ縱横二筋掛ケニケ所ヲ堅ク結付ケ下繩ノ上部ニ一層太キ結繩ヲ以テ二重結ニシテ組合規定ノ商標ヲ貼付スルモノトス

第二十七條 品質ノ等級ハ左ノ三種トシ検査スルモノトス

一等品 松 印

二等品 竹 印

三等品 梅 印

等級調査ノ方法ハ品種ノ色澤ト房揃ノ如何ニヨルモノトス地方販賣ヲナス場合ニハ容器トシテ梨籠ヲ使用スルコトアルヘシ

第二十八條 組合員ノ生産スル柿蜜柑等ノ荷造方法及ヒ等級ハ實地出荷ニ際シ規定スルコトアルヘシ

第二十九條 本組合ノ規則ノ變更又ハ解散ノ決議ハ組合員四分ノ三以上ノ同意ヲ要ス

(四) 岡 山 縣

一名 稱 森上果樹病蟲害防除組合

二 所在地 御津郡馬屋下村大字森上

三 沿革 別紙參照

四 地區及關係者ノ員數 一大字ニシテ六十四名

五 目的 別紙規約參照

六 組織ノ大要 同

七 經費並經費賦課徵收ノ方法

大正十一年同地出荷組合及ヒ生産販賣組合ヲ併合シ一箱貳錢宛ヲ徵收シ内百六十圓ヲ毎年病蟲害防除方面ニ使用スルコトトセリ

八 事業ノ施行狀況及成績

大正十一年前述ノ如キ組合ト併合セシ以來生産ヨリ販賣ニ至ル迄ノ事業發達目覺シク作付十五町步餘、生産額十萬圓以上ニ達シ組合員ハ和衷共同一人ノ違反者モナク藥品ノ共同購入藥劑ノ共同製作、赤蟲、象鼻蟲ノ共同驅除、袋掛ケ期日ノ一定ヲナシ良果ノ生産ヲ計ルト共ニ阪神方面へ販路ヲ擴張シ基礎益々強固トナレリ同組合ニ於ケル硫黃

合劑ノ製造高及象鼻蟲ノ捕獲數左ノ如シ

硫黃合劑製造高

象鼻蟲捕獲數

大正十三年度九石二斗(濃厚硫黃合劑)

一萬二千四百八十二匹

然シ濃厚硫黃合劑ハ左ノ價格(一斗)ニヨリ配布ス

ボーメー三十度

一圓三十五錢

同 二十九度

一圓三十錢

同 二十八度

一圓二十六錢

同 二十七度

一圓二十二錢

九 事業ノ發達ニ關スル今後ノ見込

歲月ノ經過ト共ニ販路益々擴張セラルルヲ以テ生産モ亦増加スルノミナラス組合員相互良果ノ生産ヲ競フニ至リタルヲ以テ縣郡ニ於テモ組合ノ經營及技術ノ指導其他諸般ノ施設ニ對シ可及的便利ヲ圖リ理想的防除組合タラシメン
トス

一〇 本事業ノ改善發達ニ關シ特ニ注意スヘキ事項ナシ

一一 其他參考トナルヘキ事項ナシ

一二 規約 別紙添付

森上果樹病蟲害防除組合發達ノ沿革

由來本村ノ土質ハ果樹栽培ニ適シ就中桃ハ京阪ノ市場ニ於テ森上桃トシテ稱讚サル而シテ之レカ栽培ノ起源ハ明治二十五年郡内平津村ノ人丹原忠四郎氏桃栽培ノ有利ナルヲ唱導セルヲ本村ノ市川房吉入江寛次郎合同シテ同人ヨリ上海

水蜜桃五百本ヲ移入栽培シ越ヘテ明治二十六年梨赤龍種一反歩ヲ栽植シタリ然ルニ明治二十七八年ニ至リ桃果一個五六錢ヲ唱ヘ岡山市ニ搬出シ賣行殊ニ可良ナリシヲ以テ爾來年ヲ追フテ栽培反別ノ増加ヲ見ルニ至レリ

越ヘテ明治四十年ニ至リ產額亦頓ニ増加シ到底隣町村又ハ岡山市ニ搬出スルハ供給過剩ニ陷リタルヲ以テ新タニ大阪京都ニ委託販賣トシテ試賣ヲ行ヒタルニ其ノ成績良好ナリシヲ以テ漸次出荷モ増加シ今日ノ盛況ヲ呈スルニ至レリ然ルニ產額ノ増加ト共ニ諸種ノ害蟲發生夥シク漸次樹勢ノ衰弱收量ノ減少生果ノ品質ヲ損スルコト大ナルヲ致シタルヲ以テ害蟲驅除ノ最モ必要且重大ナルヲ認メ尙本部農會飯塚技手ノ熱心ナル勸奨ニヨリ大正三年度ニ於テ果樹病蟲害防除組合ヲ組織シ爾來組合員ハ總テ一身同體トナリ本組合事業ノ遂行貫徹ニ努力シツツアリ

森上果樹病蟲害防除組合規約

第一章 名稱並ニ事務所

第一條 本組合ハ森上果樹病蟲害防除組合ト稱ス

第二條 本組合ノ事務所ハ是ヲ御津郡馬屋下村大字芳賀森上千八百九十五番地ニ置ク

第三條 本組合ハ果樹栽培ノ改良病蟲害ノ防除ヲ勵行スルヲ以テ目的トス

第四條 前條ノ目的ヲ達センカ爲メ左記事業ヲ行フモノトス

イ、種苗ノ共同購入配布

ロ、病蟲害防除用器具器械ノ設備

ハ、防除藥劑ノ共同購入及共同製劑共同防除

ニ、病蟲害ノ調査研究及ヒ之カ防除試驗

ホ、此他果樹栽培上必要ト認メタル事項

第三章 組合員及役員

第五條 本組合ハ馬屋下村大字芳賀森上果樹栽培者ヲ以テ之ヲ組織ス

但シ隣接町村ニ於ケル栽培者アルトキハ必要上強イテ加入セシムルコトアルヘシ

第六條 組合員ニシテ前條ノ趣旨ヲ拒絕スルトキハ組合德義上ノ制裁ヲ加ヘ又ハ其ノ筋ノ説諭ヲ受ケシムルモノトス

第七條 本組合ニ左ノ役員ヲ置ク

組合長一名 副組合長一名 幹事二名 實査員四名

第八條 役員ノ職制ヲ定ムルコト左ノ如シ

組合長ハ事務ヲ總理シ組合ヲ代表ス

副組合長ハ組合長ヲ補佐シ組△長事故アルトキハ之ヲ代理ス

幹事ハ組合長ノ命ヲ承ケ會計庶務ヲ處理ス

實査員ハ組合長ノ命ヲ承ケ事業ノ執行ニ當リ且ツ主要ナル事項ヲ評議ス

第九條 役員ハ總テ名譽職トシ總會ニ於テ組合員中ヨリ之ヲ選舉ス

第十條 役員ノ任期ハ各二ケ年トス

但シ補缺ノ爲メ選舉ラセタル役員ノ任期ハ前任者ノ任期ヲ繼承ス

第十一條 果樹ノ植付距離剪定法等ハ凡テ改良方法ニヨルヘキモノトス

第十二條 果樹ヲ新タニ植付ケントスルモノハ其種類本數反別等ヲ組合長ニ報告シ實査員ノ検査ヲ經必ス青酸瓦斯ノ

燻蒸ヲ行ヒタル後栽植スルモノトス

但シ苗木ノ不良品若シクハ病蟲害ノ夥シク寄生シ成木ノ見込ナキモノト認ムルモノハ其栽植ヲ停止セシムルコトア

ルヘシ

第十三條 組合員ハ栽培セル果樹ノ種類樹齡本數並ニ反別ヲ毎年四月末日迄ニ組合長ニ届出ツヘシ

第十四條 組合員ハ春秋二季ニ於テ本規約ニ定ムル方法ニ從ヒ必ス病蟲害驅除豫防ニ從事スヘキモノトス

第十五條 組合長ハ防除ノ期間方法等ヲ定メ一週間前ニ之ヲ組合員ニ周知セシムルモノトス

但シ急施ヲ要スル場合ハ此ノ限りニ非ス

第十六條 組合員ハ防除施行三日以内ニ其旨組合長ニ報告スヘシ

第十七條 前條ノ報告ニ接シタルトキハ實査員ヲシテ之カ實査ヲ行フ

第十八條 實査員ハ果樹園ヲ巡視シ公平無私ナル實査ヲナシ若シ不充分ト認ムルトキハ直チニ組合長ニ報告シ組合長

ハ更ニ期間ヲ定メ再應防除ニ從事セシムヘシ

第十九條 前條ノ通告ヲ受ケタル組合員ハ異議ノ申立ヲナスコトヲ得ス

第二十條 第十八條通告ヲ受ケタル組合員ニシテ若シ其ノ期間内ニ於テ再度ノ驅除ニ從事セサリシ時ハ人夫ヲ使役シ

テ其ノ驅除ニ當ラシメ作人ヨリ實費ノ辨償ヲナサシムルモノトス

第二十一條 前條ノ辨償ヲ拒ムトキハ強硬ナル説諭ヲ加ヘ尙應セサルトキハ其ノ果樹ヲ燒棄スルモノトス

第二十二條 病蟲害驅除豫防ニ要スル藥劑ノ原料ハ總テ組合ニ於テ共同購入シ組合員ニ配布ス而シテ原料代金ハ使用

者ノ負擔トス

第二十三條 藥劑ノ製造ニ要スル器具器械ハ之ヲ組合ニ於テ設備シ組合員ノ需ニ應シテ無料貸與ス

第二十四條 本組合ニ於テ設備スル器具器械ノ修繕費ハ總テ組合費ヲ以テ之ヲ支辨ス

第五章 會 議

第二十五條 會議ヲ分チテ總會役員會ノ二トナス

通常總會ハ毎年二月及九月之ヲ開キ役員會ハ隨時之ヲ開設ス

第二十六條 前條ノ外隨時臨時總會ヲ開キ相互ノ意見ヲ發表シ又ハ其筋ノ専門技術者ノ派遣ヲ乞ヒ講話又ハ實地指導ヲ請フモノトス

第二十七條 通常總會ニ於テハ會務、會計、事業成績ノ報告ヲナシ且ツ事業ノ執行方法役員選舉及其他重要ナル事項ヲ決議スルモノトス

第二十八條 役員會ニ於テハ事業ノ計畫及總會ニ於ケル委任事項ヲ協議スルモノトス

第六章 會 計

第二十九條 本組合ノ經費ハ總テ組合員ノ負擔トス

第三十條 組合員ハ毎年春季通常總會ニ於テ決議セル金額ヲ毎月之レヲ組合長ニ納付スヘシ

前項ノ會費ハ本組合ノ經費トナリ殘金ハ基本金ニ編入スルモノトス

第三十一條 組合備品及病蟲害防除ニ要スル經費ハ其ノ總額ノ三割ハ組合員ニ平等ニ賦課シ殘額ハ組合員各自ノ有スル果樹本數及反別ニ割當テ等級ヲ付シ其ノ等級ニ應シテ賦課スルモノトス

第三十二條 本組合ハ物品及金員ノ寄附ヲ勸受ス

前項ノ現金ハ組合經費ニ充ツルモノトス

第七章 附 則

第三十三條 組合員ノ德義ヲ重シ共同ノ利益ヲ旨トシ組合規約ニ違背シ又ハ組合ノ不利ヲ醸スカ如キ行爲アルヘカラス

第三十四條 本規約ハ組合員三分ノ二以上ノ同意ヲ經ルニ非ラサレハ之レヲ變更スルコトヲ得ス
第三十五條 規約條項ニ違背スルコトナキヲ證スルタメ左ニ記名捺印スルモノトス
第三十六條 本規約ハ大正三年十月十九日設定同日之ヲ施行ス

(五) 熊 本 縣

一 名 稱 白旗村糸田農事小組合

二 所在地 熊本縣上益城郡白旗村

三 沿革

白旗村、糸田農事小組合ト稱スルハ糸田中組農事小組合糸田下組農事小組合糸田農事小組合宮ノ前農事小組合沖満農事小組合ノ聯合ニナレルモノニシテ勞力節約能率増進互助救濟ノ精神ニ基キ共同作業ノ基礎ヲナスモノナリ
明治三十九年糸田村中組區民ヨリ共同苗代組合ヲ組織シ共同作業ノ濫觴ヲ開キ其成績顯著ナルモノアリシニヨリ隣接各區ニ組合組織セラレ各自苗代田植害蟲驅除等適宜施行シ利スル處多カリシカ偶明治十五年七月綠川ノ洪水ニ際シ糸田部落ハ耕地全部荒廢ニ歸シタルニヨリ大正二年耕地整理組合ヲ組織シ耕地ノ改善ニ努力シタル結果現在糸田部落ハ田區整然タル耕地完成シ灌排水其他作業上共同ノ利益益々増進シタル爲メ大正二年事業完了ト共ニ以上之組合ハ作業上聯合ヲナスコトニシ今日ニ及ヘリ

四 地區及關係者ノ員數 糸田區一圓組合員七十一人

五 目的

共同苗代共同田植病害蟲ノ一齊驅除ヲ合理的徹底的ニ行ヒ勞力節約能率ノ増進ヲ計リ共同ニ依ル利益ヲ獲保セントスルニアリ

六 組織ノ大要

本組合ノ組織ハ五農事小組合ヲ聯合シテ組織セラレタルモノニシテ組合長ハ一ケ年ヲ期限トシ各農事小組合長順次之レニ當ル

七 經費並ニ經費財源ノ徵收方法

本組合ノ經費ハ主トシテ共同作業ニ要スル勞銀器具藥劑費等ニシテ其他慰勞懇親會ニ要スル雜費ニシテ其ノ經費徵收方法ハ共同作業施行ニ要シタル諸經費ヲ組合員ノ耕作反別ニ比例シ各自自己ノ負擔分ヲ組合ニ提出シ組合員ハ自己ノ家族ニ於テ許ス範圍内多數ノ人員ヲ出シ（老若男女其ノ人立チニ依リ賃金決定ス）出役人員數ニ依リ組合ヨリ賃銀ヲ受取ル

八 事業ノ施行狀況及成績

事業ノ種類ハ苗代田植病害蟲驅除ニシテ自然共同採種圃ノ經營肥料藥品ノ共同購入調製器ノ設備病蟲驅除器ノ備付ケ發動器設置等ヲナシ各自責任ヲ以テ從事スルカ故ニ地主ニシテモ僅カニ一人位ノ下僕ヲ置ク位ニシテ作業ハ全部組合員ニ任ス自作農小作農ニシテ婢僕ヲ置クコトナク組合員ニシテ病氣其他ノ天災ノ不幸ニ遭遇シタル者ニ對シテハ無償ニテ耕作ヲナシ互助救済ノ實ヲ舉ケツツアル故ニ當區ノ米麥ハ品質優良ニシテ隣接御船市場ニ於テ常ニ十錢又ハ十五錢ノ高價ニテ取引セラル

九 事業發達ニ對スル今後ノ見込

本事業ハ既ニ十二年前ヨリ施行セラレタル美舉ニシテ共同作業ノ農事經營ニ對シ緊要ナルヘキヲ唱導セラルル今日縣下ノ組合モ糸田組合ニ倣ハントスル傾向著シキ今日本組合ハ益々此ノ精神ヲ發揮シテ其ノ完成ニ努力スヘキモノト信ス尙今日本組合ニテ此ノ事業ヲ廢スル如キアラハ到底農業ノ經營困難トナルモノナリ

十 本事業ノ改善發達ニ關シ特ニ注意スヘキ事項

共同事業特ニ病害蟲ノ驅除ノ如キハ多人數ノ集合ニヨル作業ナル爲メ各自責任觀念ノ徹底ト互助相愛ノ精神ヲ根本的ニ訓練シ部落的ニ確固タル精神の結合ヲ了シ然ル後必要ナル事業ニ入ルニアラサレハ到底望ムヘカラサル事ナリ本組合ニ於テモ各區小組合力組合ノ精神ヲ會得シ然ル後ニ共同作業ノ遂行ニ努メタル結果今日ノ成績ヲ收メタルモノト信ス

十一 其他ノ參考トナルヘキ事項

ナシ

十二 規約等

各農事小組合ニ規約アル外糸田農事小組合共同作業ヲナス爲メノ聯合組合トシテノ規約ナシ

四、共同驅除豫防ノ普及發達ヲ圖ルニ適當ナル組合組織

(一) 北海道廳

本道ニハ本間ニ關スル特殊組合ノ設立ナキモ大正六年以來設立セル農事改良實行組合（全道ニ六百餘組合アリ）及大正八年以來設立セル果樹組合（組合數四十餘）アルヲ以テ之レ等組合ノ實行事項中ニ害蟲驅除豫防ノ普及發達ヲ圖ルノ方針ヲ定メ共同的ニ實行セシメツ、アリ

(二) 青森縣

左ノ要項ニ據ルヲ可トス

一、組合ノ區域ハ大字若クハ字ヲ基準トスルコト

區域ノ廣狹ハ共同作業ノ遂行ニ多大ノ關係アリテ町村ヲ一團トスルハ餘リニ廣キニ過キ共同力ヲ薄カラシムル嫌ア

ルヲ以テ隨時會合協議シ得ル範圍ニ止ムルヲ可トスルモ餘リニ狹キニ失セハ驅除豫防ノ目的方法等區々ニ渡リ徹底ヲ缺ク虞アルヲ以テ組合員ハ部落集團ノ如何ニ依リ五十戸乃至百戸ヲ限度トスルヲ可トス、其ノ連絡統一ハ町村農會ノ任務ト爲スヘシ

二、豫防驅除スヘキ害蟲病菌ハ重要作物ニ對シ被害大ナル數種類ニ限ルコト

各種ノ病害ニ就キ共同驅除ヲ行フハ最モ好マシキコトナルモ習性經過複雜ニシテ此等ニ對スル豫備智識ニ空シキ組合員ニ過重ノ義務ヲ負ハシムルハ結束ヲ固カラシムル所以ニアラサルヲ以テ一般ヲ通シテ栽培區域ノ廣キ作物ニ對シ比較的被害大ナル害蟲病菌ニ限ルヲ可トス

三、組合ノ事業ハ左ノ如クナルヘシ

- 1 驅除豫防ニ必要ナル藥劑器具ノ共同購入
- 2 共同製劑若クハ驅除劑ノ共同配合所ノ設置
- 3 病蟲害ニ關スル講習講話ノ開催
- 4 害蟲、病菌ノ標本ノ蒐集陳列
- 5 組合員ノ精勵者表彰
- 6 益蟲保護ニ關スル施設
- 7 害蟲病菌ノ發生豫報

四、經費ハ組合員ノ平等割ト耕作反別割ノ外地主ノ寄附金ニ依ルヲ可トス

右ノ外補助金又ハ獎勵金ノ交付等アルヘキモ組合區域内ノ被害程度ヲ豫算シ其幾割カヲ貯金シ基本金ヲ造成スルヲ可トス

五、作物病蟲害ノ保險制度ヲ設定スルコト

作物傷害ノ保險制度ハ國家ノ力ニ俟ツヘキモノタルモ又農家ノ自覺ニ依ル組合ハ其ノ基礎トナリ町村府縣及町村郡市縣農會等ノ援助ヲ得テ制度ノ確立ヲ期スヘキモノトス

(三) 岩 手 縣

左ノ如キ組合ヲ設クルヲ最モ適當ナリト認ム

盛岡仙北町蔬菜病害蟲防除組合規約

第一條 本組合ハ岩手縣立農事試驗場ノ指導ヲ受ケ専ラ蔬菜ノ病害蟲ヲ防除スルヲ以テ目的トス

第二條 本組合ハ仙北町、青物町、仙北町組町ニ於ケル蔬菜栽培者ヲ以テ組織ス

第三條 本組合ノ事務所ハ盛岡市仙北町ノ七十六番戸(電話七六八番)ニ置ク

第四條 本組合ハ適當ノ時期ニ於テ講習會、講話會等ヲ開キ又ハ實地施導ヲ受クル等力メテ組合ノ目的ヲ遂達スル方

法ヲ講スルモノトス

第五條 組合設立當時ノ組合員ハ發起人ニ於テ加入者ヲ定メ以後加入スル者ハ組合長ニ申出テ其ノ承認ヲ受クルモノ

トス新ニ加入セントスル者ニハ組合財産權獲得ノ代償トシテ相當ノ寄附ヲ爲サシムル事アルヘシ

第六條 本組合ニ加入シタル者ハ組合事務所ニ備付クル組合員名簿ニ署名捺印スルモノトス

第七條 組合員ハ總會ノ承認ヲ得ルニ非サレハ脱退スルコトヲ得ス又組合員ニシテ其ノ義務ヲ怠リタルトキハ組合長

ハ委員會ノ議決ヲ經テ脱退ヲ命スルコトアルヘシ

第八條 本組合ニ左ノ役員ヲ置ク

組合長 一名 副組合長 一名 委員 九名 幹事 三名

第九條 組合長ハ組合ヲ統括シ副組合長ハ組合長ヲ補佐シ委員及幹事ハ組合長ノ命ヲ受ケ各般ノ事務ヲ處理スルモノトス

第十條 組合長、副組合長及委員ハ組合員中ヨリ選舉シ幹事ハ會長之ヲ指命ス其ノ任期ハ二ケ年トス

第十一條 役員ハ無報酬トス、但シ一ケ年ノ事業ヲ終結シタル後總會ノ議決ニ依リ報酬ヲ與フルコトヲ得

第十二條 組合ノ總會ハ定期總會及臨時總會ノ二種トシ定期總會ハ毎年三月、八月ノ二回トス臨時總會ハ必要ニ應シテ之ヲ開ク定期總會ニ於テハ事業ノ計畫、實行方法及豫算決算ニ關スル件ヲ決定シ臨時總會ニ於テハ臨時ニ生シタル事項ヲ協定スルモノトス

第十三條 組合長ハ常ニ病害蟲發生ニ注意シ之カ防除法ヲ實施セシメントスルトキハ豫メ其ノ期日、方法等ヲ定メ組合員ニ通知スヘシ組合員ハ正當ノ事由ナクシテ其ノ施行ヲ拒ムコトヲ得ス

第十四條 病害蟲豫防ニ關シ必要ナル器具機械、藥劑等ハ組合事務所ニ備付ケ組合員ノ請求ニ應シテ貸付又ハ分讓スルモノトス

第十五條 器具機械等ノ使用ヲ終リタルトキハ直チニ之ヲ返濟スヘシ

第十六條 組合員ハ次回ノ計畫ニ資スル爲防除施行ノ都度左ノ事項ヲ組合長ニ申出ツヘシ

一、施行期日

二、施行當地ノ天候

三、藥劑ノ濃度及分量

四、施行ノ面積又ハ株數

五、其ノ他參考トナルヘキ事項

組合長ハ防除施行要録ヲ備ヘ右ノ事項ヲ記入シ置クモノトス

第十七條 本組合ノ經費ハ左ノ二種ヲ以テ之ニ充ツ

一、組合員ノ負擔金

二、補助金及寄附金

第十八條 組合員負擔金ハ其ノ防除ヲ施行スヘキ作物ノ作付面積割ヲ以テ徵收スルモノトス

第十九條 組合長ハ其ノ年ノ事業施行前ニ於テ豫算書ヲ事業終結シタル後ニ決算書ヲ總會ニ提出シ其ノ議決ヲ經ルモノトス

第二十條 本規約ノ變更及組合ノ解散ハ組合員三分ノ二以上ノ同意ヲ得ルヲ要ス

(四) 宮 城 縣

一、區域 果樹其他蔬菜等ニ於テハ其ノ栽培地區ノ狀況ニヨリ可成部落單位トシ其他二化螟蟲等ノ場合ハ町村ヲ區域トスルヲ可トス

二、組合ノ事業

イ、驅除豫防ニ要スル器具、器械、藥品ノ購入

ロ、藥劑ノ共同撒布勵行(一定ノ期日ヲ定メテ組合直接撒布)又ハ害蟲ノ共同捕殺

ハ、害蟲發生ノ檢知燈等ノ設置

ニ、組合ノ幹部ヲシテ驅除豫防狀況及巧拙ヲ考查セシメ隨時批判會等ヲ開催スルコト

ホ、講習、講話、視察等ヲ行フコト

ヘ、組合員ノ作付面積及驅除豫防實施面積ノ調査

ト、其他必要ナル事項

三、役員―適任者ヲ得ルコト

イ、種類 組合長、副組合長、幹事

ロ、役員ノ任期 二ケ年位

四、總 會

通常總會、臨時總會

イ、決議事項―役員選舉、事業施行方法、經費收支豫算並徵收方法、規約變更其他

ロ、報告事項―事業成績（各組合員ノ驅除狀況ヲ明細ニ）經費結算其他

五、帳簿 組合員名簿經費、事業成績等ニ關スル帳簿

六、其他ノ事項ニ關シテハ別紙（前記）各驅除豫防組合規約ニヨルヲ適當ト認ム

（五） 秋 田 縣

從來共同驅除豫防ニ關スル組合組織ハ主トシテ當業者ノ申合ニ由ルモノ多キモ之等ノ組合ハ技術員ノ設置及其ノ他ノ設備ニ缺クル處多キモアルヲ以テ實際ニ於テハ共同驅除豫防ノ實施困難ニ陷ル場合少カラサル狀況ナルニ鑑ミ將來ハ町村農會又ハ郡農會ノ一事業トスル組合組織トナスヲ適當ナリト認ム

（六） 山 形 縣

農事改良ノ普及徹底ヲ圖ランカ爲メ現今各府縣共町村農會ノ下ニ農事小組合ヲ設立シ農事諸般ノ改良實行ヲ企圖シツツアリ本縣ニアリテモ既ニ千二百ノ農事改良實行組合ノ設立ヲ見、病蟲害驅除豫防事業ノ如キモ之ノ農事小組合ノ一事業トシテ勵行セルモノアリ將來共之ノ方針ニヨリ縣郡市相協力シテ部落的ニ農事改良實行組合ノ設立普及ヲ圖リ其

ノ一必行事項トシテ病蟲害驅除豫防ノ共同作業ニ當ラシムルハ最モ適切ナル組織ト思惟ス、蓋シ本縣ニ於テハ稻作方面ノ病蟲害比較の少ク現今之カ驅除豫防ヲ勵行シツツアルハ一部分ニ限ラルルモ園藝作物即チ果樹、蔬菜及桑樹ノ病蟲害驅除豫防ハ比較の集約ニ行ハレ現ニ園藝組合又ハ養蠶組合等ノ名稱ノ下ニ部落的ニ共同シ其ノ主要事業トシテ病蟲害共同驅除豫防ヲ勵行シツツアルモノアリ而シテ實行組合タルト園藝組合タルトヲ問ハス二者多クハ町村農會ノ下ニアリテ部落的農事改良實行機關トシテ活動シツツアルモノナルカ故ニ稻作地方タルト園藝地方果タ養蠶地方タルトヲ問ハス病蟲害ノ共同驅除豫防事業ハ自治的實行機關トシテ農事改良實行組合又ハ園藝組合養蠶組合等ヲシテ施行セシムルヲ以テ適當ナリトス然レトモ果樹、蔬菜等ノ主要產地ニアリテハ其ノ性質上必スシモ行政區劃ニ拘泥スル事ナク廣ク生産區域ヲ一團トシ之等ヲ包含スル園藝組合又ハ病蟲害驅除豫防組合ヲ設立シ洽ク同好ノ志ヲ叫合シテ組合員協力一致克ク其ノ目的ヲ達成スル様組合組織ヲ企圖セサルヘカラス要ハ其ノ地方地方ノ業態ニ應シ栽培地域ヲ本位トスル自治的組合ヲ以テ最モ適當ナル組織ト信ス

(七) 茨 城 縣

本縣農村ノ實狀ヨリ考察スルニ左記各項ヲ原則トシテ組合ヲ組織セシムルヲ適當ト認ム

一、地區 町村ニ於ケル小字ヲ基礎トスルコト

但シ驅除豫防ヲ行フヘキ作物栽培ノ狀況ニヨリ適宜地區ヲ伸縮スルコト

(町村ニ於ケル小字ハ俗ニ坪内ト稱シ舊來ヨリ社交小團體トシテ傳統的ニ共同相助ノ良習存スルヲ以テ共同施設ノ單位トシテ能ク共同ノ實ヲ擧ケ得ヘク尙藥劑撒布等ノ便否ヨリ考察スルモ適當ノ地區ナリト認ム)

二、組合員 小字内ニ於ケル當該作物栽培者ヲ以テ組合員トスルコト

第一項但書ニヨル場合ハ其ノ地區内ノ栽培者ヲ以テ組合員トスルコト

三、事業施行

驅除豫防用器具器械ノ備付

驅除豫防用藥劑ノ共同購入共同撒布等

(組合員ノ技術的智識向上ヲ認ムル迄ハ組合員中特定ノ者〔相當智識經驗アル者ヲ云フ〕藥劑ノ調製撒布等ノ任ニ當リ組合費中ヨリ相當手當ヲ支給スルコト)

四、經費並經費ノ賦課徵收方法

驅除豫防用器具器械費

組合員ノ平均割及耕作反別割トスルコト

(組合員ノ當該作物栽培反別ハ年ニヨリ消長アルヲ以テ前記方法ニヨリ徵收スルヲ至當ト認ム)

驅除豫防用藥劑費其ノ他

組合員ノ耕作反別割トスルコト

五、驅除豫防ヲ行フヘキ農作物ノ分布狀況ニ依リ郡市町村同農會又ハ出荷組合等ハ前記防除組合ノ指導統一ノ任ニ當ルコト

(八) 群馬縣

1 只單ニ病害蟲防除ノミヲ目的トスル組合トセスシテ農業全般トシテノ農家の組合(農事組合、農業組合農家組合)トシ之カ事業部トシテ病害蟲部ヲ設置スルコト

2 區域ハ地形ノ自然ニ從ヒ五十戸内外ヲ標準トスルコト

3 經費ノ内藥劑代、所要勞力賃銀等ノ臨時費ハ防除ヲ實施シタル分量ニ按分支出スルコト

4 除防ノ實行ハ部長ノ下ニ實行委員若干名ヲ置キ臨機ノ處置ト實行ノ徹底上遺憾ナキヲ期セシム

5 一町村ニ於ケル共同防除ハ前記組合ノ事業部ヲ町村農會ニ於テ連絡統一シ更ニ之ヲ郡農會カ連絡統一スルコトトス

(九) 千葉縣

一、部落ヲ基礎トスルモノタルコト

二、從來組織シアル生産的各組合ヲシテ實施セシムルコト

(一〇) 東京府

一、組合ノ地區ハ栽培作物及利害關係ヲ相同シクスル五十戸内外ノ字若クハ大字ヨリナルヲヨシトス(字、村、郡又ハ府縣ノ所屬ヲ異ニスルモ右ノ關係相同シキ時ハ差別スヘカラス)

備考 場合ニヨリ五十戸内外ノ地區ヲ更ニ二區又ハ三區ニ分ツコト

二、産業ノ改良普及發達ヲ圖ルヲ目的トスルコト

三、組合長ハ其地區内ノ人望アル人ニシテ其地區内ニ住居シ町村、那市、府縣等外部トノ連絡ヲトリ得ル手腕家ニシテ出來得レハ斯業ニ明ルク實地ニ從事シ居ル人ナルコト

副組合長、組合長ニ若シ右ノ如キ適當ナル人ヲ得サルトキハ副組合長ハ右ニ近キ人ニシテ實際ニ於テ組合長ヲ補佐シ得ル人ヲ選フコト

幹事又ハ評議員、委員ハ出來得ル限り多クスルコト特ニ評議ニ參與スル人ハ其數ヲ多クシ成ルヘク多クノ人ノ意見ニヨリ議決スルコト

四、經費ハ事業施行上差支ナキ限り一人當賦課率ヲ輕クスルコト(但シ出來得レハ役員等ニハ相當謝禮スルコト)經

費ノ五割乃至七割五分ハ各組合員ヨリ平等ニ徵收シ他ノ五割乃至二割五分ハ作付反別割當等適當ノ徵收法ヲ定メ置クコト

徵收ハ一年中收入ノ多キ季節ヲ見テ二回位ニ分チ納ムルコト

五、事業トシテ共同驅除豫防ノミニテハ範圍狹キニ失スルヲ以テ藥劑、肥料、農具等ノ共同購入及共同出荷販賣ノ如キ組合員ニ直接利益ヲ與ヘルモノヨリ始メ優良組合及町村農事試驗場等ヲ視察シ或ハ高級農會及町村、郡市府縣ノ役所及農事試驗場等ニ指導ヲ乞ヒ講習會講話會等ヲ開催シテ組合員ノ知識ヲ廣メ或ハ品評會ヲ開催シテ生産品ノ品質向上ヲ圖ル等間接ニ斯業ノ發達ヲ圖ルコト

六、町村、郡市、府縣及各農會農事試驗場ニアリテハ既設ノ組合ニ對シテハ特別ニ能ク指導監督ヲナシ場合ニヨリ相當補助ヲナシ又優良ナル組合ハ之ヲ表彰シ以テ組合ノ普及發達ヲ圖ル範ヲ示スコト
又新ニ組合ヲ設立セントスル所ハ親切ニ指導シ其地區ニ適當ナ鞏固ナル組合ヲ設立スルヨウ援助シ出來得レハ補助ヲモナスコト

(一一) 新 潟 縣

共同驅除豫防トシテハ單ニ病害蟲驅除豫防ヲ目的トスル組合ニ反シ農業諸般ノ共同改善實行ヲ目的トスル組合ニテ各種共同改善實行事項中ニ病害蟲ノ共同驅除豫防ヲ必行事業トナセルモノヲ適當ナリト認ム區域及人員ハ一町村ヲ單位トスルヲ理想トナスモ共同事業ノ徹底ヲ期スルニハ最初ハ大字區域位ノ基礎鞏固ナルモノヲ造リ漸次其範圍ヲ町村單位ニ及ホスヲ可ナリト認ム

(一二) 富 山 縣

農業ノ利益ヲ増進スルニハ共同ノ經營ニヨリ多クノ勞力ヲ節約シ一面集團力ヲ利用シテ事業遂行容易ナラシムルヲ以

テ捷徑トナス

本縣ハ夙ニ農事實行組合ノ設立ヲ慫慂シ各級農會ト相俟チテ其ノ普及發達ヲ促シ時々經費ヲ補助シ又優良ナル組合ニ對シテハ之ヲ表彰シ以テ事業ノ施行ヲ獎勵シツツアリ近年漸ク擴充ノ域ニ進ミ一般當業者モマタ其ノ緊要ナルヲ覺醒スルニ至レリ而シテ本縣ニ於ケル農事實行組合ノ事業ハ多種多樣ニ亘リ產米改良ヲ主トシ併テ其他農業上須要ノ事項ノ實行ヲ期スルモノニシテ大正十二年末現在縣下ヲ通シテ六百五十組合ヲ算シソノ內害蟲驅除豫防ニ關スル事項ヲ併行セル組合ノ數百四組合ノ設立ヲ見ルニ至レリ故ニ共同施行スル組合ニ於テ特ニ效果大ナル病菌害蟲ノ驅防ハ絶對ニ組合ノ力ニ據ラサルヘカラサルヲ以テ將來ニ於テモ此ノ種組合ノ設立獎勵ニ努メントス實行組合ノ組織ニツキ左ニ記スヘシ

實行組合

一、本組合ハ何々實行組合ト稱ス

二、本組合ハ組合員各自ノ精神的結合ニヨリ本村農事諸般ノ指導獎勵ノ趣旨ヲ體シテ協定事項ヲ實行シ相互ノ經濟ヲ改善シ其ノ福利ヲ増進スルヲ以テ目的トス

三、本組合ハ何村大字内ニ於テ農業ヲ營ム者ヲ以テ組織ス

四、本組合ノ事務所ハ何村何々番地ニ置ク

五、本組合ノ施行スヘキ事業ハ總會ニ於テ之ヲ定ム

六、本組合ニ組合長、副組合長各々一名評議員、幹事各々若干名ヲ置ク役員ハ組合員中ヨリ互選シ任期ハ何年トス

七、總會ハ通常、臨時ノ二種トス

通常總會ハ毎年一回何月之ヲ開キ臨時總會ハ組合長ニ於テ必要ト認メタルトキ又組合員半數以上ノ申出アリタルト

キ之ヲ開ク

八、總會ニ於テ議決スヘキ事項左ノ如シ

一、經費豫算並分賦收入方法

二、經費決算ノ承認並ニ事業報告

三、事業ニ關スル事項

四、其他必要ナル事項

九、總會ノ議決ハ出席シタル組合員ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス可否同數ナルトキ議長ノ決スル所ニ依ル

十、本組合ノ經費ハ本村農會ノ補助金及組合員ノ負擔金、寄附金等ヲ以テ之ニ充ツ

十一、組合員ニシテ組合員ノ面目ヲ保タサル時ハ總會ノ決議ニヨリ除名スルコトアルヘシ

十二、本規約ヲ變更セントスルトキハ總會ニ諮リ組合員三分ノ二以上ノ同意ヲ以テ之ヲ決議スルモノトス

十三、組合員ハ本規約ヲ遵守スルノ證トシテ各署名捺印ス

(二三) 福 井 縣

共同驅除豫防ノ普及發達ヲ圖ルニハ一部落ヲ範圍トスル病蟲害驅除豫防組合ノ設立ヲ普及シ其ノ組織等ハ別記病蟲害驅除豫防組合規約準則ニ依ルモノヲ適當ト認メラル

病蟲害驅除豫防組合規約(準則)

第一條 本組合ハ何村何々(部落名) 病蟲害驅除豫防組合ト稱ス

第二條 本組合ハ何村何々(部落名) 地籍内ニ於テ耕作ニ從事スル農業者及同部落内ニ居住シ同地籍内ニ於テ土地ヲ所有スルモノヲ以テ組織ス

第三條 本組合ノ事務所ヲ何村何々（部落名）何號何番地ニ置ク

第四條 本組合ハ一致協力シ病蟲害ノ驅除豫防ヲ勵行スルヲ以テ目的トス

第五條 前條ノ目的ヲ達センカ爲左記事業ノ實行ヲ期ス

一、明治三十九年七月縣令第三三號第一條ニ定メラレタル害蟲ノ驅除豫防

一、其他一般農作物及農產物病害蟲ノ驅除豫防

一、病害蟲ニ關シ村長、村農會長ノ指示令達ノ實行

一、病蟲害防除用藥劑ノ共同購入及製劑

一、防除用器具器械ノ設備

一、種苗ノ共同購入

一、講習會、實地指導ノ開催及調査研究

一、其他必要ナル事項

第六條 前條第一項ノ害蟲ニ關スル驅除豫防方法ハ明治三十九年縣令第三三號第二條ノ驅除豫防方法ニ依リ其他ノ病

害蟲ニ關シテハ適宜驅除豫防ノ方法ヲ定ム

第七條 組合員ハ本規約ヲ遵守シ決議事項ヲ實行スル義務アルモノトス

第八條 本組合ニ左ノ役員ヲ置ク

組合長	一	名	副組合長	一	名
-----	---	---	------	---	---

幹事	二	名	委員	若干	名
----	---	---	----	----	---

第九條 役員ハ名譽職トシ總會ニ於テ組合員中ヨリ互選シ其ノ任期ヲ各二ケ年トス

但シ補欠ノ爲選舉セラレタル役員ノ任期ハ前任者ノ任期ヲ繼承スルモノトス

役員ハ滿期再選ヲ妨ケス

第十條 役員ニ選任セラレタルモノハ正當ノ事由ナクシテ辭スルコトヲ得ス

第十一條 役員ノ職制ヲ定ムルコト左ノ如シ

一、組合長ハ一切ノ事務ヲ總理シ組合ヲ代表ス

一、副組合長ハ組合長ヲ補佐シ組合長事故アルトキハ之ヲ代理ス

一、幹事ハ組合長ノ命ヲ受ケ會計庶務ヲ處理ス

一、委員ハ組合長ノ命ヲ受ケ組合事業ヲ督勵シ組合員ヲ指導ス

第十二條 組合員ハ役員ノ指揮指導ニ從ヒ組合事業ヲ遂行ス

第十三條 本組合ハ組合事業ノ發達ヲ圖ル爲組合員中成績優良者ニ對シ表彰ヲ行フコトアリ

第十四條 會議ヲ分チ總會、役員會ノ二トナシ更ニ總會ヲ通常、臨時ノ二ツニ分ツ

第十五條 通常總會ハ春秋二回之ヲ開キ臨時總會ハ組合長必要ト認メタルトキ又ハ組合員五分ノ二以上ノ申出アリタルトキ之ヲ開ク

第十六條 總會ニ於テ議決スヘキ事項左ノ如シ

一、事業ノ經營方法

一、經費ノ賦課徵收方法

一、經費豫算及決算

一、規約ノ變更

一、事業成績報告

一、役員選舉

一、財産ノ處分

一、其他重要ナル事項

第十七條 役員會ハ組合長必要ニ應シ之ヲ開催ス

第十八條 總會ノ決議ハ出席シタル組合員ノ過半数ヲ以テ決ス

可否同數ナルトキハ議長ノ決スル處ニヨル

第十九條 本組合ノ經費ハ組合員ノ負擔並補助金寄附金等ヲ以テ支辨ス

第二十條 本組合ノ年度ハ四月一日ヨリ翌年三月末日迄トス

第二十一條 組合員召集ヲ受ケタルトキハ指定ノ時刻及場所ニ集合スヘシ

若シ已ヲ得サル事故アルトキハ相當代理者ヲ出スヘシ

第二十二條 組合員ハ德義ヲ重ジ共同ノ利益ヲ旨トシ組合ノ不利ヲ醸スカ如キ行爲アルヘカラス

第二十三條 組合ニ左ノ帳簿ヲ備付ク

規約、議事録、組合員並役員名簿、備品臺帳、事業成績調查簿、收支決算簿、表彰者名簿其他必要ナル帳簿

第二十四條 組合員ハ正當ノ事由ナクシテ組合ヲ脱退スルコトヲ得ス

第二十五條 本規約ハ組合員三分ノ二以上ノ同意ヲ經ルニアラサレハ變更スルコトヲ得ス

第二十六條 本規約ニ違背スルコトナキヲ證スル爲左ニ記名捺印スルモノトス

(一四) 山 梨 縣

一、稻作害虫防除ニ對シテハ共同苗代組合ヲ利用スルコト

二、一般農作物ノ防除ニ對シテハ市町村農會又ハ部落農事組合、青年團消防組等ノ既設組合ヲ利用スルコト

三、特殊園藝作物ニ對シテハ該副業組合ヲ利用スルコト

(一五) 長 野 縣

一、普通一般ノ病虫害驅除豫防ハ農事組合(農事ノ改良發達ヲ圖ル實行團體)ヲシテ之ヲ行ハシムルヲ最モ適當ト認ム
二、特殊作物(特用作物又ハ特産地ニ於ケル果樹蔬菜)ニ對シテハ其ノ作物ノ病虫害ノ驅除豫防ヲ主體トシテ組合ヲ組織セシムルヲ適當ト認ム(小組合ノ組織ヨリ大ニシテ其ノ作物ノ栽培區域ニ依リ又ハ小組合ノ聯合會ヲ組織スル等)

適當ト認ムル組織左ノ如シ

一、名 稱

何々(作物ノ名)病虫害驅除豫防組合

二、役 員

組 合 長 副組合長

幹 事 若干名

督勵指導員 若干名

督勵指導員ハ技術的方面ノ實地指導ヲ爲シ得ルモノニシテ組合員中ヨリ選任シ驅除豫防ニ從事シタルトキハ相當ノ日當ヲ支給スルコト

三、經 費

經費ハ組合員ノ負擔トスルコト賦課方法ハ組合員割、反別割、收穫割ヲ適當ト認ム

四、事業

病虫害ノ共同驅除藥品及器具機械ノ共同購入、共同使用

病虫害驅除豫防曆ノ制定

講習、講話會ノ開催

立毛批評會品評會等ノ開催

五、規約

規約中左記ノ如キ特ニ必要ナル事項ハ明記シ置クヲ要ス

(一)、共同驅除實施ニ付テハ當日必ス出席スルコト若シ出席シ能ハサル場合ハ夫役ヲ以テシ其ノ費用ヲ作物栽培者

ヨリ徴收スル等

(二)、組合員ノ作物ニ病虫害特發シ又ハ發生ノ虞アルト認ムルトキハ組合長ノ指揮ニ依リ隨時驅除豫防ヲ爲スノ義務アルコト等

(一六) 愛知縣

作物ノ種類其ノ栽培分布ノ狀況並ニ病害蟲ノ種類發生狀態及地勢等ニヨリ共同ノ範圍ハ一定シ難キモ一部落ヲ單位トシ其實行ヲ良ク徹底セシムル上ニ於テハ其府縣内ニ普及シ居ル組合例ヘハ農事改良實行組合或ハ園藝組合等ノ必行事項トシ其實施ニ當リテハ必ラス町村又ハ郡郡農會等ノ技術員ヲ派シテ指導督勵セシメ又組合範圍内ニ其生産品ヲ取扱フ商人アル時ハ生産者ノミヲ組合員トセス賣買營業者ヲモ加入セシメ獻身的ニ努力セシムルヲ可ト認ム

(一七) 三重縣

最寄二、三十戸ノ農家ヲ以テ組織セル農家組合ノ一事業トシテ施行スルヲ最適當ト認ム持ニ本組合ノ經營ヲ委員分擔制度トシ必ス病蟲害係ヲ設置セシムルニ於テハ之カ驅除豫防ノ普及發達ヲ期シテ待ツヘキノミ

(一八) 奈 良 縣

共同驅除豫防ノ普及ヲハカリ且ツソノ事業ヲ發達セシムルニハ組合員ノ精神的融合ヲハカリ共同作業ノ勞力ハ勿論組合ノ經費ノ負担ヲ公平ナラシメ特ニ作業ノ能率ヲ増進セシムルノ方法ヲ講スルコト肝要ニシテ左記事項ハ最モ留意スヘキ點ナリト考ヘラル

一、組合ハ特種ノ事情ナキ限り一大字以下ヲ區域トシテ組織ス

二、一組合ノ員數ハ十名以上三十名以下ヲ適當トス

三、組合員全般ヲヨリ統轄指揮スヘキ力量アルモノヲ中心ニ組織ス

四、組合ノ事業ハ單ニ病害蟲ノ共同防除ノミナラス他ノ農業全般ニ關スル事業並ニ日常ノ生活上ニ關スル事項等モ出來得ル限り共同施行セシムル様獎勵スルコト

五、組合ノ經費ハ勿論共同作業ヲナス際ノ勞働モ特ニ公平ニナスヲ必要トス特ニ病害蟲ノ共同防除ニ際シテハ前記ノ生駒郡龍田町神南農事實行組合ノ如ク藥劑ノ撒布量ト勞働量トノ二方面ヨリ負担ヲ定メ徵收スルヲ最モ公平ト考ヘラル

六、二十人以上ノ組合員ヲ有スル組合カ病害蟲ノ共同防除作業ヲ施行スル際ハ作業ノ進捗ヲ計ルタメ之ヲ數班ニ分チテ施行スルヲ可トス

七、一組合ニシテ多クノ共同事業ヲ行フ場合ハ主ナル事業別ニ分担者ヲ定メ施行スルヲ必要ト認ム

(一九) 和 歌 山 縣

病菌害蟲防除ヲ主トスル組合ヲ組織セシムルハ一方法ナランモ一般農事ノ改良ヲ目的トスル小組合（本縣ニ於テ獎勵シツツアル實行組合）ヲ組織セシメ該組合ヲシテ病蟲ノ防除ニ當ラシムルヲ適當ト認ム

（一〇） 岡 山 縣

同一作物ノ栽培者ヲ以テ組合ヲ組織セシムルコト

區域ハ一部落ヲ單位トセシムルコト

經費ハ相當基礎強固ニ至ル迄助成ノ方法ヲ講スルコト

（一一） 廣 島 縣

其ノ地方ニ於ケル地勢主要作物ノ種類病害蟲發生ノ多少其ノ他種々ノ事情ヲ考察シ病害蟲ノ共同驅除豫防ノミヲ目的トスル組合ヲ組織セシムルヲ可トスル場合アルモ本縣ニ於テハ可成共同作業組合部落農區等ノ如キ二十戸乃至三十戸程度ヲ以テ組織セル農業ノ共同經營組合ヲシテ各種ノ病蟲害ノ防除ヲ必行事項トシテ共同的ニ勵行セシムルハ極メテ容易ニシテ而モ永續的ニ其ノ目的ヲ達成シ得ヘシト信ス而シテ一般病蟲害驅除豫防上ノ指示協議等ハ此ノ團體本位ニ代表者ヲ郡市役所其ノ他適當ナル場所ニ集合セシメ徹底的ノ宣傳ト智識養成トニ努ムルハ從來ノ經驗ニ徴スルモ極メテ良好ナル成績ヲ收メツツアリ

（一二） 山 口 縣

病蟲害ノ驅除豫防トイフモ其ノ目的ハ農作物ノ生産ヲ増加シテ農家ノ經濟ヲ裕福ナラシムルモノナレハ之カ實行ニ就テモ農家ノ生産經濟等諸般ニ亘リ綜合的ニ共同スル農事組合ノ事業トシテ指導獎勵スルノ妥當ナルヲ認ム勿論特殊病害蟲ノ驅除豫防トシテハ獨立ノ立場アルヘク其區域及組織ノ如キ時ニ農事組合ノ區域ヲ超越シテ特種ノ組合ヲ設ケシムル要アルヘキモ本縣ニ於テハ從來未タ此ノ種ノ必要ニ逢着セシコトナク螟蟲浮塵子其ノ他普通病害蟲ノ驅除豫防ハ

可成農事組合ノ事業トシテ獎勵シ將來果樹蔬菜等ノ園藝作物ノ病害蟲ニ對シテモ大體此ノ方針ニ依リ獎勵ヲ加ヘントス從ツテ共同驅除ノ組合ニ付茲ニ掲クヘキ嶄新ナル資料ヲ有セサルヲ遺憾トス左ニ參考ノ爲本縣ニ於テ特ニ獎勵シツツアル農事組合ノ獎勵計畫ノ大要竝規約準則ヲ掲記スヘシ

農事組合獎勵計畫ノ大要

イ、縣下二百二十ヶ町村ニ四ヶ年ヲ以テ平均一組合宛設置セシメムトスルモノニシテ本年度ノ設置組合數ハ五十組合トス

ロ、之ニ一回限リ平均五十圓、農具購入補助金百五十圓ヲ交付スルノ計畫ナレハ一ヶ年ノ所要獎勵金額壹萬圓トス

ハ、農事組合ハ勸業技術員設置ノ町村ニ限リ其ノ設立ヲ認ムルモノトス

ニ、既ニ從來各地ニ於テ設立シ現ニ事業實施中ノモノト雖之ヲ左記縣ノ事業計畫ニ對比スル時ハ尙今後指導改善ヲ爲サシムヘキ點尠カラス仍テ之等既設組合ト雖左ノ事業計畫ニ適合スル如ク改メタルトキハ新設ト認メ獎勵金ヲ交付スルモノトス

事業計畫ノ大要

- 一、農業諸般ノ作業ハ凡テ共同的ニ營マシメ以テ經營勞力ノ節約ヲナシ併テ勞働能率ノ増進ヲ圖ラシムルコト
- 二、餘剩勞力ヲ利用セシムル爲適當ナル副業ヲ經營セシムルコト
- 三、耕地ノ合理的利用ニ努メシメ且事情ノ許ス限リ集團ヲ圖ラシムルコト
- 四、合理的の耕種法ヲ行ハシメ經濟的增收ヲ爲サシムルコト
- 五、機械ノ利用ニヨリ勞力ノ節約ヲ圖ラシメ且農閑時ニ於テ農產加工ヲ營マシムルコト
- 六、購入及販賣組織ヲ改善シテ收益ノ増加ヲ圖ラシムルコト

七、生活様式ヲ改メシメ冗費ト時間ノ空費ヲ省カシメ之ヲ生産資源ニ轉用セシムルコト

(二三) 德 島 縣

本縣ニ於テハ米麥作物害蟲防除ニ關シテハ縣下普遍的ニ存在スル農事改良實行組合ヲ以テ共同驅除豫防ノ普及發達ヲ圖ル適當ナル組合組織ト思考ス

又果樹蔬菜工藝作物等ノ病害蟲防除ニ關シテハ同業組合出荷組合等ヲ適當ト認ム

(二四) 香 川 縣

農業經營上病蟲害ノ防除ハ重要ナル一事項タルヲ以テ之カ普及發達ヲ圖ル爲メ適當ナル組合ヲ組織セシメ其ノ實行ヲ促スハ緊要ノコトト信スルモ元來病蟲害防除ナルモノハ農業經營上將又一作物栽培上ヨリ考フルモ其ノ一部分ノ作業ナルヲ以テ特種ノ事業例ヘハ或種ノ病菌害蟲ノ大發生アリタル等ノ場合ノ外獨立セル組合ヲ組織セシメントスルハ相當困難ノ事ト思フ、故ニ斯業ノ普及發達ヲ圖ランニハ寧ロ現ニ存在セル各種組合例ヘハ農事小組合(主トシテ米麥ニ關スル病蟲害)蠶業改良組合(主トシテ桑樹病蟲害)園藝組合(蔬菜果樹ノ病蟲害)等ト連絡協調シ是等組合ノ主要必行事業トシテ夫々共同的ニ病蟲害防除ヲ實施セシムル様組織スルヲ適當ト認ム而シテ助成金交附等ノ場合ハ前記各種組合ニ對シ共同驅除豫防獎勵費トシテ指定スレハ一層徹底スヘシ

尙強テ獨立セル組合ヲ組織セントスルニハ適當ナル區域(地方ノ情況ニ應シ行政區劃ニ依ラサルモ可ナリ)ニ於テ作物ノ種類(一種ニ限定セス)ニ應シ同一作物耕作者ヲ以テ防除組合ヲ組織セシムルカ又ハ病蟲害ノ種類ニ應シテ夫々防除組合ヲ組織セシムルヲ適當トスヘシ

(二五) 愛 媛 縣

事業主體ノ組合ニ於テハ事業ノ結果ニ依リ組合ノ消長ハ大ニ趣ヲ異ニスルヲ以テ農業諸機關ト連繫ヲ採リ隣保扶助ヲ

本意トセル組合ヲ設置セシメ又ハ既設組合ニ依リ病菌害蟲防除ノ獎勵普及ヲ圖ラシムルコト

一、區域 一大字又ハ一部落ヲ區域トスル小組合

一、組合組織 組合長及若干ノ當務者ヲ定メ事業ノ普及、發達、遂行ニ從事セシム

一、事業 講習講話會ヲ開催シ病蟲害智識ノ普及發達ヲ講スルコト病蟲害驅除豫防藥劑器具器械ノ共同購入、各種病蟲害ニ對シ適切ナル驅除豫防方法ヲ講スルコト定期會合ヲ開キ常ニ驅除豫防ノ研究ヲ行フコト平常一定標準ニヨル積立金ヲナシ防除其ノ他ノ經費ニ備フルコト

一、指導監督 組合ニ對シテハ縣郡市町村農會、縣郡農事試驗場ニ於テ適當ナル指導監督ヲ行ヒ其發達ヲ助長シ事業施行ヲ指導スルコト

一、各組合ノ聯絡 病蟲害ノ種類、發生ノ狀況、其他ニ對シ常ニ各組合聯絡ヲ保タシメ必要ニ應シ適宜聯合ヲナシ事業ヲ施行スルコト

(二六) 福岡縣

組合長副組合長各一名小組合長幹事若干名ヲ以テ組織シ組合ノ事務ヲ處理スルト共ニ組合員ノ指導ニ當ル

(二七) 長崎縣

果樹病蟲害防除ハ可成町村區域ヲ以テシ蔬菜病蟲害並稻浮塵子共同驅除等ノ組合ハ部落等ヲ區域トシタル組合組織ヲ以テ可ナリト信ス

(二八) 熊本縣

現今普及シツアル農事組合ノ發達ヲ計リ此ノ小組合ヲ地勢的ニ聯合シタル組合ヲ作ルヲ最良トス

(二九) 大分縣

一、組織

部落若ハ聚落ヲ單位トスル農事小組合ノ設置ヲ促シ規約中ニ「病蟲害驅除豫防ヲ共同施行」ノ項ヲ設ク

二、人員

共同驅除ノ單位トシテハ多キニ過クルトキハ完全ニ行ハレ難キヲ以テ小組合員多數ナルトキハ一組合十戸位ニ内分ヲナスヲ適當トス

三、施行方法

出賦ノ時間ヲ協定シ必ス時間ヲ勵行セシメ各組合員所有地ヲ順次驅除豫防ニ從事ス川又ハ山ヲ境界トスル地域或ハ斯ル境界ヲ有セサルモ地形其ノ他ノ事情全ク同一ナル地域内ハ各組合ヲシテ可成一齊ニ從事セシム

四、賦役方法

賦役ノ數ハ耕作反別ニ應シ地方ノ狀況ヲ考察シ適宜之ヲ定ム例ヘハ一反步當半人トカ一人トカ豫メ規定シ置ク

五、經費ノ分賦ノ方法

經費ハ徵收セサルヲ原則トス若シ用器藥品等ノ購入ノ必要アルトキハ共同使用ノ目的ヲ以テ郡若ハ縣ニ於テ大量購入ノ斡旋ヲ爲シ價格ノ低廉ヲ計リ經費ハ反別割等ニ依リ其ノ都度徵收ス

(三〇) 宮崎縣

右實行ヲ主トスル實行機關タル產業實行組合ノ如キ組合組織ヲ適當ナリト認ム

第三乙ノ二追補

(八) 佐 賀 縣 (三一頁一〇行目ニ追加)

三化螟蟲驅除法トシテ移植期引下

本縣ニ於ケル三化性螟蟲驅除ノ爲メ稻移植期ヲ六月二十日以降ニ引下ケ相當其ノ成績ヲ得タルヲ以テ其ノ概要ヲ記述スヘシ

由來本縣ハ螟蟲殊ニ三化性螟蟲發生ノ多キコト全國ニ會テソノ比ヲ見サル所ナリ近來ニ於テハ三化性螟蟲ノ被害ハ稍々減少セリト雖最近九ケ年間平均ノ被害ハ尙年々四分七厘ニ達シ其ノ最も多キハ一割三分乃至一割五分ノ減收ヲ見ルコト敢テ少シトセス而シテ三化性螟蟲ノ發生狀況ヲ見ルニ農事試驗場ニ於テ明治三十五年ヨリ大正十一年ニ至ル二十一ケ年平均ニ依レハ第一期ノ初發ハ五月十七日、最盛期ハ五月二十七日終期ハ六月十六日ナリ、一方本縣平坦部三化性螟蟲ノ發生スル地方ハ稻早中晩各品種ヲ栽培シソノ割合ハ早稻四分、晩稻六分ノ割合ニシテ本田移植期ハ早稻ハ六月上旬、晩稻ハ七月上旬ニ亘レリ即チ三化性螟蟲ノ第一期最盛期カ恰モ早稻本田活着期ニ當リ三化性螟蟲ノ蕃殖ニ最も都合良キ食物ト廣大ナル面積トヲ提供シ大ニ三化性螟蟲ノ發生増殖ヲ助成セルノ狀況ニ在リキ

故ニ右ノ成績ニ徴シ稻移植期ヲ六月二十日以降ニ繰下ケ三化性螟蟲第一期發生ヲ苗代ニ集中セシメ一方苗代採卵捕蛾ヲ極力實行セシメントシ其ノ實行方法ニ就テハ多年研究調査スル所アリタルモ之等地方ハ一戸當稻作反別割合ニ多キカ爲メ(一戸當一町步餘)勞力ノ分配、水利ノ關係等ニ就キ危惧スル所アリタルモ早中稻移植期ヲ六月二十日以後ニ引下ケタル場合ノ勞力分配狀態ハ四月下旬ノ苗代整地時付勞力ヲ五月上旬ニ繰下クルモ五月中ノ早中稻田塊返、寄播作業カ六月上旬ニ涉ルト共ニ害蟲驅除ニ要スル勞力ヲ省クコトヲ得ルヲ以テ五月中ノ勞力關係ニハ何等差支ナク六月中ノ勞力モ亦早中稻ノ一番草ヲ七月ニ送ルヲ以テ却テ勞力ニ餘裕ヲ生シ夏作ノ收穫ヲ容易ナラシムル便アリ、七月

ノ勞力分配狀態ハ早中稻植付ニ次キ直ニ晚稻ノ移植ト共ニ早ヤ早中稻ノ一番除草差迫ルヲ以テ多少困難ヲ見ルヤモ計
リ難ケレトモ十分注意ノ上六月下旬乃至七月中旬間ノ勞力ニ支障ナカラシムレハサホト困難ヲ生スルコトナク又十月
中旬後ニ於ケル蠶豆蒔付ニ多少影響アルヲ以テ七月同様ノ注意ヲ拂ヘハ移植期引下實施上何等支障ナシ、要スルニ農
家カ舊來ノ慣習ニ因ハレタル爲メニシテ單ニ杞憂ニ過キス而シテ平坦部足踏水車ヲ以テ灌溉セシ地方ハ電氣機械灌溉
ノ便拓ケタレハ益々移植期引下實行ノ機熟シ大正十一年來之ヲ縣下ニ獎勵シタル結果大正十二年稻作ヨリ佐賀市、佐
賀郡、神埼郡、三養基郡、小城郡、杵島郡ノ一市五郡四十四町村三化性螟蟲ノ發生スル約二萬町步中約一萬九千百餘
町步ハ之ヲ實行スルニ至リ超エテ大正十三年ニハ約一萬九千三百餘町步ノ實行ヲ見ルニ至リタリ

第四 協議事項及其ノ決議

甲 農林省提出協議事項

- 一、農作物及農産物ノ病菌害蟲驅除豫防ノ普及獎勵ニ關シ待ニ注意スヘキ事項
- 二、種苗等ニ依リ傳播スル病菌害蟲ノ蔓延防止ニ關シ特ニ注意スヘキ事項
- 三、左記病菌害蟲驅除豫防ノ普及獎勵ニ關シ特ニ注意スヘキ事項

(甲) 稻 熱 病

(乙) 二化性螟蟲

- 四、農業經濟上重要ト認ムル病害蟲ノ分布及農作物ノ品種ト病蟲害トノ關係ニ關スル連絡調査施行ニ關スル件
- 五、販賣殺蟲殺菌劑及防除用器具機械ノ購入及使用ニ關シ特ニ注意スヘキ事項

乙 府縣提出協議事項

一、秋 田 縣

- (一)、農業用藥劑ノ検査法並ニ取締法ノ制定ニ關スル件
- (二)、農業用藥劑ニテ外國ヨリ輸入スルモノニ關稅撤廢ニ關スル件

二、栃 木 縣

殺菌殺蟲劑取締規則制定ニ關スル件

三、靜岡縣

- (一)、殺菌劑及殺蟲劑ノ効果試驗方法統一ニ關スル件
- (二)、殺菌劑及殺蟲劑ノ成分取締ニ關スル件

四、滋賀縣

- (一)、稻麴病ハ稻病害中被害激甚ナルモノノ一ニシテ其ノ豫防甚タ困難ナリ該病ニ對スル最モ有効ナル豫防手段如何
- (二)、野鼠ノ種類ト窒扶斯病菌ノ感染力如何
- (三)、鰥ノ最モ簡便有効ナル驅除法如何
- (四)、農作物病蟲害被害程度調査標準如何

五、島根縣

- (一)、重要病蟲害損害統計作製ノ可否並其ノ方法如何
- (二)、病蟲害驅除豫防ニ關スル試驗成績發表方法統一ノ件

六、福岡縣

病害蟲驅除豫防施設ニ關シ建議ノ件

- (一)、農作物病害蟲驅除豫防ノ研究機關ヲ擴張セラレタキコト
- (二)、種苗取締ニ關シ施設ヲ講セラレタキコト
- (三)、販賣殺菌殺蟲劑取締ニ關シ施設ヲ講セラレタキコト
- (四)、國費ヲ以テ各府縣ニ病害蟲專任技術官ヲ設置セラレタキコト

丙 農林省提出協議事項ニ對スル決議

一、農作物及農産物ノ病菌害蟲驅除豫防ノ普及獎勵ニ關シ特ニ注意スヘキ事項

(甲) 病蟲害研究機關ノ擴張ニ關スル事項

國ニ於テ速ニ獨立ノ病菌害蟲研究所ヲ設置シ病菌害蟲及之ガ防除ニ關スル根本的調査研究ヲ行ハレ度キコト但シ直ニ之ヲ實現スル能ハサル場合ニハ速ニ現在ノ研究機關ヲ擴張完備ヲ圖ラレ度キコト

(乙) 專任技術員ノ設置ニ關スル事項

(一) 地方廳ニ專任技術員ヲ設置シ驅除豫防ニ關スル指導督勵ヲ行フコト

此ノ場合ニ於テハ國費ヲ以テ之ヲ設置セラレ度キコト但シ國費ヲ以テ設置スルコト能ハサル場合ニ於テハ國庫ヨリ成ルヘク高率ノ補助金ヲ交付セラレ度キコト

(二) 地方農事試驗場ニ病菌及害蟲ニ關スル各專任技術員ヲ設置シ驅除豫防ニ關スル試驗研究及調査ヲ行ヒ其ノ成績ノ普及ヲ圖ルコト

(丙) 指導督勵ニ關スル事項

(一) 國ニ於テ毎年一回道府縣病菌害蟲驅除豫防主任技術官協議會ヲ開催シ驅除豫防ノ方針及方法ヲ指示シ其ノ統一ヲ期セラレタキコト

(二) 道府縣及郡市町村ニ於テハ適當ノ時期ニ於テ驅除豫防ノ督勵ニ從事スル者ノ協議會ヲ開催シ驅除豫防ノ方針及方法ヲ指示シ其ノ統一ヲ期スルコト

(三) 道府縣ニ於テハ時々郡市町村農業技術員其ノ他驅除豫防ノ督勵ニ從事スル者ニ對スル講習會ヲ開催シ病菌害

蟲及之ヲ驅除豫防ニ關スル智識及技術ノ向上ヲ圖ルコト

(四) 驅除豫防ノ督勵ヲ行フニ當リテハ病菌害蟲ニ關スル智識及經驗ヲ有スル者ヲシテ之ニ當ラシメ懇切ヲ旨トシ且農家ノ自覺ヲ促ス様注意セシムルコト

(五) 驅除豫防ニ關スル指導又ハ傳習ハ成ルヘク適切ノ時期ニ於テ實地ニ就キ之ヲ行フコト

(六) 効果顯著ノ驅除豫防ノ方法ニ就テハ成ルヘク多數ノ模範驅除豫防地ヲ設置シ當業者ヲシテ見學セシメ自發的驅除豫防ノ普及發達ニ努ムルコト

(七) 病菌害蟲ノ驅除豫防ハ之ヲ共同施行スル場合ニ於テ特ニ其ノ效果顯著ナルヲ以テ適當ト認ムル組織(農事實行組合、園藝組合、驅除豫防組合、其他適當ト認ムル組合)等ニ依リ共同防除ヲ勵行セシメ之ニ對シ各種機關ニ於テハ防除技術ノ指導防除用諸材料ノ紹介、購入斡旋及貸與ヲ行フ等指導獎勵ノ途ヲ講スルコト

(八) 各級農會、青年會及其ノ他ノ團體トノ連絡ヲ圖リ驅除豫防ノ徹底ヲ期スルコト

(九) 師範學校、農業學校、農業補習學校及小學校トノ連絡ヲ圖リ驅除豫防方法ノ統一ヲ期スルコト

(一〇) 市町村若ハ其ノ農會ヲシテ成ルヘク農業技術員ヲ設置セシメ他ノ農事改良事業ト共ニ驅除豫防ノ指導獎勵ニ努メシムルコト

(丁) 害蟲驅除豫防ノ施行ニ係ル命令ニ關スル事項

(一) 命令ニ依リ驅除豫防ヲ強制スル場合ニ於テ驅除豫防ノ方針方法ハ病菌害蟲ノ種類、發生狀況、傳播蔓延ノ虞ノ有無及地方ノ事情ニ應シ極メテ適切ナラシムルコト

(二) 命令ノ發布改廢ニ際シテハ技術上、經濟上等ノ見地ヨリ慎重ナル考慮ヲ拂ヒ苟モ命令濫用ノ弊ヲ生スルカ如キコトナキ様注意スルコト

(戊) 農家智識ノ開發ニ關スル事項

- (一) 地方農事試驗場等ニ於テハ重要病菌害蟲ノ標本、模型及圖巾等ヲ製作シテ陳列シ一般ニ見學セシムル外成ルヘク物産陳列場郡市町村及其ノ他農會、農業補習學校、小學校等ニ配付スルコト
 - (二) 重要病菌害蟲ノ驅除豫防ニ關シ簡易適切ナル小冊子及ポスター等ヲ配付スルコト
 - (三) 病菌害蟲ノ驅除豫防ニ關スル適切ナル講習講話、實地指導及傳習ヲ行フコト
 - (四) 活動寫眞ハ驅除豫防等ノ實況ヲ了解セシムル上ニ於テ効果頗ル大ナルヲ以テ適時ニ之カ利用ヲ圖ルコト
- 二、種苗等ニ依リ傳播スル病菌害蟲ノ蔓延防止ニ關シ特ニ注意スヘキ事項

- (一) 政府ニ於テ種苗取締法ヲ制定シ統一アル方針ノ下ニ種苗ノ検査ヲ勵行スルコト
- (二) 種苗ノ需要者ハ種苗ニ依リ傳播スル病菌害蟲ニ關シ殆ト智識ヲ有セサル結果病菌害蟲附着ノ有無ヲ顧慮セス單ニ安價ナル種苗ヲ購入セムトスルモノ多キ狀態ナルヲ以テ講習講話又ハ簡易適切ナル印刷物ノ配付等ニ依リ種苗ニ依ツテ傳播スル病菌害蟲ニ關スル智識ノ開發ヲ圖リ需要者ノ自覺ヲ促スコト
- (三) 種苗ノ共同購入ヲ獎勵シ府縣郡市町村又ハ其ノ農會及組合等ニ於テ購入ノ斡旋ヲ爲スコト
- (四) 種苗ノ購入ニ際シテハ恐ルヘキ病菌害蟲ノ附着セサルコトヲ條件トシ平素信用ヲ重ンスル營業者ヲ選擇シテ注文シ且購入種苗到着ノ際ハ病菌害蟲ノ有無ニ關シ周到ナル検査ヲ行ヒ危險ノ虞アリト認ムルモノニ付テハ消毒ヲ行ヒ充分安全ト認メタル上定植スルコト

前項ノ場合ニ於テハ府縣郡市町村又ハ其ノ農會及組合等ノ技術員ヲシテ助力セシムルコト

- (五) 種苗ノ購入數量相當多量ニ達スル場合ニ於テハ府縣郡市町村又ハ其ノ農會及組合等ノ技術員ヲ產地ニ派遣シ該技術員ヲシテ優良ナル種苗購入ノ斡旋ヲ爲サシムルコト

(六) 種苗ヲ多ク生産スル道府縣ニ於テハ重要ト認ムル病菌害蟲ノ種類及驅除豫防方法ヲ害蟲驅除豫防法施行規則中ニ規定シ種苗育成、貯藏又ハ假植中ニ於テ周到ナル驅除豫防ヲ勵行セシメ健全ナル種苗ノ供給ニ努ムルコト

(七) 種苗ヲ多ク生産スル道府縣ニ於テハ同業組合準則組合等ノ團體ヲ組織セシメ病菌害蟲ノ共同驅除豫防、母樹園ノ經營其ノ他ノ事業ヲ實行スル様獎勵スルコト

(八) 農事試驗場等ヨリ種苗ノ配付ヲ爲スニ當リテハ病菌害蟲ノ驅除豫防及檢查ヲ嚴重ニ施行シ充分安全ト認ムルモノヲ配付スルコト

(九) 種苗取締法ノ制定セラルル迄ハ第一項ニ付テハ左記事項ニ依ルコト

イ、種苗ヲ多ク販賣スル道府縣ニ於テハ成ルヘク移出種苗ノ檢查取締ヲ實施スルコト

ロ、種苗ヲ多ク移入スル道府縣ニ於テハ成ルヘク移入種苗ノ檢查取締ヲ實施スルコト

ハ、種苗ノ移入檢查ヲ行フニ當リテハ特ニ左記事項ニ注意スルコト

(イ) 移出檢查ヲ實施シツツアル道府縣ヨリ移入スルモノニ對シテハ移出地道府縣ノ檢查合格證アルニ在ラサレハ成ルヘク之ヲ移入セシメサルコト

(ロ) 前號移出檢查ノ成績ニシテ信賴スルニ足ルヘキモノニ對シテハ移入檢查ハ成ルヘク之ヲ簡略ニスルコト

三、(甲) 稻熱病驅除豫防ノ普及獎勵ニ關シ特ニ注意スヘキ事項

(甲) 指導獎勵ニ關スル事項

(一) 品種ノ選擇ニ關スル事項

稻熱病ノ發生多キ地方ニアリテハ發病少キ品種ヲ選フ事特ニ稻首稻熱病ノ少キ品種ハ地方ニヨリ差異ヲ生スルカ故ニ之レカ選擇ニ當リテハ各地方ニ於テ試驗又ハ調査ヲ要ス

(二) 施肥ニ關スル事項

イ、苗代及本田ノ肥料ハ窒素質肥料ニ偏セス磷酸及加里質肥料ヲ適當ニ加用スルコト

ロ、綠肥及大豆粕等ノ如キ有機質窒素質肥料ヲ施用スル場合ニハ其ノ三要素ノ配合施用量及施用時期等ニ注意スル事

但粘土質土壤ニアリテハ特ニ注意ヲ要ス

ハ、綠肥ヲ使用スル場合ニハ成ルヘク一旦乾燥セシメ相當量ノ石灰ヲ併用シ插秧迄ニ醱酵終ル様施ス事

ニ、粘土質土壤ニ有機質窒素質肥料ヲ多量ニ施用シタル場合蔭濕低溫ノ天候持續シタル後氣溫急ニ高昇スレハ之等ノ肥料ハ急激ニ醱酵シ爲ニ發病ノ誘引トナルモノナレハ斯ル天候持續セハ相當量ノ石灰ヲ施用シ成ルヘク排水シテ中耕除草ニ努メ尙相當量ノ過磷酸石灰ヲ施用スルコト

ホ、下水ノ流入スル處及耕地整理跡地及前年又ハ插秧前旱魃ニ遭遇シタル田ニハ特ニ窒素質肥料ノ施用量ヲ加減スルト共ニ磷酸及加里質肥料ヲ充分ニ加用スルコト

(三) 播種及插秧ニ關スル事項

イ、種子ハ鹽水撰ヲ行ヒ薄蒔トシテ強剛ナル苗ヲ仕立ツル事

ロ、發病シ易キ水田ニハ小株密植ヲ行フ事

(四) 耕耨ニ關スル事項

イ、耕土深キ所ニハ發病少キヲ以テ成ルヘク深耕スル事

ロ、葉稻熱病發生ノ兆アル際ハ特ニ數回中耕ヲ行フ事

(五) 灌漑水ニ關スル事項

成熟期ニ於ケル落水早キニ失スル時ハ穂首稻熱病ノ發生大ナルヲ以テ差支ナキ限り之ヲ遅延セシムルコト

(六) 藥劑撒布ニ關スル事項

イ、葉ニ發病ノ兆アラハ四斗式石灰ボルドウ液ヲ撒布スル事

ロ、穂首稻熱病ノ豫防ニハ穂揃期ニ一回六斗式過石灰ボルドウ液ヲ撒布スル事

(本劑ノ撒布ハ其効多キヲ以テ成ルヘク實行ヲ獎勵スル事但シ本劑ヲ撒布スレハ糞ニ汚點ヲ生スル事アルモ玄米ノ品質ニ影響ナシ)

(七) 發病シタル場合ノ處理ニ關スル事項

苗代ノ部

苗代ニ於テ發病シタル苗ハ挿秧ニ供セサルコト

(但シ全般ニ輕ク發病シタル場合ハ其ノ根部ノ發育良好ナルモノニ限り供用シ發病甚タシク根部ノ發育不良ナルモノハ抜き取り焼却スヘシ)

本田ノ部

イ、挿秧當時發病甚タシク根部ノ發育不良ナルモノハ健全苗ニ植替ヲ行フ事(但シ植替時期甚シク遅延スル時ニ減收ヲ免レサルニヨリ其時期ニ注意スヘシ)

ロ、挿秧後二三週間以内ニ發病多キ場合ニハ病葉及病株ハ適當ニ處理スル事

ハ、分蘗時期ニ發病多キ場合ニハ石灰、木灰、又ハ過燐酸石灰ヲ適宜施用シ中耕ヲ行ヒ淺ク灌水スル事

(乙) 研究調査ニ關スル事項

稻熱病ノ豫防法ヲ一層的確ナラシムル趣旨ニテ左記ノ事項ニ付聯絡調査ヲ行ヒ本省ニテ纏メ發表セラレタキ事

(一) 品種トノ關係(協議事項四參照)

(二) 灌排水トノ關係

(三) 藥劑ノ撒布及注入トノ關係

三、(乙)二化性螟蟲豫防ノ普及獎勵ニ關シ特ニ注意スヘ事項

(甲) 調査研究ニ關スル事項

(一) 中央ニ於ケル研究機關ニ於テ二化螟蟲ノ趨性及發生加害ノ多少輕重ニ關スル因子等ニ關シ根本的調査研究ヲ行ハレタキコト

(二) 捕蛾採卵天敵利用藥劑防除等經濟的効果竝ニ事情ヲ異ニセル場合ニ於ケル發生加害ノ狀況ニ付テ具體的ニ調査研究ヲ行フコト但シ其ノ設計ハ研究ノ統一連絡ノ爲本省ニ於テ一定ノ方法ヲ示サレタキコト

(乙) 指導督勵ニ關スル事項

(一) 道府縣内事情ヲ異ニスル數ケ所以上ニ於テ蘘及株ニ於ケル越冬調査豫察燈又ハ豫察積蘘ノ設置、第一化期幼蟲ノ最終期ニ於ケル狀態調査(毎年一定ノ時期ニ於テ一定ノ土地及面積ヨリ採取セル被害莖ニ付テ蟲數發育狀態及死滅歩合等ヲ調査ス)等ノ方法ニ依リ發生ノ多少及時期ヲ察知シ驅除ノ適期及督勵方針決定ノ參考ニ資スルコト

(二) 一齊驅除ハ最適期ニ於テ周到ニ施行スル様注意スルコト

(三) 小學校兒童ヲシテ捕蛾採卵其ノ他ノ驅除ヲ行ハシムルハ農村兒童ノ教育上及驅除豫防上極メテ有意義ナルヲ以テ充分學校トノ連絡ヲ圖リ其ノ効果ヲ舉クルニ努ムルコト

(丙) 驅除豫防實施上ノ注意事項

(一) 捕蛾採卵

イ、早稻田、早植田及莖葉ノ繁茂著シキ場所等ニハ特ニ産卵多キヲ以テ本田ノ採卵ヲナスニ當リテハ之等ノ場所ニ力ヲ注クコト

ロ、一齊驅除ノ採卵回数ハ之ヲ一定シ難キモ第一化期ヲ通シ三回乃至五回ヲ標準トシ毎回ノ間隔ハ七日以内ヲ適當ト認ム

(二) 卵寄生蜂ノ保護

イ、採卵ヲ行ヒタル場合ニハ其ノ卵塊ハ益蟲保護器ニ投シ寄生蜂ヲ保護スルコト

ロ、寄生蜂保護器トシテ専用ノモノヲ設置シ得サル場合ニ於テハ適當ノ器物ヲ利用スル様獎勵スルコト

ハ、寄生蜂保護器ハ當業者各自ニ設置スルヲ適當トスルモ若シ各自ニ設置スルコト能ハサル場合ニハ小字ニ數ヶ所宛設置シ漸次普及ヲ圖ルコト

(三) 葉鞘變色莖ノ摘採

イ、模範驅除田若ハ指導田ヲ設置シ實例ヲ示シ又ハ競技會等ヲ開催シテ自覺ヲ促スコト

ロ、從來施行シツツアル摘採ノ時期ハ遅キニ失シ其ノ効果ヲ收メ得サル場合少カラサルヲ以テ適期ヲ誤ラサル様充分注意スルコト

ハ、摘採ノ回数ハ螟蟲ノ發生程度其他ノ關係ニ依リ之ヲ一定シ難キモ一回乃至二回ヲ標準トシ二回施行スル場合ニ於テハ七日乃至十日ヲ適當ノ間隔ト認ム

ニ、螟蟲第二化期ノ被害ト稻紋枯病及首稻熱病ノ被害トハ見誤リ易キヲ以テ摘採ニ際シテハ之カ鑑別ニ注意スルコト

(四) 點火誘殺

イ、成ルヘク廣キ區域ニ亙リ實施シ得ル場合ニ於テ之ヲ獎勵スルコト

ロ、比較的安價ニ電燈ヲ利用シ得ル地方ニアリテハ成ルヘク之カ利用ヲ獎勵スルコト

ハ、點火期間ハ螟蛾發生最盛期ニ於テ第一化期二十日内外第二化期十日内外ヲ大體ノ標準トスルコト

(五) 積藁ノ搔拂其ノ他藁又ハ株ノ處理

藁又ハ株ニヨリ越年シタル螟蟲ノ被害多キ地方ニシテ且廣キ區域ニ亙リ實施シ得ル場合ニ於テ之ヲ獎勵スルコト

(六) 栽培上ノ注意

イ、慣習ニ依リ必要以上早植ヲ行フ地方ニアリテハ差支ナキ限リ移植期ヲ遲延セシムルコト

ロ、螟蟲ノ被害ハ稻ノ品種ニ依リテモ大差アルヲ以テ品種ノ改良及選擇ニハ此點ニ注意スルコト

ハ、落水ノ時期早キニ失スルトキハ螟蟲ノ被害大ナルヲ以テ差支ナキ限リ之ヲ遲延セシムルコト

二、施肥其ノ他栽培法ト螟蟲ノ被害トハ關係少カラサルヲ以テ此ノ點ニ注意スルコト

四、農業經濟上重要ト認ムル病菌害蟲ノ分布及農作物ノ品種ト病蟲害トノ關係ニ關スル連絡調査施行ニ關スル件

(甲) 分布調査

(一) 調査スヘキ病菌害蟲ノ種類

作物ノ重要病菌害蟲

イ、病害ノ部

(イ) 普通作物病害

病 害 名

主ナル被害作物

稻熱胡、稻胡麻葉枯病、稻白葉枯病、稻萎縮病、稻紋枯病、稻小粒菌核病、稻麴病
麥類各種黑穗病類、麥斑葉病、大麥及小麥赤澁病、麥立枯病、麥萎縮病、毒麥

麥 稻

(ロ) 蔬菜病害
瓜類露菌病

瓜 類

馬鈴薯捲葉病、馬鈴薯「モザイック」病、馬鈴薯瘡痂病、馬鈴薯疫病

馬鈴薯

茄子青枯病

茄 及蕃茄

菜薹、甘藍黑腐病

菜薹及甘藍

小豆「モザイック」病

小 豆

薑腐敗病

薑

(ハ) 果樹病害

梨赤星病、梨黑星病、梨黑斑病

梨

柿炭疽病、柿落葉病

柿

葡萄炭疽病、葡萄黑疽病、葡萄蔓割病

葡 萄

櫻桃落葉病、櫻桃花腐病

櫻 桃

桃炭疽病、桃立枯病

桃

果樹類根頭癌腫病

果樹類

柑橘類潰瘍病、柑橘類瘡痂病、柑橘類黃斑性落葉病、柑橘類樹脂病、柑橘類赤衣病

柑 橘

柑橘類褐色腐敗病

協議事項及其ノ決議

苹果花腐病、苹果腐爛病、苹果褐斑病

栗胴枯病

(二) 特用作物病害

油菜菌核病

茶白星病

茼蒿腐敗病、茼蒿白絹病

除蟲菊菌核病

(ホ) 花 卉

百合立枯病

(ヘ) 綠肥作物ノ病害

紫雲英菌核病

ロ、害虫ノ部

(イ) 普通作物害虫

害 虫 名

二化性螟蟲、三化性螟蟲、大螟蟲、浮塵子(棲黑横這、稻妻横這、背白浮塵子、鳶

色浮塵子、姬鳶浮塵子)、稻黑椿象、稻苞蟲 *Parara guttatus* Brem 泥負蟲、搖蚯蚓

麥(種子)線蟲

甘藷ノ夜盜蟲(ナカシロシタバ)、アリモドキ象蟲

苹果

栗

蕁 藨

茶

茼 蒿

除蟲菊

百 合

紫雲英

主ナル被害物

稻

麥種子

甘 藷

野鼠

一般作物

(ロ) 貯穀害蟲

穀象、グラナリヤ穀象 *Calandra granaria* L. 粉長蠹 *Rizopertha dominica* Fabr.

麥蛾

麥

小豆象蟲 *Bruchus chinensis* L. 豌豆象蟲 *Bruchus pisorum* L.

豆類

(ハ) 蔬菜害蟲

偽瓢蟲

馬鈴薯、茄

菜薹蚜蟲

菜薹

南瓜實蠅

南瓜

瓜實蠅、瓜守

瓜類

ネマトーダ(線蟲)、サルハムシ

蔬菜

夜盜蟲 *Barthura brassicae* L.

蔬菜、大麻、甜菜、煙草

(ニ) 果樹害蟲

イセリヤ介殼蟲、ルビー蠟蟲、矢根介殼蟲、黑粉蟲、蜜柑ノ綿介殼蟲 *Pulvinaria aurantii* Ckll.

白簍蟲、密柑蠅、密柑小實蠅

柑 橘

フキロキセラ

葡 萄

サンホーゼ介殼蟲

苹果、梨

梨姬心喰蟲、黃粉蟲、梨ノ實鋸蜂

梨

(五) 調査及記載ニ關シテハ左記ニ注意スルコト

但シ大、中、小ハ各府縣ニ於テ各標準程度ヲ決定シ備考欄ニ記入スルコト

(乙) 品種卜病菌害蟲卜ノ關係調査

(一) 調査スヘキ病菌害虫ノ種類

イ、病害

稻熱病、稻白葉枯病、小麥赤澁病

口、害蟲

二化性螟蟲

(二) 調査様式

	ノ種類	病菌害蟲
	品種名	被害多キ品種
	特性	
	品種名	被害中庸ノ品種
	特性	
	品種名	被害少キ品種
	特性	
	品種名	殆ト被害ナキ品種
	特性	
	備	
		考

(三) 調査方法

主ナル品種ヲ稻麥ニアリテハ一區十坪以上ヲ栽培シ調査スルコト若シ經費ノ關係上試験地ヲ特ニ設置スルコト困難ナル場合ニハ試験場ニ於ケル品種試験或ハ當業者栽培ノモノニ就テ調査スルコト

(四) 調査施行期間及報告期日等

本調査ハ大正十五年ヨリ三ヶ年間繼續シテ施行シ調査報告ハ毎年三月末日迄ニ本省ニ報告シ本省ハ之ヲ取纏メテ印刷ニ附シ一般ニ配付スルコト

(五) 調査及記載ニ關シテハ左記ニ注意スルコト

イ、病菌害蟲ノ種類ニ依リテハ其ノ品種ノ特性ノミニアラスシテ例ヘハ首稻熱病ハ發病ノ誘因ト出穂期ト一致セル場合ニ被害多ク又麥ノ赤黴病ハ乳熟期ニ雨ニ遭遇セシモノノミ發病スルカ如キ特殊ノモノアルヲ以テ之等ノ關係ヲ考慮調査スルコト

ロ、普通ノ狀態ニ於テ病菌害蟲ノ發生少ク調査困難ナル場合ニハ成ルヘク發生シ易キ狀態ニ栽培シ調査スルコトハ、試験及被害多中少等ノ査定方法及調査期日ハ之ヲ備考ニ記載スルコト

ニ、品種特性ノ記載ハ早中晩及品質ノ良否等ヲ簡單ニ記載スルコト

ホ、累年平均及當年ノ旬別氣象表ヲ添付スルコト

五、販賣殺蟲殺菌劑及防除用器具機械ノ購入及使用ニ關シ特ニ注意スヘキ事項

(甲) 購入ニ關スル注意事項

(一) 驅除豫防上効果大ナル藥劑及器具機械ニ對シテハ紹介購入上ノ斡旋ヲ行ヒ之カ普及ニ努ムルコト

(二) 成ルヘク共同購入ヲ獎勵スルコト

(三) 新ニ發賣セラルルモノハ之ヲ蒐集シ農事試驗場等ニ於テ試驗ヲ行ヒ成ルヘク速カニ其ノ成績ヲ發表シ一般ノ參考ニ供スルコト

(四) 不良及不正品ヲ發見セル場合ニハ其ノ都度速カニ之ヲ本省及地方ニ通知スルコト

(乙) 使用ニ關スル注意事項

(一) 驅除豫防藥劑及器具機械ノ使用ハ特殊ノ技術ヲ必要トスル場合多キヲ以テ充分實地指導ヲ行ヒ之カ使用ノ要領ヲ了得セシムルコト

(二) 藥劑ノ撤布若ハ使用ニ際シテハ適期ヲ失セサル様充分注意スルコト

(三) 殺蟲殺菌劑ノ配合及同一作物ニ期日ヲ異ニシテ異ル藥劑ヲ撤布スル場合ノ効果及藥害等ニ關シテハ農事試驗場等ニ於テ試驗ヲ行ヒ其ノ成績ヲ公表シ當業者ヲシテ使用ヲ過ラシメサル様注意スルコト

(四) 藥劑及器具機械ノ選擇ハ作物及病菌害蟲ノ種類及地勢ヲ考慮シ夫々適合シタルモノヲ使用セシムル様注意スルコト

(五) 防除用器具機械ニシテ個人ニテ購入スルコト困難ナル事情アル場合ニハ數人共同シテ購入セシメ交互ニ使用セシムル等ノ方法ヲ講シ之カ普及ニ努ムルコト

丁 道府縣提出協議事項ニ對スル決議

一、滋賀縣提出協議事項(一)、(二)及(三)

右ハ農林省農事試驗場及地方農事試驗場ニ於テ更ニ試驗研究スルコト

二、滋賀縣提出協議事項(四)及島根縣提出協議事項(一)

各種農作物ノ被害程度ヲ調査シ損害統計ヲ作製スルハ最モ緊要ナル事項ナリト認ムルモ調査方法ニ付未タ統一の良法ヲ協定シ得サルヲ以テ先ツ稻ニ化性螟蟲ニ就キ當分左ノ通實行スルコト

(一) 本省ニ於テ其ノ方法ヲ研究セラルルト共ニ現在數府縣ニ於テ行ヒツツアル方法ヲ調査シテ示サレ度キコト

(二) 道府縣ニ於テハ右ノ中適當ト認ムル方法ニ依リ成ルヘク本調査ヲ施行シ其ノ成績ヲ毎年三月末日迄ニ本省ニ報告シ本省ハ之ヲ取纏メテ發表セラレ度キコト

三、静岡縣提出協議事項(一)及島根縣提出協議事項(二)

試驗方法並ニ觀察及成績調査方法ヲ詳細ニ發表スルコト

四、福岡縣提出協議事項(一)及(四)

左記事項ヲ建議スルコト

(一) 病害蟲研究機關擴張ニ關スル事項

國ニ於テ病害蟲研究所ヲ設置シ病害蟲及之カ防除ニ關スル根本的調査研究ヲ行ヒ併テ督勵事務ニ從事スル技術員ノ養成ニ努メラレ度キコト

但シ之レカ實現シ能ハサル場合ニ於テハ速ニ現在ノ研究機關ノ擴張完備ヲ期セラレ度キコト

(二) 病害蟲專任技術員設置ニ關スル事項

國費ヲ以テ地方廳ニ專任技術員ヲ設置シ病害蟲驅除豫防ニ關スル指導督勵ヲ行ハレ度キコト
但シ速急ニ實施不可能ノ場合ハ成ルク高率ノ補助金ヲ交付セラレ度キコト

五、福岡縣提出協議事項(二)

種苗取締ニ關シテハ之カ取締法ヲ直ニ制定セラルル様本省ニ建議スルコト

一、落水卜、關係試驗

- | | | | |
|--|------------------|-----|------------------|
| (イ) | 普通ヨリ五日間選レテ落水スルモノ | (ロ) | 普通ヨリ十日間選レテ落水スルモノ |
| (ハ) | 十五日間選レテ落水スルモノ | (ニ) | 標準（其ノ地方ニ於ケル普通落水） |
| 以上ハ一區拾坪宛ニ區劔トシ肥料ニハ窒素肥料ヲ多施シ且發病シ易キ品種ヲ栽培シ發病歩合ヲ | | | |

調査スルコト

調査様式

[illegible]

一、調査上ノ注意

一、稻熱病以外ノ病蟲害ニシテ收穫ニ影響アル程度ニ發生シタルトキハ其ノ狀況ヲモ觀察シ備考トシテ記載スルコト

一、調查期間及報告期間等

本調査ハ大正十五年度ヨリ三ヶ年間継続シテ施行シ毎年三月末日迄ニ之ヲ本省ニ報告スルコト

二、藥劑 / 撒布 / 關係

首稻熟病豫防藥劑撒布試驗

- | | |
|-----|------------------------------|
| (イ) | 出穂、直前及穂揃期ニ各一回四斗式過石灰「ボルドウ」液撒布 |
| (ロ) | 六斗式過石灰「ボルドウ」液撒布 |
| (ハ) | 穂揃期ニ一回四斗式過石灰「ボルドウ」液撒布 |
| (ニ) | 六斗式過石灰「ボルドウ」液撒布 |
| (ホ) | 無豫防 |

備考 過石灰「ボルドウ」液ハ硫酸銅百二十部ニ對シ生石灰三百六十部ヲ使用シタルモノ

調查樣式

[illegible]

六、福岡縣提出協議事項(三)、栃木縣提出協議事項、静岡縣提出協議事項(二)及秋田縣提出協議事項(一)
 農業用殺菌殺蟲劑取締法ヲ制定セラルル様建議スルコト

七、秋田縣提出協議事項(二)

農業用藥劑ニシテ外國ヨリ輸入セラルル硫酸ニコチンノ關稅ヲ撤廢セラルル様建議スルコト

八、道府縣提出協議事項ニ對スル決議ニヨリ農林省ニ於テ決定セル稻熱病豫防試驗設計並螟蟲被害額計算法

二化性螟蟲第二期被害率算定法(其ノ一)

一郡ヲ三區(以上)ニ分チ各區共其ノ區内作柄被害中庸ト認ムル田一區ヲ選ヒ其田區中更ニ作柄中庸ト認ムル箇所ニ於テ早中晩稻各ニ付坪刈ヲ行ヒ左ノ調査ヲ行フ

全莖ヲ健全莖ト被害莖トニ分チ各其ノ莖數ヲ數ヘ且各收量ヲ調査シ左記様式ニ依リ郡又ハ町村ヨリ府縣農事試驗場ニ報告セシム

調査様式

二化性螟蟲被害莖坪刈調査

事	項	早	中	晚
調	査			
地				
耕	作			
者				
刈	取			
月				
日				

早中晩稻品種名	健全莖			被害莖			總計		
	本數	收量	同上重量	本數	收量	同上重量	本數	一坪收量	同上重量
早稻	：	：	：						
中稻	：	：	：						
晩稻	：	：	：						

備考

- 一、……………
一、……………

右調査上ノ注意

- 一、調査箇所ハ成ルヘク技術員設置シアル町村ニテ選ムコト
一、調査ニ際シテハ成ルヘク府縣病害蟲技術員立會スルコト
一、坪刈ハ道府縣多收穫品評會等ニ於ケル方法ニ依ルコト
一、被害莖ハ莖葉ニ螟蟲喰害ノ痕跡アリ且穂ニ被害ノ影響アリト認ムルモノトス
一、收量ハ粃（生又ハ乾燥）又ハ玄米容量トス
- 府縣農事試験場ニ於テハ同様ノ調査ヲ施行スルト共ニ郡市町村ヨリ報告ノ分ニ付左記方法ニ依リ被害率ヲ算出シ次テ早、中、晩稻府縣平均被害率ヲ算出シ府縣早中晩稻ノ標準收量ニ依リ府縣被害額ヲ算出シ毎年三月末日迄ニ之ヲ本省ニ報告シ本省ハ之ヲ取纏メテ發表スルコト

A 被害率算出法

健全莖ノ本數ヲ以テ健全莖ノ收量ヲ除スレハ健全莖一本ノ收量ヲ得ヘシ之ニ被害莖數ヲ乘スレハ被害莖ヲ無被害莖ト見做シタル收量トナル之ニ健全莖ノ收量ヲ加フレハ一坪無被害ノ場合ノ收量(標準收量)ヲ得
此標準收量ヨリ一坪收量ヲ減シタル差ヲ標準收量ニテ除スレハ求ムル所ノ被害率トナル即チ

- (1) $\frac{(\text{健全莖ノ收量})}{(\text{健全莖ノ本數})} = (\text{健全莖一本ノ收量})$
 (2) $(\text{健全莖一本ノ收量}) \times (\text{被害莖數}) = (\text{被害莖ヲ無被害ト見做シタル場合ノ收量})$
 (3) $(\text{健全莖ノ收量}) + (\text{被害莖ヲ無被害ト見做シタル場合ノ收量}) = (\text{標準收量})$ 即チ(一坪無被害ノ場合ノ收量)
 (4) $\frac{(\text{標準收量}) - (\text{調査地一坪收量})}{(\text{標準收量})} = (\text{被害率})$

B 本省ヘノ報告様式

甲 二化性螟蟲第二化期被害率調査表

調 査 地	事 項	早	中	稻	晚	稻
	品 種 名					
	刈 取 月 日					
	一坪健全莖數及收量					
何 郡……………	一坪被害莖數及收量					
	一坪總莖數及總收量					
	反 當 收 量					
	一坪標準收量					

	反當標準收量				
	被害莖ノ粗又ハ玄米一升重量				
	健全莖ノ粗又ハ玄米一升重量				
	總莖ノ粗又ハ玄米一升重量				
	被害率				
	備考				
何郡内平均	被害率				

右調査上ノ注意

- 一、郡内平均被害率ヲ算出スルニハ郡内各調査區ニ於ケル被害率ト作付面積トヲ考慮ニ入ルルコト
 乙、二化性螟蟲第二化期府縣平均被害率及被害額調査表

調査郡	事	項	早	中	晚	稻	總計
何郡外何郡	府縣内平均被害率						(總平均)
	府縣作付反別及割合						
	府縣實收量						
	府縣標準收量						
	府縣被害額						
	備考						

右調査上ノ注意

- 一、被害率早中晩總平均ハ早中晩ノ平均被害率ト作付割合トヲ考慮ニ入レ算出スルコト
- 一、府縣標準收量ヨリ早中晩各別ニ被害額ヲ算出シ被害額總計ヲ出スコト

但シ府縣標準收量ハ左ノ方法ニ依リテ算出スルコト

$$\frac{\text{（府縣實收量）}}{\text{一（府縣內平均被害率）}} = \text{（府縣標準收量）}$$

二化性螟蟲第二化期被害率算定法（其ノ二） 福岡縣ニ於ケル調査方法

各郡一ヶ所以上ニ於テ郡內ニ於ケル地味中等田ニシテ螟蟲ノ被害中位ト認ムル箇所ヲ選定シ被害大中小標準ノ四區（同一田區又ハ隣接區域ノ同一品種ニシテ地味肥培法略相似タル各一坪宛）ヲ早中晩毎ニ區別選定シ晴天ノ日刈取り直ニ脱粒シ三日間莖乾ヲ行ヒ嚴重ニ調製ヲ爲シ左ノ調査ヲ行フ但シ

一、標準區ハ無被害區ナルヲ以テ若シ被害莖アルトキハ無被害莖ト入レ換フ

二、被害程度ノ鑑別ハ肉眼ニ依ルモノニシテ其標準ハ二化性螟蟲ノ喰害ニ依リ生スル自穂出スクミカラクダン等ノ被害狀況ニ依リ其ノ程度ヲ區別ス

調査様式

二化性螟蟲被害調査 何郡

稻品種名 刈取 月 日

耕作地 町村大字名

耕作者

調査項目	被害程度		大	中	小	平均	標準(無被害)
	一坪	一升					
一坪 粃 容量	容量	重量	勺				
一坪 玄米 容量	容量	重量	勺				
一升 玄米 容量	容量	重量	勺				
一升 玄米 重量	重量	容量	勺				
反當 玄米 容量	容量	重量	合				
標準ニ對スル反當生産容量歩合	歩合	容量	%				
反當 玄米 重量	重量	容量					
標準ニ對スル反當生産重量歩合	歩合	重量					
備考							無被害莖ト入換

被害歩合算出法

一、早稻(中稻晚稻モ本法ニ依ル)

(イ) 被害大區 各郡ノ被害大區ヲ各調査項目別ニ加算シ施行郡數ニテ除シ被害大區ノ縣平均ヲ求ム

(ロ) 被害中區、小區及標準ノ算出法同上

次ニ早稻ニ於ケル螟蟲被害力必スシモ大中小三者カ三分ノ一ノ反別宛ニ存スルモノニアラサルヲ以テ被害大中小標準(無被害)ノ反別百分比ヲ其ノ年ノ被害狀況ヨリ考察シ之等ノ比ヲ用ヒテ大中小ノ平均ヲ求ム之レ早稻ノ被害平均ナリ例ヘハ大正十一、十二年度ノ大中小ノ被害平均ハ被害大一〇%被害中位ハ三〇%被害小ハ六〇

%トシ大正十三年度ハ被害大ハ五%同中ハ三〇%同小ハ六五%トセリ右ノ如クシテ各別ニ被害平均ヲ求メ次ニ早中晩稻ノ三者ノ平均ヲ求ムルニハ早中晩稻ノ縣下ニ於ケル作付反別ノ歩合ニ應シ被害平均及標準二者ノ各項目ニ就キ右歩合ヲ乘シタル早中晩稻ノ三者ヲ加算シ決定ス例ヘハ大正十一、十二年度ハ早稻六一、五%中稻ハ〇、五%晩稻八〇%ノ比ニ算定セシモ大正十三年度ハ三藩郡ニ於テ早稻ノ栽培反別著シク減少シタル結果早稻一〇%中稻五%晩稻八五%トセルカ如シ

而シテ標準ノ平均ヲ以テ二化性螟蟲ノ被害無カリシ場合ノ收穫高ト見做シ被害平均ノ平均ヲ以テ二化性螟蟲ノ被害ニ依ル收穫高ト見做シ此兩者ノ差ヲ以テ被害額トス右ハ調査各項ニ就キ計算スル方法ヲ説キタルモ此ノ中容量及重量ノ項目ニ就テノミ之ヲ行フトキハ其ノ歩合ヲ算出スルコトヲ得

今右調査成績ヲ示セハ左ノ如シ

年次	被害歩合容量	被害歩合重量
大正五年	一、九 ^割	二、一 ^割
六年	二、二	二、六
七年	一、八	二、一
八年	一、四	一、五
九年	一、五	一、七
一一年	〇、九	一、二
一二一年	一、三	一、四
一三一年	一、一	一、四
協議事項及其ノ決議		一一三

九、病害蟲驅除豫防施設ニ關スル要望

協議會ノ決議ニ基キ協議會代表者西村東京府農林技手ヨリ農林大臣宛左ノ如ク要望ス

病害蟲驅除豫防施設ニ關スル要望

病害蟲驅除豫防ノ徹底ヲ期センニハ之レニ關スル施設ノ改善擴張ヲ圖ルコトハ最モ緊要ニシテ就中左記五項ハ速急ニ之カ施設ヲ要スルモノト被認候條速ニ之カ實現ヲ期セラレ度

右全國各府縣病害蟲主任官協議會ノ決議ニ依リ謹テ要望仕候也

全國各府縣病害蟲主任協議會

代表者 東京府農林技手 西村 宇 佐 美印

農林大臣 早速 整 爾殿

一、國ニ於テ病菌害蟲研究所ヲ設置シ病菌害蟲及之カ防除ニ關スル根本的調査研究ヲ行ヒ併テ病害蟲防除督勵ノ事務ニ從事スル技術員ノ養成ニ努メラレ度シ但シ之カ實現困難ナル場合ニハ速ニ現在ノ研究機關ノ擴張完備ヲ期セラレ度キコト

理 由

本邦ニ於ケル主要農作物ノ病菌害蟲ノ被害ニ依ル損失ハ毎年約三億餘萬圓ノ巨額ニ達シ國家經濟上洵ニ遺憾トスル處ナリ而シテ之カ防除ニ關シテハ各地ニ於テ多年調査研究ヲ爲シツ、アルモ未タ十分ナル成績ヲ收ムルニ至ラス而カモ之等ノ研究ニハ多額ノ經費ヲ要スルヲ以テ地方ニ於テハ到底十分ナル目的ヲ達スル能ハサル狀態ニアリ故ニ國ニ於テ病菌害蟲ノ研究機關ヲ擴張完備シ之カ根本的研究ヲ爲シ其ノ成績ヲ發表スルハ最

モ時勢ノ要求ニ應スル措置ナリト信ス、然ルニ現況ヲ見ルニ財政整理上洵ニ已ムヲ得サルヘシト雖モ之等ノ研究機關ハ從來ニ比シ却ツテ縮少セラレツ、アルノ憾アリ斯ノ如キハ病菌害蟲ノ加害益々多カラントスルニ當リ將又食糧充實ニ對シ至ル所講究シテ怠ラサル時ニ際シ洵ニ遺憾ニ堪ヘサル所ナリ因テ此ノ際速ニ相當ノ施設ヲ爲シ此ノ急ニ應スルハ最モ必要ナル事項ナリトス

二、國費ヲ以テ地方廳ニ專任技術員ヲ設置シ病菌害蟲驅除豫防ノ指導督勵ヲ行フコト但シ速急ニ實施不可能ノ場合ニハ成ル可ク高率ノ補助金交付スルコト

理由

近時府縣ニ於ケル病害蟲防除督勵ノ事務ニ從事スルモノノ俸給等ニ對シテハ國費ヨリ幾分ノ獎勵金ノ交付アルモ概ネ地方費ヲ以テ設置シタルモノニシテ動々モスレハ縣經濟上安シテ適切ナル施設督勵ヲ爲スコト能ハサル場合尠ナカラス爲ニ病害蟲防除ノ徹底上甚タ遺憾トスル處ナリ而シテ一方肥料取締蠶病豫防事務監督畜牛結核検査、害益鳥獸調查事務等ニ對シテハ夫々國費ヲ以テ技術官ヲ設置シアルニ拘ラス主要農作物病害蟲防除事務ニ關シテハ前述ノ如キ實狀ニアリテ主從顛倒ノ感ナキ能ハス右ハ食糧充實上特ニ考慮ヲ要スト信スルヲ以テ速ニ前陳ノ如ク國費ヲ以テ地方廳ニ病害蟲ノ防除事務ニ從事スル專任技術員ヲ設置シ徹底的指導督勵ノ要アリ

三、種苗取締法ヲ制定セラレ度シ

理由

植物ノ病菌害蟲ハ種菌ニ依リ傳播蔓延スルコト尠ナカラスニ拘ラス内地相互間ニ於ケル移出入ニ對シテハ數府縣ニ於テ移出検査又ハ移入取締ヲ實施シツ、アリト雖モ検査組織・検査方法等區々ニシテ概ネ其ノ實績

ヲ認ムルニ至ラス而モ他ノ府縣ニ於テハ殆ト之カ取締ヲ放任セル現況ナルヲ以テ各種ノ病菌害虫ハ日ヲ逐テ其ノ分布擴大シ被害尠ナカラス而モ之カ防除ノ費用ハ逐年巨額ニ達シ尙年々増加ノ止ムナキ趨勢ニアリ今ニ於テカ之カ防遏ノ方法ヲ講スルニアラサレハ其ノ慘害ノ及フ處實ニ計リ知ルヘカラサルモノアリ而シテ該種苗ノ取締ノ事業タルヤ各府縣一定法規ノ下ニ一齊ニ勵行スルニアラサレハ其ノ効果ノ十全ヲ期スルコト至難ナルヲ以テ速ニ種苗取締法制定ノ要アリ

四、農業用藥劑ニテ外國ヨリ輸入セラル、硫酸「ニコチン」ノ關稅ヲ撤廢セラレタキコト

理由

農業用藥劑ハ有効ニシテ且ツ經濟上安價ナラサルヘカラス表記硫酸「ニコチン」ハ内地ニテ製造能力尠ナク主トシテ外國ヨリ輸入ヲ仰クモノナリ然ルニ原價ノ高キ本劑ニ更ニ本邦關稅ヲ加算スレハ頗ル高價ノモノトナリ害虫防除獎勵上遺憾ノ點多キヲ以テ本劑ニ對シ特ニ關稅ヲ撤廢シ可及的廉價ニ供給スルノ要アリ

五、農用殺菌殺蟲劑ノ取締法ヲ制定セラレ度シ

理由

病害防除上藥劑ノ使用獎勵ヲ圖ルハ最モ緊要ナルコトニシテ其ノ使用ハ年々増加ノ趨勢ヲ示スニ至リタルハ頗ル喜フヘキ現象ナリトス然ルニ近時坊間販賣ノ藥劑ハ其ノ數頗ル多ク且ツ成分區々ニシテ使用者ヲシテ選擇ニ苦マシムルモノ頗ル多ク加フルニ其ノ製品中ニハ効果ノ頗ル疑問ニ屬スルモノスラアリテ之カ獎勵上支障ヲ來タス憂アルヲ以テ此ノ際速ニ右取締法ヲ制定ノ要アリ

第五 議事經過ノ大要

第一日 七月二十三日 木曜日 農林省會議室ニ於テ

午前九時三十分開會

石黒農務局長開會ノ辭ヲ陳ヘ訓示演說ヲ爲シテ議長席ニ着ク

間部農産課長農林省提出諮問事項並協議事項ノ説明ヲ爲ス

間部農産課長、石黒農務局長ニ代リテ議長席ニ着ク

吉田秋田縣農林技師、本多栃木縣農林技師、吉田靜岡縣產業吏員 川村滋賀縣農林技師、野津島根縣農林技師、今泉

福岡縣農林技師各々其ノ縣提出協議事項ノ説明ヲ爲ス

諮問事項一附議

大塚愛媛縣農林技師「愛媛縣ニ於テハ大正十年移入苗木取締規則制定以來之カ取締ヲ行ヒツアルモ現在ノ如ク二三府縣ノ力ヲ以テハ之レカ徹底甚タ困難ナリ故ニ斯ノ如キハ本省ニ於テ統一シ害蟲驅除豫防法中ニ其ノ一項ヲ設ケラレ度シ又害蟲驅除豫防法第三條中田畑トアルヲ山林、堤塘、庭園等ノ場合ニモ適用シ得ル様改正アリタシ」ト陳述ス
三島岡山縣農林技師「農作物ノ害蟲カ田畑以外ニ發生シタル場合ニハ市町村費ヲ以テ驅除豫防ヲ行ヒ其ノ損害賠償ハ國費或ハ地方費ヲ以テ行ヒ得ル様改メラレ度シ又害蟲驅除豫防ニ對スル地方長官ノ權限ヲ擴張セラレ尙害蟲驅除豫防法ヲ病害蟲驅除豫防法ト改メラレ度シ」ト陳述ス

田邊奈良縣農林技師「苗木取締ニ關シテハ種々承リタルカ病害蟲傳播ノ媒介物ハ主トシテ苗木ニシテ他府縣ヨリ購入セル苗木或ハ行商人ノ商フ苗木ニハ病害蟲ノ附着多ケレハ之レカ取締ヲ行ハレ度シ」ト陳述ス

伊藤神奈川縣農林技手「現行ノ害蟲驅除豫防法ニ依リテハ同法第七條ニ依リ被害者ハ驅除豫防ノ必要ヨリ生シタル損害ニ對シ賠償ノ要求ヲ爲シ得サレトモ之レヲ次ノ如ク改メラレ度シ（以下ノ陳述ハ諮問事項答申（八）神奈川縣ニ等シケレハ省略）」ト陳速ス

竹内青森縣農林技手「第二條第十條ヲ改メテ地方長官ノ權限ヲ擴メ本省ヘハ報告ニ止ムレハ都合好シ」ト陳述ス
午後一時再會

諮問事項二附議

議長指名シテ左ノ通り講演セシム

青森縣（西川農林技手）「苹果落葉病豫防試驗成績ノ普及狀態ニ就テ」

山形縣（市川農林技師）「稻熱病ト春期耕土ノ過乾トノ關係ニ就テ」

栃木縣（川村農林技手）「夜盜蟲驅除トシテノ砒酸鉛撤布法」

福井縣（森野農林技手）「稻黑椿象驅除豫防方法ノ概要」

佐賀縣（前田農林技手）「三化性螟蟲驅除方法トシテ移殖期引下ニ就テ」

愛知縣（鍬塚農林技師）「稻作ニ於ケル稻熱病抵抗性品種ノ改良普及ニ就テ」

大阪府（江津農林技手）「李ノ玉介殼蟲ニ對スル赤星瓢蟲ノ効果」

岡山縣（松本農林技師）「麥ノ跳蟲、桃赤蟲及葡萄ノ粉蟲驅除」

午後二時半大臣ノ訓示（阿部農林事務次官代讀）アリ

諮問事項三附議

議長指名シテ左ノ通り講演セシム

宮城縣(阿部農林技手)「牡鹿郡蛇田村谷地農事改良組合」

奈良縣(田邊農林技師)「齊音寺果樹栽培實行組合」

熊本縣(中村農林技手)「白旗村糸田農事小組合」

長野縣(村田農林技師)「飯島農事小組合」

岡山縣(松本農林技師)「森上果樹病蟲害防除組合」

午後四時散會

第二日 七月二十四日 金曜日 農林省會議室ニ於テ

午前八時三十分開會

間部農產課長議長席ニ着ク

農林省提出協議事項一及福岡縣提出協議事項(一)、(二)附議

高橋新潟縣農林技手「本問題ハ最モ必要ナルモノト考フルモノニシテ研究機關ノ擴張充實ハ各方面ニ於テ必要ナルモノトモ
特ニ農用藥劑ニ關スル專任ノ研究者必要ナレハ之ヲ西ヶ原農事試驗場ニ置カレ度シ」ト陳述ス

山下三重縣屬「指導獎勵ノ方面ヨリ當局ノ執レル現今ノ實際狀態ヲ見ルニ經濟的方面ノ研究ニノミ流レ本省及各府縣
ニ於テモ其ノ發達ノ爲メニノミ施設行ハルル有様ナリ爲ニ病害蟲ノ驅除豫防指導獎勵技術員ノ如キハ他ノ經濟的方面ノモノニ比シ一步讓ルノ感アリ實際調査研究ノ結果ヲ得テ之レカ獎勵指導ニ當リテ人員ノ欠乏ヲ來ス有様ナリ故
ニ此ノ方面ノ專任技術員ヲ多ク置カレ度シ尙驅除豫防ニ關スル研究ヲナシ且ツ其ノ効果ニ就テモ充分ニ調査セラレ
度シ昨日ヨリノ有様ニテハ果樹ノ方面ニハ相當研究セラレ居ルモ米作ニハ少キ感アリサレハ之等ニ對スル技術員ノ
設置ヲ充分ニ徹底セラレ度シ」ト陳述ス

鹽野谷長野縣農林技師「先ニ新潟縣ノ意見有リシカ今日驅除豫防ノ研究ハ可成リ進ミ其ノ効果モ相當見ルヘキモノアルモ獎勵ニ關シテハ遺憾ナカラ人手不足ノ爲ニ實際遲レタル感アリ各府縣ノ專任技術員ハ其ノ數少ナキ有様ナレトモ唯府縣ニ多クノ人ヲ置クノミニテハ不充分ニシテ寧ロ町村ニ重キヲ置クヘキナリト思フ、理論上ヨリスルモ今日ノ農民ハ此ノ方面ニ關スル智識ニ乏シキヲ以テ直接農民ニ接スル町村ノ技術員ハ最モ必要ナリ又一面農民ニ愛セラレ信用サルヘキモノハ町村ノ技術員ナリ殊ニ園藝方面ニ於テ此ノ必要ヲ見ルサレハ害蟲驅除ノ名目ヲ以テハ置キ得サランモ一般農事指導獎勵ノ名ノ下ニ置カレ度シ」ト陳述ス

佐藤山梨縣農林技師「各府縣ニテ種々意見アリタルモ本問題ハ大正七年ノ時既ニ討議研究セラレタルモノナレトモ未タ設置セラルルノ機連ニ至ラサルハ甚タ遺憾ニシテ速ニ實行セラレンコトヲ期待ス實際地方ニ於テ農民ニ對スル驅除豫防指導獎勵ノ徹底セサルコトハ想像以上ニシテ山梨ノ如ク小縣ニシテ經費少ナキ縣ニ於テハ最モ然リ園藝方面ニ於テハ病害蟲驅除豫防ノ充分不充分ハ直ニニ懷勘定ニ至ルヲ以テ割合ニ良ク行ハル例ヘハ本縣ニ於テハ葡萄「ボルドウ」液ヲ撒布セサル時ハ殆ント完全ナル結實ヲ得サレハ我々カ十回位ノ撒布ヲ以テ可ナリト教フルモ當業者ハ十數回乃至二十回モ行フ然ルニ普通作物ニテハ尙遺憾ノ點多シ、勿論大體米麥ニ力ヲ入レ從ツテ米麥ノ害蟲驅除ヲ喧シク云フヲ以テ當業者ハ害蟲驅除トハ米麥ノミ行フモノノ如ク考ヘ居レリ一面小作者ハ小作料引下ノ理由ニセントシテ寧ロ少シ位ノ不出來ハ喜フノ有様ナレハ農家ノ自覺ヲ待ツトノ說アルモ容易ニ出來サルカ故ニ法ノ制定ヲ要ス現在ノ法規ハ運用シ難シ速ニ法ヲ改正シ國費ヲ以テ之レヲ運用スル人ヲ置カレ度シ」ト陳述ス

岡田山口縣農林技師「螟蟲ノ卵寄生蜂ニ就テハ我カ縣ニテモ以前ヨリ調査研究ヲナシ其ノ寄生歩合多ク效果大ナルヲ認メ獎勵ヲ行ヘトモ充分ニ行ハレス之ハ保護利用ニ就キ充分ナル確信無キ爲ニシテ結局根本的調査ヲ要ス之ニハ經費及人物モ要シ一府縣良ク爲シ得ヘキ事ニアラス國ノ仕事トシテ行ハレ度シ」ト陳述ス

渡邊千葉縣農林技手「昨日大臣ノ訓示ニアリタル如ク我國ノ害蟲ノ損害ハ約三億圓ニテ之ノ防除ニハ法律運用ノ必要ナルハ敢テ多言ヲ要セサルモ之等ノ防除カ果シテ如何ナル程度迄効果アルヤハ甚タ疑ハシ例ヘハ二化螟蟲ノ驅除トシテ捕蛾採卵、點火誘殺ノ方法ヲ獎勵スルモ之等ハ效果甚タ疑ハシ此ノ效果ニ對スル確信無キ爲農家モ驅除豫防ヲ忽ニスサレハ其根本的調査ヲ必要トス此ノ爲ニハ速ニ國立螟蟲研究所ノ如キモノヲ設置セラレ度シ」ト陳述ス

農林省提出協議事項二及福岡縣提出協議事項(二)附議

山西香川縣農林技手「興津園藝試驗場ヨリ配付セル苗木ニ根頭癌腫病ニ犯サレタルモノアリタリ注意セラレ度シ」ト陳述ス

議長「充分注意スヘシ」ト答フ

松本岡山縣農林技手「本縣ハ苗木檢査開始以來未タ兩三年ナルヲ以テ別ニ述フヘキコト無キモ接穗ヲ小包郵便ヲ以テ輸送スルモノノ取締ニ對シテハ困却ス縣ニ於テハ直接之カ取締ヲ爲シ得サルヲ以テ郵便局之レヲ受ケタル場合ニハ直チニ通知セラレ度キ旨依頼シ置キタルニ大正十三年二三件ノ通知アリタリ、此レ等ニ關シテモ考究セラレ度シ」ト陳述ス

吉田靜岡縣產業吏員「靜岡縣ノ如ク園藝ノ盛ナル土地ニ於テハ本問題ハ重要ナル問題ナルモ重要ナル害蟲ハ既ニ移入セラレタルニ拘ラス今日尙完全ナル移入檢査ヲ爲シ得ス唯農會ヲシテ柑橘ニノミ檢査ヲ行ハシメツツアリ靜岡縣ハ百數十哩ノ鐵道ヲ有シ五十餘ノ驛ヲ有スルヲ以テ充分ナル移入苗木ノ取締ヲ爲シ得ス元來苗木ノ檢査ハ生産地ニ於テ行フヘキモノニシテ政府法令ヲ定メテ之カ取締ヲ充分ニセラレ度シ」ト陳述ス

岡田山口縣農林技手「和歌山靜岡ノ說ニ賛意ヲ表ス元來此ノ恐ルヘキ病菌害蟲ハ一二ノ縣ヨリ傳播セルモノニシテ此ノ防除ノ爲ニ年々用フル金額ハ莫大ナルモノナリ又移入スル縣ニ於テ各々移入檢査ヲナス時ハ多額ノ費用ヲ要ス此

ノ多額ノ經費ヲ以テ移出検査ヲ行ハハ其ノ効果尠ナカラサルヘシ」ト陳述ス

高橋新潟縣農林技手「苗木ノ移動狀態ニ關スル調査アリヤ」ト質問ス

藤卷農林技師「主ナル生産地埼玉、兵庫、愛知、福岡等ニ於テ如何ナル種類ノ苗木カ如何ナル方面ニ移出サルルカト云フコトニ就テハ調査シタルモノアリ」ト答フ

今泉福岡縣農林技師「此ノ問題ニ就テハ生産地ハ不尠頭ヲ痛メ居ルヲ以テ此ノ機會ニ於テ本省ノ方針ヲ承リ度シ」ト説明ヲ要求ス

議長「本問題ハ頗ル重要ナル事項ニシテ此ノ効果ヲ大ナラシムル爲ニハ國ニ於テ相當ノ施設ヲ爲スヘキモノト思考ス然シ之カ實施ニハ多大ノ經費ヲ要シ殊ニ最近財政緊縮ノ折ニ遭遇シ今尙實施シ得サルハ遺憾トスル所ナリ之カ實現ニ努力セントスル考ヘナレトモ其ノ實現ノ見込ミニ關シテハ今茲ニ言明スルヲ得ス」ト答フ

金子北海道廳農林技師「本問題ハ急ヲ要スル問題ニシテ本年一旦移出サレタル北海道産小豆ノ再移入セラレタルモノニ小豆象蟲ノ附着セルヲ發見シ當業者ニ注意ヲナシ直チニ小樽其ノ他ノモノニ就キ調査ヲナセシコトアリ又梨ノ姫心喰モ移入セラルル虞アルヲ以テ梨等ノ移入ヲ禁止セントス斯ノ如キ場合道長官ハ之等ノモノノ移入禁止ヲ爲シ得ルヤ」ト質問ス

藤卷農林技師「害蟲驅除豫防上地方長官カ公益命令ヲ發布シ得ルヤ否ヤニ關シテハ曩ニ本省ニ於テ審議セシコトアリ適確ニハ云ヒ得サルモ大體ハ發布シ得ルモノノ如シ」ト答フ

石橋埼玉縣農林技手「本縣安行ハ以前ヨリ苗木ヲ生産シ現在生産者並營業者ハ一千名ニ及フ明治三十八年頃燻蒸室ヲ建設シ大正五年迄燻蒸證明ヲ爲シタリ此ノ間接穂ハ主トシテ静岡、青森等ヨリ取り寄セタルヲ以テ害蟲増加セリ大正十三年ヨリ縣令ニ依ル移出ノ強制検査ヲ行ヒシカ本年四月一日ヨリ希望検査トナセリ併シ検査ハ嚴格ニ行ヘリ

苗木ノ検査ハ府縣ニ依リ行フモノト行ハサルモノアルハ當業者指導上宜カラス苗木移出検査ヲ生産地ニテ行フ場合ハ本省ニ於テ法規ヲ設ケ同一歩調ヲ以テ行ハレ度シ又移入検査ヲ行フ縣ハ別トシテ然ラサル縣ニ於テハ不合格苗木モ合格苗木同一價格ヲ以テ販賣セラルルヲ以テ移出縣トシテハ不利益ナリ」ト陳述ス

森三重縣農林技手「苗木ノ移入ニ際シテ之ヲ検査スルニ病蟲害ノ附着セルモノ多シ又行商人ノ病菌害蟲ヲ持チ込ムモノ尠カラス然レトモ之ニ對シテ處分ヲ行フコトヲ得ス其ノ他種々不便ナル點少ナカラサルヲ以テ現在ノ害蟲驅除豫防法ヲ之等ノ點ニ就キ改正サレ度シ」ト陳述ス

吉田兵庫縣農林技手「兵庫縣ニ於ケル現在苗木ノ生産高ハ苗木園藝組合ニテ検査證明スルモノ四百萬本二百萬圓ニ及フ大正六年河邊郡ニ「イセリヤ」介殼蟲發生シ同七年一月縣令ヲ以テ輸移出苗木ノ検査ヲ行ヘルカ苗木取締ノ最初ニシテ「ルビー」蠟蟲及「イセリヤ」介殼蟲ノ附着セルモノハ青酸瓦斯燻蒸ヲ行フニアラサレハ輸移出ヲ禁シタリ燻蒸室ノ設置ハ之レヨリ曩キ明治三十五年頃桑名氏ノ設計ニ依リテナサレタルモノナリ大正九年迄ハ縣事業トシテ強制的ニ施行シ來リシモ之ハ生産者ノ自覺ニ俟ツヘキ問題ナレハ大正十年四月ヨリ園藝組合ヲ組織セシメ之ヲシテ苗木検査並燻蒸ヲ行ハシメ縣ハ之レニ對シテ補助ヲ爲スコトトナセリ園藝組合ハ二名ノ技術員ヲ置キ其ノ衝ニ當ラシメ其ノ下ニ補助員ヲ置ケリ然シ四百萬本ノ苗木ヲ一々検査スルハ容易ナラスサレハトテ之ヲ放任スルコトモ許サレサレハ出來得ル範圍ニテ最善ヲ盡セリ交通ノ發達セル所ニテハ此ノ仕事ハ容易ナラス郵便局 鐵道驛ニ付テモ取締ヲ爲ササルヘカラス尙検査改善ノ爲ニハ連送屋ノ荷物爭奪ノ爲ニ未検査ノモノノ搬出セラルルコトアルヲ以テ是非共荷造場ノ設置ヲ必要トス之カ爲ニハ百五十坪ノ荷造場ト六人ノ熟練セル技術員及一千圓ノ經費ヲ要ス一方各縣ニテハ不良ナル種苗ヲ受ケ取りタルトキハ直チニ返送セラレ度ク長時日ヲ經テ交渉セラルルハ甚タ迷惑ナリ考フルニ之ハ縣ノミニ於テ頭ヲ痛ムヘキモノニ非ラス利害ノ關係ハ全國ニ及フモノナレハ寧ロ國家ノ施設ヲ要スヘキモノナ

リ各縣步調ヲ揃ヘテ進ムヘキモノト信ス此ノ點ハ本省ニ於テモ了解セラレ居ルコトナルヲ以テ意義アル様考慮セラレ度シ」ト陳述ス

鍬塚愛知縣農林技師「本縣ノ一部中島郡ヨリ柑橘、苗木ヲ產出シツツアルカ大正十三年十二月ヨリ縣令ヲ以テ本郡ヲ範圍トシテ苗木取締規則ヲ發布シ検査ヲ施行シ居レリ愛知縣ニハ既ニ「イセリヤ」介殼蟲發生セルモ幸ニシテ中島郡ニハ未タ發生セス又當業者ハ信用ヲ高ムル爲ニ組合ニ於テモ検査ヲ行ヒツツアリテ其ノ成績良好ナリ最近ハ苗木ハ少ナクトモ燻蒸シアレハ縣ノ證明アル苗木ハ安心シテ購入シテ差支ナシ而シテ苗木ノ検査取締實行上及ヒ財政上尠カラサル困難アルヲ以テ各府縣ノ御希望ト同様肥料検査ノ例モアルヲ以テ夫レニ類スル施設ヲセラレ度シ」ト陳述ス河野愛媛縣農林技師「生産地ニ對シ十分ナル検査ヲ望ム今本省及各生産地ノ御意見ニヨリ移出検査ノ困難ナルコトハ充分ニ了解シタリ本縣ノ移入検査ハ大正十一年ニ規則ヲ設ケテ實行シ其ノ移入検査合格歩合ハ大正十一年八九%大正十二年九五、八%大正十三年九五、八%ナリ愛媛縣ノ現狀ニ多クノ疑問ヲ有セラルルカ如キモ愛媛ニテハ現在ノ三大害蟲ニ注意スルト共ニ他ノモノニ對シテモ同様ノ注意ヲナセリ例ヘハ「マルクロホシ」介殼蟲、長介殼蟲、丸介殼蟲ノ如シ此等ハ後ニ大害ヲ與フルモノナリト認メ相當ニ發生ノ取締ヲナシツツアリ陸地ニテハ香川縣ト關係ヲ有スルモ他ハ取締上大體好都合ノ地位ニ在リ取締ニ要スル經費ハ五千圓位ニシテ之ニ當ル技術者ハ試験場ニテ智識ヲ與ヘタル者ニシテ疑ハシキモノニ對シテハ勢ヒ嚴密ナル検査ヲ行フコトトナルヘシ埼玉縣ヨリ移入スルモノヲ注意スルニ約三千本中根頭癌腫病、紫紋羽病、「サンホーセ」介殼蟲等各種アリテ約一割ノ危険ナルモノヲ出セリ其ノ他兵庫縣ヨリ來レルモノニモ生キタル蟲介殼ノ附着セルモノアリ此ノ検査ノ爲ニ検査開始前ニ侵入シタリシ「イセリヤ」介殼蟲ハ別トシテ其ノ他ノモノハ侵入セス國ニ於ケル苗木検査施設ノ實現困難ナリトセハ國ノ助勢ノ下ニ宜シク移入検査ヲ行フヲ可トス尙祭日其ノ他ニ於テ行商人ノ販賣セントスルモノニハ豫メ管轄検査所ノ證明ヲ受ケサシムル

コトトセリ」ト陳述ス

伊藤神奈川縣農林技手「病菌害蟲ノ傳播ヲ防止スルニハ當業者ノ知識開發ヲ第一トス本縣ニハ大正十二年頃靜岡縣ヨリ「ルビー」蠟蟲ノ附着セルヲ知リナカラ恐ルヘキ害蟲トハ知ラスシテ購入植付ケタル者アリ或ハ又「ルビー」蠟蟲ノ附着セル植木ヲ觀賞セル者モアリタル次第ナリ次ニ苗木ノ移出取締規則ヲ設クルコトハ必要ニシテ苗木ノ集團セル地ニテ検査ヲ行フハ容易ナルモ各所ニテ之ヲ施行スルハ不便ナルモノナリ特殊病害蟲發生地ノ種苗ハ移出ヲ禁止スルヲ可トス又有識階級或ハ高貴ナル人ノ苗木等ニ據リ運搬セラルル病害蟲ノ傳播防止ハ困難ナル事多シ」ト陳述ス

三島岡山縣農林技手「移入検査ニテ困難ナルハ小包、行商人或ハ苗木商以外ノ人ニヨリテ移ハセラルル場合竝觀賞植物ノ移入等ナリ移出検査ニ就キテハ之カ荷造ヲ終ル迄立會セサレハ不正ノモノヲ生ス又本縣ニテ検査シタル物ヲ他府縣ニテ不合格トセラルル事アリ先年本縣ノ検査合格苗木ヲ或ル縣ニテ蔓割病、白紋羽病ノ爲ニ不合格ニセラレタル事アリテ直チニ試験場鑄方氏、神戸植物検査所秋山氏ニ鑑定ヲ乞ヒタルニ何等病害無シト回答アリタリ斯ノ如キ事ハ縣ノ面目ニモ係ハル事ナレハ移出検査ハ縣ニテ行フハ困難ナレハ要スルニ國ニ於テ施設セラレ度シ」ト陳述ス

吉田兵庫縣農林技手「兵庫縣ニ於テハ切花ノ搬出多ク之等ニ「イセリヤ」介殼蟲「ルビー」蠟蟲等ノ附着スルコトアリ之ニ對シテ如何ナル手段ヲ取ルヘキヤ」ト質問ス

藤卷農林技手「右ハ委員會ニ附托セラルルコトト思フヲ以テ其ノ節篤ト相談スヘシ」ト答フ

本省提出協議事項(甲)及滋賀縣提出協議事項(一)、(二)、(三)附議

栗林北海道廳農林技手「稻熱病ニ對シテハ經濟的考察ハ別トシテ糞ノ處分及種子ノ殺菌ヲ行フヘシ其ノ理由左ノ如シ實驗ノ結果ニ依レハ稻熱病菌絲ハ被害糞中ニ越年スルヲ以テ被害糞ノ處分(一、燒却、二、厩肥中ニ混シテ高熱ナラシムルコト、三、家畜ノ飼料ニ供スルコト)ヲ行フコト必要ナリ又稻熱病ノ分生孢子ハ糞ニ附着シテ越年スルカ

故ニ苗稻熱病發生ノ疑アリ從ツテ粗ノ處分法即風呂湯浸法(一一六度——一一七度)ヲ行フコト必要ナルヘシ右ハ同時ニ馬鹿苗病及胡麻葉枯病ノ豫防トモナリ得」ト陳述ス

野津島根縣農林技師「稻熱病ハ最重要ナルモノナレハ耐病性ニ關シ約四百ノ品種ニ就キテ試驗ヲ行ヘリ別問題トシテ困ルハ稻熱病ノ發生セル時如何ナル手段ヲ講スヘキヤナリ大正八年治療法トシテ何カ水ニ溶解スルモノヲ根ニ與ヘ細胞ヲ強ムレハ治療シ得ント考ヘ種々實驗ヲ行ヘリ稻熱病ノ發生シタルモノニ對シ三斗式「ボルドウ」液ヲ反當二石ノ割ヲ以テ與フルトキハ其ノ傳播蔓延ヲ止メ稻ノ恢復早カリキ又接種試驗ニ於テ病菌接種前一週間ニ三斗式「ボルドウ」液ヲ與タルモノハ病菌甚タ附着シ難ク發生シタルモノモ恢復早カリキ然シ此ノ理由ハ明カナラス大正十二年ニ稻熱病大發生シタル際農家此ノ方法ヲ行ヒシニ大體ニ於テ結果良好ナリキ此ノ外驅除豫防ノ方法トシテ石灰ヲ用フ木灰ハ餘リ有効ナラス耐病性品種トシテハ島根縣ニ於テハ神力系ト愛國系ヲ除キテハ殆ト弱キモノナリ稻熱病豫防ニ關シテハ大ニ國家的ニ之ヲ行フ必要アリ」ト陳述ス

岡田山口縣農林技師「本縣ニ於テモ今島根縣ニテ陳ラレタルコトヲ裏書スルカ如キ例アリ夫レハ種類ハ異ナルモ白葉枯病發生ノ虞アリタル年ニ三斗式「ボルドウ」液二石ヲ根本ニ流下スル程度ニ撒布セシニ其ノ後白葉枯病著シク發生シ一般ニハ八五%ノ被害ヲ認メタルニ施用區ハ殆ント被害ヲ認メサリキ、之カ効果ニ就キ植物カ此ノ藥劑ヲ吸收スルヤ否ヤヲ分析檢定セシモ不明ナリキ」ト陳述ス

午後一時再開 午前ニ引キ續キ討議

村田長野縣農林技師「本縣内ニ於ケル稻熱病ニ因ル損害ハ平年百五十萬圓ニシテ多キ年ハ二百萬圓ニ及フ而シテ其ノ被害ハ首稻熱病ニ限ラル之カ豫防方法トシテハ前回ノ會議ニ於テ岡山縣ヨリ穗首稻熱病ノ豫防方法如何トシテ問題提出セラレタルカ右ニ對スル決議ハ耐病性品種ヲ育成シテ被害ヲ輕減スヘシトノコトナリシヲ以テ其ノ後ハ此ノ方法ヲ實行シ居レリ尙又寒冷地ニ於テハ苗ヲ強健ニ育テ灌排水ニ注意シ綠肥ノ栽培地方ニテハ刈出又ハ乾燥ヲ獎勵シツツアリ又藥劑撒布モ相當効果アルヲ以テ獎勵シ居ルモ急激ニ發生シタル場合不便ノ地ニ於テハ實行困難ナリ灌

排水ニ就テモ排水ノ時期ヲ遅ラセハ被害ヲ輕減スルコトヲ得然シ紫雲英ヲ栽培スル地方ニ於テハ播種ノ關係上落水ヲ早クスル必要アレハ都合惡シ又綠肥ハ刈出又ハ乾燥ヲ爲セハ被害ヲ輕減シ得レトモ其ノ年ノ天候ニヨリ早ク分解ヲ終リ後ニナリテ肥切レスルコトアリ被害激甚ナリシ翌年ハ品質收量劣ルトモ病害ニ強キ品種ヲ栽培スル傾向アリ斯カル事狀ヨリシテ今後ハ品質收量耐病性ノ三拍子揃ヒタル品種ノ選擇ニ努メサルヘカラス」ト陳述ス

嶺塚愛知縣農林技師「本縣トシテハ主トシテ耐病性品種ノ特性ヲ明カニシ將來ノ母本トナル品種ヲ選拔セント企テ佐々木場長愛媛縣ニ於ケル經驗ヲ以テ方針ヲ樹テ小苗ヲ養成シ五六寸ニ生長シタル時發病シ易キ狀態トシテ接種試驗ヲ行ヒ又主ナル品種ハ圃場ニモ栽培シ自然ノ發病又ハ接種發病ニ對スル抵抗力ヲ調査シ居レリ此ノ試驗ノ結果優良ト認メタル品種ハ戰捷、凱旋糯、臺灣糯ナリ此等ノ品種ハ他ノ品種カ殆ント腐敗スル迄發病シタルニ點々斑點ヲ認メタル程度ノ發病ナリキ以上ハ葉ニ對スル試驗ナルモ穗首ニ接種シタル場合ニモ供試品種百二十種中殆ント百%ノ發病ナリシニ戰捷及凱旋糯ハ一乃至二%ノ發病ニ過キサリキ龜治ハ葉稻熱病ニハ抵抗性少キモ穗首稻熱病ニ對シテハ強ク一乃至二%ノ發病程度ナリキ又苗ヲ一度刈リテ二番芽ヲ出サセ出穗期ヲ遅ラシメ接種シタルニ大正神力大正赤穗等ハ第一回ノ調査ノ際發病セサリシモ第二回ノ調査ニ於テハ著シク發病セリ之等ハ眞ノ耐病性ニアラスシテ回避性ノモノナリ」ト陳述ス

ト藏農林省囑託員「耐病性品種ノ問題各地方ヨリ論議セラル、カ現在耐病性ト稱シ居ルモノハ眞ノ耐病性ニ非スシテ回避性ノモノ多シ此ノ事實ハ昨年岡山縣ニテ各府縣ヨリ耐病性品種ヲ蒐集シテ二ヶ所ニ於テ試驗シタルニ激シク穗首稻熱病ヲ發生シタルモノアリ其ノ原因ヲ調査シタルニ氣候ノ異リタル爲ニシテ稻熱病菌發育ノ適温ナル時出穗シタルモノ發病多カリキ又適温中ニ出穗シテモ發病セサルモノアリ之眞ノ耐病性品種ニシテ前述ノモノハ回避性品種ナリ早中晩ノ別ヨリ言ヘハ早生種カ被害最モ多ク晩稻最モ少シ岡山試驗場ノ調査ニ據レハ早生四四、八%中生三八、

四%晩生五、五%ナリキ」ト耐病性品種ニ關スル表ヲ揭示シテ説明ヲナス

農林省提出協議事項三(乙)附議

高橋新潟縣農林技手「二化螟蟲ノ驅除普及獎勵ニハ相當頭ヲ惱マシ居レリ從來施行シ來レル方法ハ實行スルモノ少ナ

シ何カ新シキ方法アラサルカト考究中ナリ先ツ積糞ノ瓦斯燻蒸ハ如何ナルモノカト思フ」ト陳述ス

金野大分縣農林技手「二化螟蟲ノ越冬ハ從來大部分糞中ニテスルモノトセラレタリ、本縣ニテハ之ニ疑問ヲ抱キ縣下

二十八ヶ所ニ於テ調査シタルニ糞中ニ越冬セル所四分ノ一ヶ所残り四分ノ三ヶ所ニ於テハ刈株中ニ越冬セリ阿蘇山

ニ近キ山間部ニテハ八〇——九〇%刈株中ニ越冬シ海岸地方及暖地ニテハ九〇%ハ糞中ニ越冬シ其ノ中間ニ位スル

地方ニテハ刈株糞半々ニ存在スル事實ヲ發見セリ捕蛾採卵ニハ多大ノ經費ト勞力トヲ用フレトモ効果ニ就キテハ疑

ハシキ點アルヲ以テ試驗ヲ行ヒタルニ餘程入念ニ採卵シタル場合ニ於テモ七五%ニ過キヌ採卵ノ効果少ナシト言フ

ハ全部採卵シ得サルカ爲ナリ」ト陳述ス

村上高知縣農林技手「高知縣ニ於テハ水稻ハ二期作ヲナス關係上二化性螟蟲ノ發生不規則ニシテ三回發生ヲナスカノ

如ク見ユ然レトモ精密ニ調査スルニヤハリ二回發生ナリ越冬ニハ暖地ニ於テハ株中寒地ニ於テハ糞中ニナス大分ノ

ソレトハ反對ナリ從來ノ驅除豫防ノ方法ハ其ノ効果少ナシト言フモ夫ハ努力ノ足ラサルカ爲ニシテ徹底的ニ行ヘハ

顯著ナル効果ヲ舉ケ得ルモノナリ本縣ニテハ大正十三年度ニ螟蟲驅除豫防特定地ヲ設ケテ其ノ實行ニ當レリ即チ一

ヶ村四部落水面積二百町步農家數二六五戸ノ地ヲ選ヒ四月二十八日ヨリ六月八日迄全農家ヲ舉ケテ本田採卵ヲ行

ハシメ誘蛾燈三百燈ヲ點セシメ捕蛾採卵ヲナサシメタリ捕蛾採卵セシモノハ村ヲシテ買上ケシメタルニ捕蛾數四十

六萬餘塊卵數二十二萬三千五百九十此ノ買上高一千八百三十三圓ニシテ小學生徒ノ賣上高ハ一千圓ナリキ小學生徒

ハ内八百六十圓ヲ貯金セリ斯クノ如クシテ驅除ニ努メタル結果前年ハ半作ニ過キサリシニ其ノ年ハ螟蟲ノ被害殆

ト無カナリキ茲ニ於テ當業者カ共同シテ徹底的ニ施行セハ効果顯著ナルコトヲ認メタリ」ト陳述ス

松本岡山縣農林技師「二化螟蟲ト雖モ必ラスシモ二回發生ヲナスト限ラス北海道ヤ岡山縣北部山間ノ一部ニ於テハ年一回ノ發生ナリ而シテ之カ被害ニ就キテ見ルニ二回發生スルモノ必スシモ被害大ナリト言フコトナシ即チ第一化期ノ被害甚シカリシモノカ二化期ニ於テ殆ント被害ナク一化期ニ被害ヲ認メサリシモノカ二化期ニ於テ大發生ヲナシ著シク被害ヲ蒙リタルコトアリ斯カル事實ヨリシテ一化期ノ螟蟲ト二化期ノ螟蟲トハ全々別物ノ如ク取扱フ方カ指導獎勵上便利ナリ即チ第一化期ニ於テハ捕蛾採卵ヲ主トスレトモ本田移植後ハ面積廣クシテ實行困難ナレハ被害激甚ナル時ニノミ驅除ヲ行ハシムレハ殆ント收量ニ影響スルコトナシ故ニ本縣ニ於テハ効果少ナキ一化期ノ驅除ヲ強制的ニ行ハシムルコトヲ廢シ唯發生激甚ナル地方ニノミ部分的ニ命令ヲ出スコトセリ此ノ發生ヲ豫測スルニハ豫察燈ニ集來スル蛾ノ數ヲ例年ニ比較對照シテ知ル二化期ニ於テハ第一回終期ノ幼蟲死滅率ヲ調査シテ發生ヲ豫察シ専ラ葉鞘變色莖ノ切取ヲ指導獎勵シツツアリ一化期ノ被害ヲ最後ノ收量ヲ以テ表スハ不適當ナリト思フ又螟蟲ノ越冬ハ藁カ大部分ナルニ製紙會社カ原料トシテ大量ノ藁ヲ山積シテモ其ノ附近ノ螟蟲ノ被害激甚ナラサルハ何故ナルカ疑問ナリ」ト陳述ス

金子北海道廳農林技師「北海道ニテハ水田面積十二萬町步アリテ年々二三千町步宛増加シツツアリ螟蟲ハ大體ニ於テ年一回發生ニシテ六月下旬ヨリ八月上旬迄發生スルヲ見ル誘蛾燈モ相當効果アルヲ認ムレト農家ニ之レヲ實行セシムルコトハ稍々困難ナリ何トナレハ農家ハ夫婦者ニ於テ五町步乃至十町步ヲ耕作スルヲ以テ長期間ニ亘ル之レカ使用ハ經費及多大ノ勞力ヲ要スレハナリ農事試驗場ニ於テハ大正十三年以來稻藁ノ密閉試驗ヲ行ヒシニ成績良好ナリシヲ以テ本道ニ於テハ藁ノ處分ヲ唯一ノ方法トシテ獎勵シ居レリ藁ノ處分ハ徹底的ニ行フコトトシ牛馬ノ飼料トスルモノハ下部ヲ切り去ルカ或ハ壓搾シテ幼蟲ヲ殺シタル上貯藏セシメ不用ノモノハ全部焼却セシム石狩ノ竹井某ハ

殺蟲ノ爲畜力用搾油器ヲ使用シテ藁ヲ壓搾シ馬一頭一人ニテ一日一町二反歩ノ藁ヲ處理シ得ルコトヲ確メタリ誘蛾燈モ次第ニ増加シ四千五百位アリ道廳ヨリハ「ボスター」等ヲ發行シ極力指導獎勵ニ努メツツアリ」ト陳述ス

佐藤山梨縣農林技師「苗代ニ於テ注油驅除ヲ施行シツツアルモ技術員ナキ町村ハ成績良好ナラス害蟲驅除ノ督勵ハ經費僅少ナルタメ只形式的ニ行フニ過キス」ト陳述ス

鹽野谷長野縣農林技師「本縣ニ於テモ二化螟蟲ノ被害ハ相當多ク驅除ニ就キテモ種々方法ヲ講スレトモ何レモ徹底セス苗代期ニ於ケル驅除ハ効果アルモノノ如シ昨年一毛作田ニ於テ稻刈取後田ノ水溜ニ鳥ノ飛來セルヲ認メ其ノ理由ヲ調査セシニ稻株中ニ殘存セシ螟蟲カ水ノ爲メニ株ヨリ逃レ出テ水面ニ浮ヒタルモノヲ啄ミツツアルヲ知リタリ此ノ事實ヨリシテ刈取後直チニ田面ニ灌水シタルニ螟蟲ノ水面ニ浮フモノ相當アルヲ實驗セリ螟蟲ノ水面ニ浮フ數ハ刈取直後ニ最も多ク日ヲ經ルニ從ヒ減少ス誘蛾燈ハ電燈ノモノヲ獎勵シツツアルカ本田ニ百燭光ノモノヲ點火セルモノアリ」ト陳述ス

今泉福岡縣農林技師「共同防除ハ頗ル必要ナレトモ相當普及獎勵ハ困難ナリ本縣ニテハ獎勵規定ヲ設ケ優良ナル團體ヲ表彰スルコトトセリ之カ動機トナリテ共同防除ハ勿論一般共同作業ノ實行セラル、ニ至レルモノアリ本省ニ於テモ成績優良ナル共同防除組合ニ對シ獎勵金ヲ交付シ或ハ表彰ノ途ヲ講セラレ度シ」ト陳述ス

木庭熊本縣農林技師「病蟲害ノ防除ハ生産物ノ價格騰貴スレハ一般ニ實行セラレ易シ八代郡ニテハ三化螟蟲ノ被害ニ因リ晚稻ノ栽培ハ不可能ナリシカ移植期ヲ約一ヶ月半——普通ハ六月一日ナルヲ七月十五日頃迄遅延スルコトニヨリ殆ント其ノ害ヲ免レ同時ニ二化螟蟲ノ第一化期ノ被害ヲ免カルコトヲ得タリ早生種ヲ栽植セル場合ニハ二化螟蟲ト黑椿象ノ被害激甚ナリキ藁ノ處分ハ野外ノモノ、ミナラス俵等ニ使用セルモノモ行ハサルヘカラス昨年俵三十五俵ヲ「クロールピクリン」ニテ燻蒸シタルニ二坪中四十七頭ノ二化螟蟲ノ斃死ヲ發見セリ黑椿象六月下旬頃山野ヨリ苗代ニ飛來スルヲ以テ其ノ時驅除スレハ便ナリ」ト説明ス

葛西福岡縣農林技師「從來行ハルル防除方法ハ合理的ナルモ當業者間ニ於テ效果云々ト言フハ活用惡シキ爲ナリ即チ

現在ノ方法ハ形式的ニ行ハルルニ過キサルモノナリ一例ヲ舉クレハ誘蛾燈ヲ點火スルニモ水盥ニ水モ油モ注カス卵塊ノ寄生蜂保護器ヘノ投入葉鞘變色莖ノ切取等其ノ形式的ナルモノ甚タ多シ之等ハ總ヘテ農民ノ病蟲害ニ對スル智識ノ乏シキカ爲ナレハ當業者ノ智識開發ニ努ムルコト必要ナリ然レトモ中年以上ノ人ハ多ク頑迷ニシテ害蟲驅除ヲ侮ルモノアレハ寧ロ小學兒童ニ智識ヲ與ヘ實地驅除ニ當ラシムル方有効ナルヘシ尙福岡晚稻七十號ハ螟蟲ニ對シ抵抗力ヲ有スルカ如シ此ノ品種ハ矮生細稈ニシテ分蘖多シト陳述ス

吉田靜岡縣產業吏員「本縣ニ於テモ各府縣ト同様ニ捕蛾採卵ヲ獎勵セリ又藥劑撒布ヲ行ヘル地方モアリ即チ苗代ニ於テ除蟲菊石鹼合劑ヲ二回撒布スルモノ或ハ硫酸「ニコチン」ヲ撒布スルモノ等アリ硫酸「ニコチン」七百倍液一石ニ石鹼二「ポンド」ヲ加ヘタルモノハ螟卵ヲ全滅セシメ同千倍液ハ其ノ八割ヲ死滅セシメ得タリ誘蛾燈ハ簡單ナルモノ即チ「カンテラ」ノ下ニ水盥ヲ設ケタルモノヲ使用シ約五燭光位ノ光力アリ此ノ使用時期ハ第二期發蛾前後二週間ニシテ之レニ要スル經費ハ一燈ニ付キ三十一錢ナリ——二週間ニ要スル石油七合代二十一錢ヲ含ム——大正十三年度二市十一郡ニ亘リ八一、〇〇〇燈ノ點火ヲ見タリ本年ハ更ニ増加スル見込ナリ然シ管理不行届ノモノ三乃至四割位アリ管理ニ注意スレハ尙一層効果アルヘシ寄生蜂ノ問題ハ諸縣ニテ研究セラレツ、アリ種類別ニスレハ大部分赤卵蜂ナリ應用上ノ價值利用問題ニ就キテハ村田技師カ三重縣ニ於テ實驗セラレ效果ヲ舉ケラレタリ六月上旬一畝歩二萬頭ヲ放飼シタルニ寄生率ハ九五%ノ高率トナレリ本田ヨリモ苗代期ニ於ケル方效果顯著ナリ故ニ螟蟲ノ羽化シ産卵スルト同時ニ放飼スルヲ有效ト認ム寄生蜂ヲ簡易ニ増殖スルニハ「スムシ」ノ卵ヲ使用スルヲ可トス「スムシ」ノ卵ハ一粒宛産卵セラレ其ノ數モ甚タ多シ夜盜蟲、粉班螟蛾等ノ卵モ同様ニ使用スルコトヲ得寄生蜂保護器ノ效果ハ疑問トスル所多ク之レカ利用ニ關シテハ尙考究ヲ要ス」ト説明ス

岡田山口縣農林技師「我縣ノ從來ノ方針ハ大イニ誤リタル感アリ即チ第一化期ノ驅除ニ力ヲ注キ第二化期ニハ餘リ注

意セサリキ然レトモ實際ハ全ク反對ニシテ第一化期ノ驅除ハ土用前ノ發育ニ障害ナキ程度ニテ充分ナリ第二期ハ葉變色莖ノ切り取り取リナルモ充分ニ行ハレス今後ノ方針トシテハ第一化期ニ三乃至四分第二化期ニ六乃至七分ノ力ヲ注クヘキナリ」ト陳述ス

久田京都府農林技師「山口ノ說ニ賛成ス寄生蜂ノ密度ハ苗代ニ大ニシテ本田ニ小ナリ」ト陳述ス
午後四時散會

第三日 七月二十五日 土曜日 農林省會議室ニ於テ

午前八時三十分開會

間部農產課長議長席ニ着ク

農林省提出協議事項三(乙)ノ討議續行

吉田静岡縣產業吏員「最近柑橘ノ矢根介殼蟲ハ各縣ニ被害ヲ及ホシ各々其ノ防除ニ努メ居レトモ根絶ヲナシ得ス此ノ驅除ノ一方法トシテ天敵ノ利用ニ關シ研究スルハ最モ緊要ナルカ故ニ本省トシテ考慮セラレ度シ右ハ發生地方ヲ代表シテノ意見ナリ」ト陳述ス

議長「夫ハ同感ニシテ又實行シ度ク考フルモ經費等ノ關係モアリ直ニ實行シ得ルノ域ニ至ラス」ト答フ

久田京都府農林技師「螟蟲ト品種トノ關係ヲ見ルニ第一回ノモノハ早生ヲ侵シ第二回ハ全然異ナル種類ヲ侵カス此ノ理由ハ明カナラサルモ余ノ意見ニテハ晩生ハ稈太ク以テ越冬シ易キカ爲ナラン一概ニ言ヘハ丈低ク分蘖多キ種類ハ被害少ナシ京都ニテハ中生神力及早生神力ノ系統最モ侵サレ難ク中生及晩生ノ中侵サレ易キハ愛國、大和錦、穀良都ニテ何レモ丈高ク稈太シ又第二回ノモノハ誘蛾燈ニ集リ難シ七月頃ニ發生セルモノハ年一回發生ニ止ルカ如シ日本海ノ方面ハ高刈リトスル爲越年ハ藁、株ニ半々ナリ山手ハ藁ニ多シ植付時期ヲ引キ下クル時害少キハ螟蟲ヲ苗代

ニ集メテ天敵ヲ集メル爲ナラン早植モ亦驅除豫防上良法ト思ハル丹波、丹後ニ於テ殊ニ然リ此ノ場合螟蟲ノ集來モ
尠カラサレトモ施肥ニヨリ充分ニ生長スルカ如シ之レハ分蘖セルモノカ生長スルモノナラン病蟲害ノ防除ニ施肥ス
ルコトハ効果アルモノノ如シ七月初ニ出スル苗稻熱病ハ過燐酸石灰及草木灰ヲ施ストキハ有効ナリ第二回ノ螟蟲ニ
對シテハ蛾ノ飛翔少ナキモ捕蛾、葉鞘變色莖ノ切取リヲ行フヘシ京都ニハ全町村ニ技術員アリ之等ノ言ニ依レハ葉
鞘變色莖ノ切取リヲナセハ米穀検査ニ當リ合格米多シト又寄生蜂ハ本田ニテハ苗ノ距離廣ク又蟲ノ飛翔力モ少ナキ
ヲ以テ寄生少ナシ又第一回ニ寄生蜂ノ多キトキハ第二回ノ螟蟲發生少ナキカ如ク螟蟲ノ少ナキ時ハ寄生蜂モ少ナシ
故ニ第一回發生ト第二回發生ハ一致セス櫻ノ花ト螟蟲ノ發生期トハ相伴フカ如シ例ヘハ大正十一年ハ開花早ク螟蟲
ノ發生モ早く大正十四年ハ共ニ晩カリキ京都ニハ共同防除組織アリ茶ノ生産地方ニテヨク發達ス茶ノ尺蠖蟲ノ防除
組織ハ大ナルモノニシテ約一萬圓ノ經費ヲ支出シテ決行シ居レリ斯カル組合ヲ獎勵シ又農學校等ニ於テ教授スルコ
トハ必要ナルコトナリ」ト陳述ス

大河原埼玉縣農林技手「昨日ヨリ種々御意見アリタリ今本縣ニ於テ指導獎勵セル事項ハ次ノ如シ埼玉縣下二割ノ町村
ニ模範的驅除圃ヲ設置セリ未タ年數ハ短カキモ當業者ノ熱心自覺ヲ促ス爲ニハ有利ナラント思ハル尙此ノ爲ニハ農
事組合其ノ他青年團等モ種々ノ施設ヲナス即チ共同苗代集合苗代等行ハル此等ハ最近ハ害蟲ノ防除ニ努メ品評會ヲ
爲ス様ナリ埼玉縣ニテハ養蠶ノ多忙ナル時ニ苗代ノ事ヲ云々スレハ當業者ノ反感ヲ買フコトアリシモ比較品評ヲ爲
スニ至リテヨリ一家ノ勞力ヲ分配シテ苗代ニ力ヲ入ル、ニ至レリ誘蛾燈ハ約三百個位ヲ點火セリ之レハ普遍的ニ獎
勵シテ效果アルヤ否ヤ問題ナリ以前當ヲ得サリシ爲燈數減シタルカ今又増加ノ傾向アリ點火スル「ランプ」ノ種類、
据付クル位置等ハ大イニ攻究ヲ要ス埼玉縣ハ森林、堤塘、河線ヲ以テ圍マレタル所多シ之レヲ平坦ナル稻作地ニ比
スルトキハ多少異ナルモノアリト思ハル最近電氣燈ヲ使用スルニ至レリ勞力上ヨリ石油ノ注入ハ考ヘモノニシテ何

カ適當ノ裝置ヲ考ヘツ、アリ青酸瓦斯又ハコクゾール等ヲ使用スル方法ヲ試驗セントシ居レリ埼玉縣ノ寄生蜂ハ第一回ノ終リニ最モ多キカ如シ保護器ハ醬油樽ノ中ニ小ナル樽ヲ入レ周圍ニ水ヲ入レテ裝置ス從來「蟲送り」トテ插秧期ニ藁ニ點火シ本田又ハ苗代ヲ廻ルコト相當効果アリト言ハル又鴨ノ仔ヲ放ツモ効果アリト言フ放飼ハ苗代及心枯ノ生スル頃ニ行フ藥劑撒布モ行フモノアリ驅除豫防ニハ各機關ノ連絡ヲ圖リ活動寫眞ラヂオ等ニヨル宣傳カ必要ナリ」ト陳述ス

野津島根縣農林技師「國トシテ終始一貫セル研究ニ乏シ」ト陳述ス

農林省提出協議事項四及五、福岡縣提出協議事項(三)、滋賀縣提出協議事項、島根縣提出協議事項(一)及(二)及靜岡縣提出協議事項(一)及(二)附議

河野愛媛縣農林技師「本件ハ重要ナルモ多クノ經費ヲ要シ縣ニテハ行フコトヲ得ス本省ノ經費ニテ行ハレタシ一昨年行ヒシ如キ分布調査ナラハ爲シ得ルモ之レニテハ満足スル能ハス五年位繼續ニテヨリ以上精密ニ行ハルヘシ」ト陳述ス

田邊奈良縣農林技師「特ニ藥劑ノ成分取締ニ賛成ス近年藥劑ハ殊ニ増加シタリ最モ多ク用フル除蟲菊粉ニ穀殼ヲ混入セルモノアリ然レ共取締ハ具體的ニ考フル時ハ至難ナリ即チ中ニハ定量シ得ルモノモアレトモ成分サヘ判明セサルモノモアリ又化學的ト共ニ物理的性質モ大ニ効力ニ關係ヲ有ス歐米諸國ニテハ法規ニヨリ取締ヲ爲シツ、アリト聞ク既ニ右ニ關シ本省ニ於テ調査セラレタルモノアラハ承リ度シ」ト質問ス

藤卷農林技師「目下調査中」ナリト答フ

議長「靜岡縣提案ノ取締ノ主旨如何」ト質問ス

吉田靜岡縣產業吏員「靜岡縣提案ノ取締ノ意味ハ縣自體ニテ爲サントスル意向ナリ除蟲菊又ハ「アルカロイド」又ハ複

合的ノモノハ成分ノ檢定困難ナリ硫酸「ニコチン」、砒酸鉛ノ如キモノニ就キテハ成分ノ檢定ヲノミナサントスルモノナリ尙其ノ他ノモノニ就キテ名案アラハ承リ度シ」ト陳述ス

議長「最近各種ノモノ増加シタルモ一概ニ之レヲ退クルハ考ヘモノニシテ中ニハ優良ナルモノモアルヲ以テ精密ナル試験ヲ爲スヘキモノナリ」ト陳述ス

吉田秋田縣農林技師「農業藥劑ノ檢査及取締法ノ制定ヲ行フ意向ヲ本省ニ於テ有セラルルヤ否ヤ」ト質問ス
議長「或ハ行フヤモ知レス」ト答フ

今泉福岡縣農林技師「近時其ノ効力ニ關シ地方ノ試驗場ニ檢査證明ヲ出願スルモノ多シ然シ地方ニテハ之等ノ事業ヲ行フコト難ク特ニ化學的ノ方面ハ最モ困難ナルカ故ニ中央ノ試驗場ニ專任技術員ヲ置キテ試験研究ヲ行ハシメ其ノ成績ヲ發表セラレ度シ」ト陳述ス

議長討議ヲ打切り協議事項ヲ更ニ審議セシムル爲メ委員會ノ設定ヲ諮リ左ノ如ク第一乃至第三委員會ヲ設ケタリ

第一委員會

一、附託事項

本省提出協議事項一及三ノ(乙)並福岡縣提出協議事項(一)及(四)

一、委員(○印ハ委員長)

山形市川	福島高木	茨城廣江
栃木本多	埼玉大河原	東京加藤
新潟庄田	石川勝又	福井盛森
山梨神澤	三重森	和歌山土肥

議事經過ノ大要

鳥取	瀧	岡山	松本	山口	岡田
徳島	莊司	香川	三宅	愛媛	河野
福岡	葛西	佐賀	村井	長崎	森
熊本	中村	○大分	森	宮崎	中尾
鹿児島	兒玉	沖繩	東田端	(以上二十七名)	

第二委員會

一、附託事項

本省提出協議事項二及五、福岡縣提出協議事項(一)及(三)、秋田縣提出協議事項(一)及(二)、栃木縣提出協議事項
並静岡縣提出協議事項(二)

一、委員(○印ハ委員長)

北海道	金子	青森	竹内	岩手	吉田
宮城	安部	秋田	島田	埼玉	石橋
千葉	渡邊	東京	鈴木又八西村	神奈川	伊藤
山梨	佐藤	長野	鹽野谷	岐阜	佐野
静岡	吉田	愛知	伊藤	三重	山下
大阪	藤井	兵庫	吉田	奈良	田邊
和歌山	近藤	島根	佐和	岡山	三島
廣島	砂原	山口	渡邊	香川	山西

愛媛 大塚 高知 村上 ○福岡 今泉
 沖繩 屋代 (以上二十八名)

第三委員會

一、附託事項

本省提出協議事項三ノ(甲)及四、静岡縣提出協議事項(一)、滋賀縣提出協議事項(一)、(二)、(三)及(四)並ニ島根縣提出協議事項(一)及(二)

一、委員(○印ハ委員長)

北海道	栗林	青森	西川	岩手	藤原
秋田	吉田	朽木	河村	群馬	岩山
千葉	石山	神奈川	水澤	新潟	高橋
富山	千田	石川	工藤	長野	村田
愛知	楢塚	滋賀	川村	京都	久田
大阪	江澤	○兵庫	中村	奈良	森
島根	野津	廣島	梅田	徳島	川崎
佐賀	前田	長崎	澤田	熊本	木庭
大分	金野	宮崎	日高	(以上二十六名)	

横濱税關桑名植物検査課長(害蟲ノ調査研究ニ就テ)及村田農林技師(螟蟲ノ驅除ニ就テ)講演ヲ爲ス

午後一時委員會開催

第一及第三委員會ハ農林省會議室ニ於テ第二委員會ハ中央會議所ニ於テ
午後四時散會

第四日 七月二十六日 日曜日

休會

第五日 七月二十七日 月曜日

午前八時宮城坂下門外參集

出席者一同宮城拜觀

午前十一時 農林省會議室ニ於テ

西田古河電氣工業株式會社理化試驗所技師「殺蟲劑砒酸鉛ノ化學大要」ニ關スル講演ヲナス

午後一時 二十五日ニ引續キ委員會開催

午後五時散會

第六日 七月二十八日 火曜日 農林省會議室ニ於テ

午前八時半開會

間部農産課長議長席ニ着キ各委員長ヲシテ委員會ノ結果ヲ報告セシム

森第一委員長第一委員會ノ決議ヲ報告ス

山下三重縣屬「各府縣ニ專任技術員ヲ設置スルコトハ結構ナルモ經費ナキ場合ハ能ハサルコトト思考ス又防除ノ徹底
ヲ期スル爲メ害蟲驅除ノ損害ニ對シ賠償ノ途ヲ設ケラレ度シ」ト陳述ス

鹽野谷長野縣農林技師「農家智識ノ開發ニ關スル事項ハ農業學校ニ於テ教育ヲナシ又婦女子ヲシテ驅除豫防ニ當ラシムレハ効果大ナル故ニ之レヲ加ヘラレ度シ」ト陳述ス

委員長「病菌害蟲ノ驅除ニハ老若男女ノ別ナク從事スヘキハ勿論ナレハ婦女子トシテ別段區別シテ記載セサリキ」ト答フ

今泉福岡縣農林技師「共同作業獎勵ニ對スル補助金ノ交附ニ關スル決議ノナキハ何故ナルカ」ト質問ス

委員長「此ノ項ニ對シテハ別ニ意見無カリキ」ト答フ

鹽野谷長野縣農林技師「農家智識ノ開發ニ關シテハ縣又ハ郡ニ當業者ヲ集メテ質問應答或ハ實地指導練習等ヲ爲セル府縣モアル様ナルカ本縣ニテハ未タ斯カル催シヲナシタルコトナシ斯カル方法ヲ用ヒテ當業者ノ智識ノ開發スルモ良キ方法ナリト思フヲ以テ此ノ項ヲ設ケラレ度シ」ト陳述ス

委員長「長野縣ノ如キ質問ハ適切ト思フカ之ハ(丙)(一)及(三)ニ含マレテ居ルト思フ」ト答フ

議長「賠償ノ道ヲ講スルヤ否ヤニ關シテハ相當考慮シツ、アリ家畜傳染病ノ如キ方法ヲ用フレハ不可能ニハアラサルモ植物ハ事故ノ發生機會多ク且ツ範圍廣キカ故ニ經費ノ點ニ於テ一朝一夕ニ決スルハ困難ナリ然レトモ一部分ニ發生シタル場合或ハ外國ヨリ新ニ輸入セラレタル病菌害蟲等種類ヲ指定シタル場合ハ比較的實行容易ナリ又農業保險制度ハ農村振興策トシテモ考慮シ目下研究中ニ屬ス霜害、旱害、水害、病蟲害等ノ問題ハ早晚解決セラルヘキ問題ナルモ速急ニ成立スルヤ否ヤハ疑問ナリ共濟組合ノ如キモノヲ設ケ自治的ニ災害ニ對スル設備ヲナスモ良法ト思ハル」ト陳述ス

吉田岩手縣農林技師「本縣ニテハ近時當業者カ病蟲害ニ對シ意ヲ用フルニ至リ技術員カ町村ニ出張シタル場合當業者ヨリ講話等ヲ請求セラルル有様トナレリ然レトモ講話ニヨリテ縣全體ノ當業者ニ徹底セシムルコトハ岩手縣ノ如キ

大縣ニテハ困難ナリ地方長官會議ノ際ニハ必ラス病蟲害ノ一項ヲ加ヘラレンコトヲ望ム又頭ノ古イ當業者ニ講話指導等ヲ行フモ容易ニ實行セサルヲ以テ小學校生徒ヲ教育スル方効果アリト思フ之レニ對シテハ師範學校ニ於ケル農業教育ヲ改善スル様當局ニ於テ努力セラレ度シ」ト陳述ス

議長「前段ノ注文ハ極メテ容易ナリ從來ノ長官會議ニモ必要ニ應シ病蟲害ノ事項ヲ提出シツ、アリ師範學校ノ農業教育ハ前議會ニ於テ教育改善事業中ニ實現セラルヘク決定サレ居レリ研究科ヲ設ケテ農村ニ俸職スル教員ニハ特別ノ教育ヲ施スト云フ計劃モアリ」ト説明ス

二宮農林技手「賠償ノ問題ニ就キテハ三重縣ニテ曩ニ實例アリタル如ク特殊ノ病害蟲ノ防除ヲ徹底的ニ實行スル場合ニハ從來トテモ必要ナル經費ヲ伐採樹ニ對スル手當等ノ名目ニテ支出シ居レリ之レ即チ事實上ノ賠償ナリ病害蟲防除ノ補助金ハ本省既定豫算以外ニ支出シ得ル途アルカ故ニ特殊ノ場合ニハ大藏省ヘ交渉シテ豫備金ヲ支出シ此方面ニ對シテモ出來得ル限り盡力シ居ル積リナリ今後モ出來ル丈ノコトハスル考ヘナリ」ト説明ス

西村東京府農林技手「農家智識ノ開發ニ關シテ從來病菌害蟲ノ標本、模型或ハ「ポスター」等ヲ以テ宣傳スル場合ニ用フル字句難クシテ當業者ニ意味ノ徹底セサルコト屢々アリ今後ハ平易ニスル必要アルヘシ」ト陳述ス

今泉福岡縣農林技師「第七項ニ共同的施設並ニ作業ノ成績顯著ナル組合其ノ他ノ團體ニハ國又ハ府縣ニ於テ表彰ノ途ヲ講スルコトヲ加ヘラレ度シ」ト陳述ス

議長「異議無キ様ナレハ次ノ問題ニ移リテハ如何」ト諮リ滿場異議ナク可決

山西香川縣農林技手「近頃ノ農家ハ只效果アルヲ以テ驅除セヨト言ツテモ承知セス此ノ際根本的ニ調査研究ヲ進メラレ度シ」ト陳述ス

村上高知縣農林技手「農家カ病蟲害驅除其ノ他作業ニ要シタル勞力ヲ經費ノ中ニ入ル、ハ妥當ナラス幾何程勞力ヲ要シテモ收益増セハ効果アリトナスヘキナリ」ト陳述ス

金野大分縣農林技手「點火誘殺ヲ獎勵スルハ未タ早シ本縣ニテ調査シタル結果ニ據レハ誘蛾燈ニ集マル八十六%迄ハ雄ナリキ斯ノ雄ノミヲ誘殺シテモ效果無キヲ以テ今少シ考慮セラレ度シ」ト陳述ス

委員長「點火誘殺ニハ不審ヲ持タス效果ニ對スル疑問ノアルコトハ捕蛾採卵ト余リ懸隔ナシ效果ニ疑問アリトテ實施セヌ譯ニハ行カス」ト陳述ス

金野大分縣農林技手「效果ノ顯著ナラサルモノヲ獎勵スルハ不穩當ナリト思フ」ト陳述ス

野津島根縣農林技手「效果ノ顯著ナラサル所ニハ獎勵セサル様此ノ一項ヲ改ムレハ削除スル必要ナシト思フ」ト陳述ス

村上高知縣農林技手「株ニ越年スルモノ多キニ稻株ノ處分ニ關スル項無キハ何故ナルカ」ト質問ス

委員長「此ノ問題ハ委員會テモ出タルカ全國ヲ通シテ藁七、株三位ノ割合ト見做シテ藁ノ處分ノミヲ記シ株ノ方ハ局所的ナル故ニ省略セリ」ト答フ

村上高知縣農林技手「被害激甚ノ縣ト小ナル縣トヲ平均サル、ハ不都合ナリ稻株ノ處分モ附加セラレ度シ」ト陳述ス
今泉福岡縣農林技手「稻藁ノ處理トアルヲ稻藁及稻株ト修正サレ度シ」ト陳述ス

藤原秋田縣農林技手「被害莖ノ切取ヲナセハ收量ヲ減ス此時期遲キニ失スル爲ナルカ本縣ニテハ早ク行フコト出來サレハ此ノ項ヲ修正セラレ度シ」ト陳述ス

委員長「全國的ニ行ヘルヲ以テ例外アルヤモ知レサレトモ不適當ナル所ニ迄束縛スルモノニ非ス」ト答フ

村上高知縣農林技手「積藁ノ搔拂ハ現在如何ナル程度ニ施行サレ居ルヤ普及狀態及效果ニ就キ承リ度シ」ト質問ス

藤卷農林技師「具體的ニ調査セルコトハ非サルモ各地ニ出張シタル際調査セル所ニ依レハ新潟、秋田、埼玉等ニ於テ實行サレ居レリ其ノ他蕤菴法、泥塗法等モ行ハル又愛媛縣ニテハ寒冷紗ヲ以テ覆ヒタルコトアリ千葉縣九十九里沿岸ノ町村兵庫縣農會等ニ於テニ硫化炭素又ハクロールピリリンノ燻蒸ヲナセルコトモアリ何レモ一長一短アリ之等ヲ綜合スレハ積藁ノ搔拂ヲ行フ比較的簡易有効ナリ」ト答フ

議長 五「積藁ノ搔拂其ノ他藁ノ處理」トアルヲ「積藁ノ搔拂其ノ他藁及株ノ處理」ニ本文「藁ニ依リ」トアルヲ「藁又ハ株ニ依リ」ニ改メ第三(乙)(二)「捕蛾採卵天敵」ノ次ニ「利用」ノ二字ヲ加ヘ「大粒菌核病」ヲ「紋枯病」ニ改ム以上委員會ノ決議ヲ修正シ第一委員長報告ノ賛否ヲ諮リ其ノ儘可決

今泉第二委員長第二委員會ノ決議ヲ報告ス

屋代沖繩縣農林技師「硫酸ニコチン關稅撤廢ハ出來得ルカ」ト質問ス

議長「目下關稅改正調査委員會ニ於テ調査中ナルモ其結果ハ只今言明シ難シ」ト答フ

鉏塚愛知縣農林技師「若シ硫酸ニコチンハ關稅撤廢サル、コトニナルモ砒酸鉛並ニ病蟲害驅除豫防器具機械ノ關稅撤廢ハ出來サルヤ」ト質問ス

委員長「砒酸鉛ハ内地ニテ相當研究セラレ良品カ比較的安價ニ供給セラル、ニ至レリ故ニ國產品獎勵ノ意味ニ於テ關稅ハ撤廢セサルコトトセリ」ト答フ

議長 第二委員長報告ノ賛否ヲ諮リ原案ノ儘可決

中村第三委員長第三委員會ノ決議ヲ報告ス

河野愛媛縣農林技師「品種ト病蟲害トノ關係調査ノ項調査方法ノ所ニ標準區ヲ設ケナキモ標準區ハ必要ナリト思ハル故ニ附加セラレ度シ」ト陳述ス

嶺塚愛知縣農林技師「標準區ノ設置ニ賛成ス愛知縣ニテハ四區毎ニ標準區ヲ設ケ標準ニハ病害ニ對シ最モ抵抗力弱キ品種ヲ使用ス」ト陳述ス

岡田山口縣農林技師「品種ト病害トノ關係ニ於テ小麥赤澁病ト限定サレ居レトモ府縣ニヨリテハ大麥、裸麥ノ方却ツテ小麥ヨリモ多ク栽培サレ居レリ我カ縣ニテハ大部分ハ大麥ニテ小麥ハ殆ント無イ位ナリ小麥ニ就テ調査スルヨリモ大麥ニ就テ行フ方カ我縣ニテハ有益ナリ全國ノ決議セラレタルモノヲ強テ反對スルニ非サルモ出來得レハ大麥ニ改メラレ度シ」ト陳述ス

委員長「赤澁病ニハ種類多ク之レヲ全部調査スルコトハ困難ナルヲ以テ發生ノ多キ小麥ニ限定セリ」ト答フ
嶺塚愛知縣農林技師「小麥ノ方顯著且正確ニ調査スルコトヲ得發生モ比較的多キヲ以テ小麥ニ限定セラレタル方可ナリト思フ」ト陳述ス

鹽野谷長野縣農林技師「愛知ノ意見ニ賛成ス調査及記載ニ關スル項ニ於テ旬別氣象表ヲ添付スルコトナレルモ急激ニ發生スルモノニ就テハ日日ノ氣象表必要ナリ思フ」ト陳述ス

金子北海道廳農林技師「麥類ノ誘病ハ六種アリ其ノ中被害ノ甚タシキハ小麥ナル故ニ小麥ニ限定セラレタル方可ナリ」ト陳述ス

嶺塚愛知縣農林技師「稻熱病、白葉枯病ヲ調査スル序ニ菌核病モ加ヘ調査年限ヲ五箇年トナス方可ナリ」ト陳述ス
伊藤神奈川縣農林技師「聯絡調査ナルヲ以テ原案通りニ可決セラレ度シ」ト陳述ス

原案通り可決、調査方法ハ本省ヨリ指定ノコトニ決定

村田長野縣農林技師「野鼠驅除ニ用フル「チブス」菌ノ効果近年薄弱トナレルヲ以テ之レニ代ル毒劑ヲ使用セントシタルニ狩獵法ニ觸レテ之レヲ使用シ得ス本省ニテ改正ノ手續ヲセラレ度シ」ト陳述ス

二宮農林技手「岐阜山梨等ヨリモ斯卡ル質問ヲ受ケタルコトアルカ野鼠驅除ニ毒劑ヲ使用スルハ害蟲驅除法ニ依リテハ現ニ之ヲ認可シツアルカ故ニ現行狩獵法ニ抵觸スルモ狩獵方面ニテハ之ヲ不問ニ附スルコトトシ尙將來狩獵法ノ改正ノ場合ニハ差支ナキ様考慮スルコトナリ居レリ」ト答フ

森大分縣農林技師「病蟲害損害統計作成ニ關シテハ調査方法ヲ示スノミトシ聯絡調査ハヤメラレ度シ」ト陳述ス
今泉福岡縣農林技師「次會迄宿題トシテ保留セラレ度シ」ト主張ス

野津島根縣農林技師「此ノ問題ハ大正七年ノ會議ニ於テモ宿題トナレルモノナレハ宿題ニスヘカラス」ト陳述ス
伊藤神奈川縣農林技手「先ツ提出セル縣ニテ實行シ其ノ成績良好ナリシ場合ニハ各府縣ニテ實行セラレテハ如何」ト

陳述ス

岡田山口縣農林技師「明日迄保留シテ熟考セラレ度シ」ト陳述ス

議長「明日迄此ノ問題ハ保留ス」ト宣ス

鹽野谷長野縣農林技師「之ヲ中國ノ方々ニ附託シテ考究シテ載キ度シ」ト動議ス

今泉福岡縣農林技師「可決協議事項中建議ニ關スル事項ノ建議方ヲ東京府ニ委託シ度シ」ト動議ヲ提出シ其ノ通り可決

工藤石川縣農林技師「實行スヘキ事項ノ豫算取り得サル時ハ實行困難ナルヲ以テ本省ヨリ知事ニ通牒相成リ度シ」ト陳述ス

議長「損害統計問題ニ付更ニ具體案ヲ協議スル爲メ福岡縣、岡山縣、山口縣、島根縣、兵庫縣、香川縣、神奈川縣、高知縣、新潟縣及北海道(十一名)ヲ委員トシ之カ討議ヲ附託ス」ト宣ス

伊藤神奈川縣農林技手「答申セル事項ハ印刷ニ附シテ配付セラレ度シ又協議會ハ毎年開催セラレ度ク開催ノ場所ハ各地ニ變更セラレ度シ」ト陳述ス

藤卷農林技師「成ルヘク毎年開催シ度キモ今茲ニ斷言スルコトヲ得ス今回ノ開催遅レタルハ大震災ト行政整理ニ遭遇シタルカ爲ナレハ了承セラレ度シ」ト説明ス

午後四時散會

第七日 七月二十九日 水曜日 農林省農事試驗場ニ於テ

午前八時半開會

安藤農事試驗場長一場ノ挨拶ヲ述ヘテ議長席ニ着ク

中村兵庫縣農林技師前日附託セラレタル「病蟲害損害統計ノ作成方法」協議ノ結果ヲ報告ス

午後農事試驗場長ニ代リ農產課長議長席ニ着ク

議長右ノ報告ノ賛否ヲ一同ニ諮リテ其ノ儘可決

議長指名シ左ノ通り講演セシム

尾上農事試驗場技手 砒酸鉛ニ就テ

岡田農事試驗場囑託 蛙ノ分布ニ就テ

八木農事試驗場囑託 害蟲驅除ト光學トノ關係

ト藏農林省囑託 果樹類ノ根頭癌腫病豫防試驗成績

葛西福岡縣農林技師 益蟲保護器ニ就テ

野津島根縣農林技師 サルハムシノ經過習性ニ就テ

江澤大阪府農林技手 銅石鹼液ニ關スル試驗成績

村田長野縣農林技師 稻熱病及綿蟲ノ驅除豫防試驗成績

岩山群馬縣農林技手

麥ノ風呂湯浸ニ就テ

高木福島縣農林技師

偽瓢蟲及蒟蒻ノ腐敗病ニ就テ

森三重縣農林技手

螟蟲ノ採卵能率ニ就テ

千田富山縣農林技手

紫雲英ノ菌核病豫防試驗成績

河野愛媛縣農林技手

螟蟲ノ電燈誘殺ニ就テ

議長閉會ノ辭

安藤農事試驗場長挨拶

午後三時散會

第六 出席者氏名

道府縣廳

農事試驗場

北海道	農林技師金子惇吉	道廳技師栗林數衛
青森	農林技師竹內久藏	農林技師西川吉助
岩手	農林技師藤原善二	農林技師吉田恭平
宮城	農林技師阿部健吉	
秋田	農林技師吉田武郎	農林技師島田五郎
山形		農林技師市川岩藏
福島		農林技師高木三郎
茨城		農林技師廣江誠太郎
栃木	農林技師本多國一郎	農林技師川村暉
群馬		農林技師岩山新二
埼玉	農林技師大河原邦三郎	農林技師石橋律雄
千葉	縣技師石山善壽	農林技師渡邊恒男
東京	農林技師加藤茂雄	農林技師西村宇佐美
神奈川	農林技師伊藤孝三郎	農林技師水澤芳次郎
新潟	農林技師庄田治	農林技師高橋信治

出席者氏名

岡	島	鳥	和	奈	兵	大	京	滋	三	愛	靜	岐	長	山	福	石	富		
山	根	取	歌	良	庫	阪	都	賀	重	知	岡	阜	野	梨	井	川	山		
農林技手	農林技手	農林技手	農林技手	農林技師	農林技手	農林技手			縣屬	農林技手	縣屬	縣屬	農林技師	農林技手	農林技手	農林技師			
三	佐	瀧	土	田	吉	藤			山下	伊	井	佐	鹽	佐	盛	工			
島	和	雄	肥	邊	棟	井			菊	藤	口	野	野	藤	次	藤			
進	齊	治	豐	忠	太	芳			次	芳	勳	卓	剛	次	太	文			
				一	郎	一			郎	男		男	哉	郎	郎	太			
農林技師	農林技師		農林技手	農林技手	農林技師	農林技手	農林技師	農林技手	農林技手	農林技師	產業吏員		農林技師	農林技手	農林技手	農林技手	農林技手	農林技手	農林技手
松	野		近	森	中	江	久	川	森	鍛	吉		村	神	森	勝	千	千	千
本	津		藤		村	澤	田	村	龜	塚	田		田	澤	野	又	田	田	田
鹿	六		鐵	官	義	俊	勝	幹		喜	嘉		壽	恒	伊		健	健	健
藏	兵		馬	友	雄	雄	二	雄	松	久	七		太	夫	作	要	次	次	次
	衛						郎			治			郎						

廣	島	農林技手	砂原	衆次郎	農林技手	梅田	文武
山	口	農林技手	渡邊	實	農林技師	岡田	十藏
德	島	農林技師	莊司	佐男治	農林技手	川崎	忠四郎
香	川	農林技手	三宅	正克	農林技手	山西	清平
愛	媛	農林技手	大塚	七郎	農林技手	河野	嘉純
高	知	農林技手	村上	龜男			
福	岡	農林技師	今泉	陸一	農林技師	葛西	憲道
佐	賀	農林技手	村井	勤一	農林技手	前田	誠三
長	崎	農林技手	森孝	一	農林技手	澤田	榮壽
熊	本	農林技手	中村	貞雄	農林技手	木庭	康喜
大	分	農林技師	森肆	郎	農林技手	金野	敬三
宮	崎	縣技手	中尾	良峯	農林技手	日高	春岐
鹿	兒島				農林技手	兒玉	義人
沖	繩	農林技手	東田	端龜	農林技手	屋代	弘孝
朝	鮮	勸業模範場技師	中島	友輔			
各	稅關	植物検査官	狩谷	精之(横濱)	秋山	忠次郎(神戸)	河原
		植物検査官補	角田	鷹次郎(大阪)	石井	悌(長崎)	高(門司)
專賣局		技手	岡部	勇太郎			

附

錄

殺蟲劑砒酸鉛ノ化學大要

古河電氣工業株式會社理化試驗所

技師 西田傳五郎

講演要旨

砒酸鉛ハ米國ニ於テハ農用殺蟲劑トシテ既ニ三十有餘年ノ歴史ヲ有シ其製造方法ニ關シテハ十有餘ノ特許アリ又實際ニ種々ノ作物及種々ノ害蟲ニ就イテ試驗セラレタル報告ハ殆ト枚舉ニ逞ナキ程テアルカ純化學的ノ見地カラ研究サレタ文献ハ比較的貧弱デ是等ノ歐米人ニヨリテ成サレタル研究ノミテハ説明ノ出來ナイ幾多ノ疑問カ起リマシテ是等ノ疑問ヲ解クニハ更ニ深ク純化學的ノ見地カラ研究ノ必要アルコトヲ痛切ニ感シマシタト同時ニ純化學的ノ研究ニ於テ先進ノ米國ニ一步先立ツコトヲ得ハ更ニ製造ノ技術上並ニ使用上ニ於テ彼等ニ先立ツコトモ必スシモ不可能ナラサルヲ思ヒ爾來多大ノ興味ヲ持ツテ微力ナカラ研究ニ從事シテ居リマス此席上ニ於テハ是等ノ研究結果ヲ一々報告スルコトハ出來マセヌカラ之ヲ別ノ機會ニ讓リマシテ茲テハ唯砒酸鉛ノ化學ノ大要即チ砒酸鉛ノ製造原料生成反應ノ一部砒酸鉛ノ種類相互ノ變遷分解反應使用上ノ注意等ノ數項ニ就キ其大要ヲ申シ述ヘ度イト思ヒマス

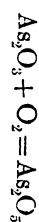
原料

砒素—砒素(As)ハ原子價三ノモノ(As^{III})ト五ノモノ(As^V)トノ二ツノ系統ノ化合物ヲ作ル性質カアリマシテ原料トシテ最モ多量ニ且ツ安價ニ得ラルルモノハ As_2O_3 ナル化學式ヲ有スルモノテ之ヲ無水亞砒酸ト稱シマス之ニ水カ三分子作用スルト

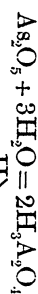


ナル式ニヨリマシテ亞砒酸(H_3AsO_3)カ出來マス(As_2O_3)ハ此ノ亞砒酸ノ二分子カラ三分子ノ水ヲ除去シタモノデアリ

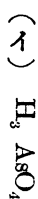
マスカラ之ヲ無水亞砒酸ト云フノテアリマシテ俗ニ As_2O_3 ノコトヲ單ニ亞砒酸ト云ツテ居マスカ正シキ化學名テハアリマセン英米テハ As_2O_3 ノコトヲ商取引ニハ白砒(White Arsenic)ト云フ習慣ニナツテ居リマス此無水亞砒酸ニ酸化劑ヲ作用セシメテ酸化セシメルト次ノ式ニヨリテ無水砒酸カ出來マス



此無水砒酸ニ三分子ノ水ヲ作用セシメルト砒酸ノ出來ルコトハ亞砒酸ノ場合ト同様テアリマス



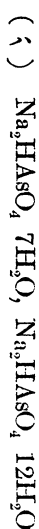
砒酸ヲ尙平易ニ書キ改メルト $\begin{array}{c} \text{H} \\ \diagup \quad \diagdown \\ \text{H}-\text{AsO}_4 \\ \diagdown \quad \diagup \\ \text{H} \end{array}$ ノ様テアリマシテ(AsO_4)ト云フ三價ノ極根カ三個ノ結合手ニテ三原子ノ水素ト結合シテ居リマス砒酸鉛ハ此三原子ノ水素ノ一ツ又ハ一ツ以上ヲ鉛ニテ置換サレタル化合物テアリマシテ砒酸鉛ノ製造ノ原料トシテ次ノ數種ノモノカ用ヒラレマス



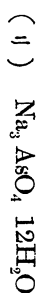
砒 酸



砒酸一カリウム



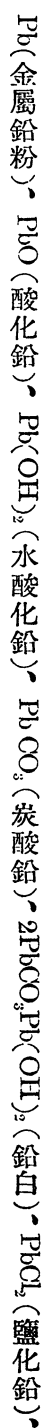
砒酸二ナトリウム



砒酸三ナトリウム

從來米國テ廣ク用ヒラレタ Sodium Arsenate ト書カレテ居ルモノハ(ハ)ニ示シタ砒酸二ナトリウムノ事デコノ物質ハ十八度以上テ結晶セシメルト七水ノモノガ得ラレ十八度以下テ結晶セシメルト十二水ノモノカ得ラレマス米國ノ工業的市販品ハ此結晶水ハ一定シテ居リマセン多クハ兩者ノ混合物テアリマス

鉛—鉛(Pb)ハ二價ノ金屬元素テ砒酸鉛ノ製造原料トシテハ次ニ示スカ如キ數種ノモノカ用ヒラレマス



$\text{Pb}(\text{NO}_3)_2$ (硝酸鉛)、 $\text{Pb}(\text{C}_2\text{H}_3\text{O}_2)_2$ (醋酸鉛)、其他鹽基性硝酸鉛、鹽基性醋酸鉛等

以上列舉シタ鉛ノ化合物ノ一ツト前述ノ砒酸ノ化合物ノ何レカーツトヲ作用セシメルト砒酸鉛カ生成スルノテアツテ全體テ砒酸鉛ノ生成スル反應カ四十以上モアリマス是等ノ四十種以上ノ化學反應ニ就イテ茲ニ一々論及スルコトカ出來マセンカラ其内歴史的ニ興味モアリ又實用上ニモ大切ナ二三ノ反應ニ就イテヤヤ詳細ニ申シ上ケマス

砒酸鉛ノ種類(化學成分上ヨリ見タル)

(イ)	$\text{PbH}_4(\text{AsO}_4)_2$	46.00% As_2O_5	$\text{PbH}_4(\text{AsO}_4)_2 \xrightarrow{\text{H}_2\text{O}} \text{PbHAsO}_4 + \text{H}_3\text{AsO}_4$
(ロ)	$\text{PbH}(\text{AsO}_4)$	33.13% As_2O_5	酸性砒酸鉛
(ハ)	$\text{Pb}_3(\text{AsO}_4)_2$	25.56% As_2O_5	中性砒酸鉛
(ニ)	$\text{Pb}_5(\text{OH})(\text{AsO}_4)_3$	23.46% As_2O_5	鹽基性砒酸鉛
(ホ)	$\text{Pb}_7(\text{OH})_5(\text{AsO}_4)_4$	22.54% As_2O_5	二鹽基性砒酸鉛

(イ)ノ化合物ハ非常ニ濃厚ナル砒酸ト硝酸鉛トヲ作用セシムルト溶液中ニ成立シマス之ヲアルコールテ洗滌スルト完全ニ取り出スコトカ出來マスカ水テ洗滌シマスト $\text{PbHAsO}_4 \rightarrow \text{H}_3\text{AsO}_4$ トニ分解シマスカラ殺蟲劑トシテ用フルコトハ出來ナイ(ロ)(ハ)(ニ)ハ從來米國テ殺蟲劑トシテ用ヒラレテ居ルモノテアリマス(ホ)ハ私力取り出スコトニ成功シタ新シイ化合物テアリマスカ殺蟲劑トシテノ價值ニ就イテハ未タ精細ニ研究シテ居リマセン現今米國テ市販ノ砒酸鉛ノ主成分ヲナシテ居ルモノハ(ロ)ノ化合物ニ之ニ多少ノ(ハ)(ニ)等カ混入シテ居ルモノテアリマス(ハ)及(ニ)ハ單獨ニハ極メテ特殊ノ場合ニ用ヒラレルニ過キマセン

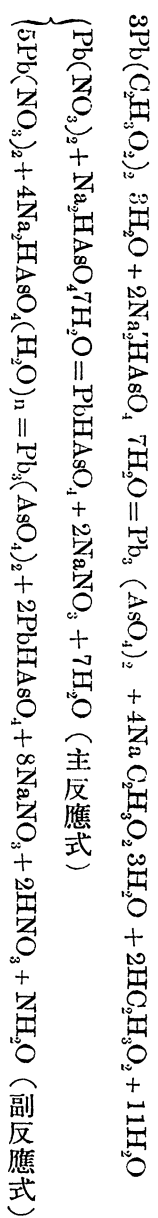
砒酸鉛ノ生成反應ノ一例並ニ其文獻

茲テハ砒酸鉛ノ化學的研究ノ歴史並ニ其生成反應ノ中最モ普通ナルモノノ一例ヲ舉ケマス砒酸鉛ト云フ化學物ニ關ス

ル最モ古キ時代ノ研究者ハ Berzelius, Mitscherlich, Wittstein, Gramm, Bose, Salkowski 等ヲ既ニ此時代ニ酸性砒酸鉛、中性砒酸鉛ノ二種ノ化合物ノ存在スルコトカ明カナリ又シテ等ノ相互ノ變遷化學的ノ諸性質等モ研究セラレタカ今日カラ見ルト多少ノ間違モアリマス

砒酸鉛ヲ始メテ害蟲驅除ノ目的ニ使用シタ Moulton 氏 (Mass. Gypsy moth commission) ハ醋酸鉛ニ砒酸二ナトリウムヲ作用セシメテ作リマシタ其後ヲ引キ繼イテ研究シタ Smith 氏 (Mass. Board. Agr. Report 45, 357, 1898) ニモソハ其當時殺蟲劑トシテ使用サレタモノハ單一ナル化學成分ノモノテナクテ酸性砒酸鉛ト中性砒酸鉛トノ混合物テアルト云フテ居リマス

其後 Haywood 氏及其共同研究者ハ (Haywood, U. S. Dept. Agr. Bureau of Chemistry Bul. 105, 165; Haywood Mc Donnell, Ibid, 131, 17, 1910) 醋酸鉛又ハ硝酸鉛ト砒酸二ナトリウムトノ反應ヲ次ノ式ヲ以テ表示シタ



即チ醋酸鉛ヲ用フル時ハ中性砒酸鉛ヲ生成シ硝酸鉛ヲ用フル時ハ主ナル生成物ハ酸性砒酸鉛テアルカ尙副反應ニヨリテ多少ノ中性砒酸鉛ヲ混シ來ルモノテアルト論シテ居ル

Holland and Reed 氏 (Mass. Agr. Expt. Station, 24 Ann. Report, Part I, 204, 1912) ハ硝酸鉛ト砒酸二ナトリウムトノ反應ニヨリテ理論式ニ一致スル 酸性砒酸鉛ヲ得ニハ 稀薄溶液ヲ用ヒ且ツ砒酸二ナトリウムヲ理論數ヨリモ一〇%過剰ニ用フルコトヲ要シ又醋酸鉛ト砒酸二ナトリウムトヲ丁度中性鹽ヲ生成スルニ必要ナル割合ニ作用セシメルト全ク中性砒酸鉛ノ成分ニ相當スル組成ヲ有スルモノカ得ラレル旨報告シテ居ル

Turtur and Robinson 氏 (Jour. Am. Chem. Soc., 36, 1843 1914) ハ從來知ラレタル中性砒酸鉛ヲ製造スル諸方法ヲ悉ク試ミタルモ純粹ナル中性砒酸鉛ヲ得ルコトニ成功シナカツタノテ Berzelius 氏ノ提出セル酸性砒酸鉛ヲ「アンモニヤ」水ニテ處理スル方法ヲ試ミタカ其結果常ニ砒酸ノ含量カ中性砒酸鉛中ノ砒酸ノ含量ヨリモ低キモノカ得ラレタノテ之ヲ鹽基性砒酸鉛ト命名シ $21\text{Pb}_3(\text{AsO}_4)_2 \cdot 21\text{Pb}(\text{OH})_2 \cdot 10\text{H}_2\text{O}$ ナル化學式ヲ與ヘタ而シテ同氏ハ久シク信セラレテ居ツタ中性砒酸鉛 $\text{Pb}_3(\text{AsO}_4)_2$ ナル化合物ノ存在ヲ否定シ從來市販ノ殺蟲劑中ニ砒酸含量二五、五六%ニ近キ物ノアツタノハ實ハ酸性砒酸鉛ト鹽基性砒酸鉛トノ混合物テアルト論シテ居ル

G. E. Smith 氏 (Jour. Am. Chem. Soc., 38, 2014, 1916) ハ硝酸鉛又ハ醋酸鉛ト砒酸ニ「ナトリウム」トノ反應ニ關スル從來ノ諸說ニ疑點アルヲ認メ更ニ深く該反應ヲ研究シタル結果其反應生成物ハ酸性砒酸鉛ト鹽基性砒酸鉛トノ混合物テアルト結論シ中性砒酸鉛ノ存在ヲ否定シタ點ハ前研究者ト同意見テアルカ鹽基性砒酸鉛ノ組成ハ前研究者ノ提出シタ様ナ複雑ナモノテナクシテ實ハ $\text{Pb}_3(\text{OH})(\text{AsO}_4)_2$ ナル式ヲ表示スヘキカ至當テアルト主張シ併セテ酸性砒酸鉛ト「アンモニヤ」水トノ作用ヲ次ノ式ヲ表示シタ



此研究ノ發表ト全ク同時ニ Mc Donnell and G. E. Smith 氏 (Jour. Am. Chem. Soc., 38, 2027, 1916) ハ其實驗結果ヲ公表シタソレニヨルト酸性砒酸鉛ヲ「アンモニヤ」水ニテ處理シテ得ラルル鹽基性砒酸鉛ハ $\text{Pb}_3\text{Pb}(\text{OH})(\text{AsO}_4)_2\text{H}_2\text{O}$ ナル式ヲ表示スヘキモノテアルト論シテ居ル前ノ G. E. Smith 氏ノ提出シタ式ト比較スルト水ノ一分子カ附加シテ居ル點ニ於テ異ナツテ居ル

カク水ノ附加サレタル理由ハ天然ニ Mimetic ト云フ鑛物カ存在シ其化學式ハ $\text{Pb}_3\text{PbCl}(\text{AsO}_4)_2\text{H}_2\text{O}$ テ表示セラレテ居ルカラコレニ倣ツテ水ヲ附加タシノテアマリ確實ナル證據カナイ私ハ水ヲ附加シナイ方ニ贊成スル一人テアリマス尙

同氏等ハ此「アンモニヤ」水ト酸性砒酸鉛トノ反應ヲ相律ヲ用ヒテ研究シ酸性砒酸鉛カ先ツ「アンモニヤ」ノ作用ニヨリテ中性砒酸鉛トナリ中性砒酸鉛カ更ニ「アンモニヤ」ノ作用ヲ受ケテ鹽基性砒酸鉛ニナルモノテ中性砒酸鉛ノ狀態ヲ經由スルモノテアルト論シ中性砒酸鉛ノ存在ヲ否定シナイ點カ前二者ノ説ト異ツテ居ル私モ亦此點ニ就イテ研究シタ結果中性砒酸鉛カ立派ニ存在スルモノテアルコトヲ主張スルモノテアリマス

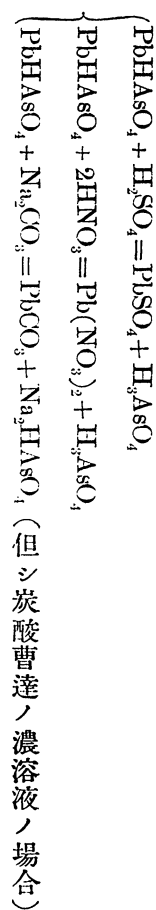
Streeter and Tatcher 氏 (Ind. Eng. Chem., 16, 941, 1924.) ハ酸性砒酸鉛ニ「アンモニヤ」ヲ作用セシムル方法ヲハ組成ノ一定セル鹽基性砒酸鉛カ得ラレヌカ鹽基性醋酸鉛ニ砒酸二「ナトリウム」ヲ作用セシメルト常ニ組成ノ一定シタ鹽基性砒酸鉛カ得ラレルト論シテ居ル勿論酸性砒酸鉛ニ「アンモニヤ」ヲ作用セシメテ鹽基性砒酸鉛ノ比較的純粹ナルモノヲ得ルニハ或ル限ラレタ條件カ必要テアツテコレヲ無視スレハ組成ノ一定シタモノカ得ラレナイカ鹽基性醋酸鉛ニ砒酸二「ナトリウム」ヲ作用セシムル方法モ條件ニヨリテ色々ノ化合物カ混合シテ出來テ來マス

之ヲ要スルニ砒酸鉛ハ誠ニ奇怪ナル化合物テ反應ノ條件カ少シク異ルト生成物ノ組成モ著シク影響ヲ受ケマスソレテ從來ノ諸研究者ノ發表ハ何レモ其人々ノ行ツタ條件ノ下テハ眞ナル事實テアツテソレ等ノ一局部ノ研究ヲ全體ヲ律セントスルタメニ色々ノ論争カ起ツテクルノテアリマスコノ反應ノ總括的ノ研究結果ヲ茲ニ公表スル時間カアリマセンカ極メテ其大體ヲ申シマスト醋酸鉛ト砒酸二「ナトリウム」トノ反應テハ醋酸鉛ヲ過剰ニ用ヒルト鹽基性砒酸鉛ト中性砒酸鉛トノ混合物カ得ラレ砒酸二「ナトリウム」ヲ過剰ニ用ヒルト中性砒酸鉛ト酸性砒酸鉛トノ混合物カ得ラレル硝酸鉛ヲ用フル場合ニハ一般ニ中性砒酸鉛ト酸性砒酸鉛トノ混合物カ生成シ使用スヘキ硝酸鉛中ノ PbO ト砒酸二「ナトリウム」中ノ As_2O_3 トノ比ヲ一、八乃至一、九トナル様ニ兩物質ヲ作用セシムルト砒酸ノ含量三三%ニ近イ殆ト酸性砒酸鉛カ大部分ヲ占メル生成物カ得ラレルカ尙微量ノ中性砒酸鉛ガ混入シテ居ル化學的ニ絶對ニ純粹ナル酸性砒酸ヲ作ルニハ他ニ便利ナ方法カ色々アリマス

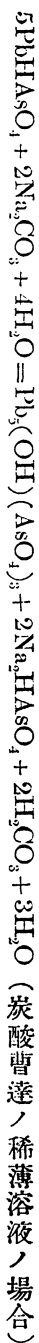
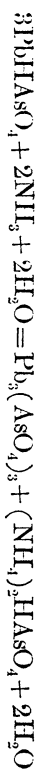
砒酸鉛ノ分解反應

砒酸鉛ノ分解反應ハ之ヲ複分解ト加水分解トノ二種類ニ大別スルコトカ出來マス

複分解反應ノ一例



加水分解ノ一例

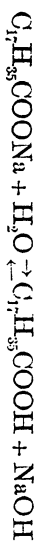


以上ハ其一例デアリマスカ多クノ分解作用ハ此二種類ノ何レカニ屬シマスカラ茲ニ之ヲ省略シ實際上極メテ重要ナル石鹼ト石灰トノ反應ニ就イテ少シク申シ述ハマス

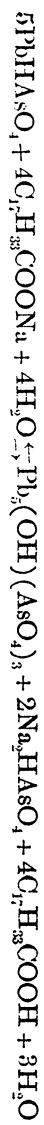
「ステアリン」石鹼(硬キ石鹼ハ「ステアリン」石鹼ヲ主成分トス) $\text{C}_{17}\text{H}_{33}\text{COONa}$

「オレイン」石鹼(軟キ石鹼ハ「オレイン」石鹼ヲ多量ニ含ム) $\text{C}_{17}\text{H}_{33}\text{COONa}$

石鹼ヲ水ニ作用セシメルト「アルカリ」性反應ヲ呈スルノハ次ノ如キ加水分解ニヨリテ苛性曹達カ液中ニ成立スルカラ
テアル



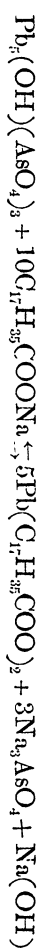
コノ作用ニ基イテ酸性砒酸鉛ヲ石鹼ヲ處理スルト分解ヲ起シマス



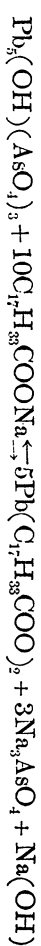
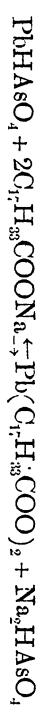
コノ反應ハ即チ加水分解ニ屬スルモノテ砒酸曹達カ出來テ水ニ溶ケル故之カ藥害ノ原因ニナル

從來米國ニ於テハ砒酸鉛ト石鹼トハ混用シテ差支ヘナキモノト見做サレ一九一八年農務省發行「ファーマースブレチン」ニモ混用シテ差支ナキモノト記載サレアルモ最近其不可ナルモノトスル議論多ク實際上ノ經驗ヨリスレハ最早混用ヲ禁止スル方安全ナルモノト殆ト定マリタルモ其化學反應ノ真相ニ關シテハ尙不充分ノ點アリ即チ G. E. Smith 氏 I Robinson 氏 Punckney 氏等ノ研究ハ何レモ之ヲ前記ノ加水分解ノミニヨリテ説明セントシテ居リマスカ勿論私モ此加水分解作用ノ起ツテ居ル事モ認メマスカ尙次ニ記載スル複分解作用モ起ルコトヲ付ケ加ヘ度イノデアリマス

「ステアリン」石鹼



「オレイン」石鹼



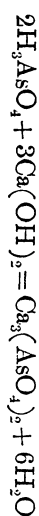
以上矢ヲ示シタ反應ハ其右邊ノ物質カ左邊ノ物質ニ一部分變化シテ平衡ニ達シタ狀態ヲ示スモノヲ何レカ反應系ニ變化カアルト其何レカニ反應カ進ム例ヘハ「ステアリン」酸鉛カ一旦生成シテ沈澱スレハ分解反應カ更ニ進行スルノテアル扱此反應ニヨリテ生スル「ステアリン」酸鉛ト「オレイン」酸鉛トヲ比較スルト「オレイン」酸鉛ハ生成スルト忽チ白

色ノ沈澱トナリテ反應系外ニ去ル故砒酸鉛ノ複分解作用ハ益々促進スルカ「オレイン」酸鉛ハ軟キモノテ「ステアリン」酸鉛ノ様ニ完全ニ沈澱セス一部分液中ニ殘留シテ居リマスタメ反應力進ミ惡イノテアリマスコレカ即チ硬石鹼ヲ用ヒタ場合ニ藥害力甚タシク軟石鹼ヲ用ヒタ場合ニ比較的藥害ノ起ルコトノ僅少ナル理由テアルト思ヒマス

又鹽基性砒酸鉛ト硬石鹼トヲ用ヒタ場合ニ於テ絶體ニ安全テアルト云ヘナイノハ此複分解ノ作用力起ルカラテアリマシテモシ加水分解作用ノミテ鹽基性砒酸鉛カ其分解作用ノ最後ノ生成物テアルトスレハ最早ソレ以上反應ノ進ム理由カ説明出來ナイノテアリマス此問題ニ關スル詳細ハ何レ他ノ機關テ發表スルコトトシテ右ノ如キ大體論ヲ止メテ置キマス

次ニ實際上最モ應用ノ價值アル反應ハ石灰ニ對スル作用テアリマス

石灰ハ砒酸又ハ水ニ可溶性ノ砒酸「アルカリ」ト作用シテ水ニ不溶性ノ砒酸石灰ヲ生成スル性質ヲ有シテ居リマス



市販ノ砒酸鉛中ニハ極メテ少量ノ水ニ可溶性砒酸又ハ其「アルカリ」鹽ヲ含有シテ居リマス又砒酸鹽ハソレ自身ハ水ニ不溶性テアルト稱セラレテ居リマスカコレハ比較的ノ話テ實際微量ノ溶解度ヲ有シテ居リマスカラ之ニ石灰ノ少量ヲ加ヘルト不溶性ノ砒酸石灰ヲ生成シテ可溶性砒酸ヲ減少サセマスカラ頗ル安全ナ撒布液トナリマス而シアマリ澤山ナ石灰ヲ混用スルト害蟲ノ體內ニ入ツテカラノ分解作用ヲ防止スル作用ヲ伴ヒマスカラ多少効力ノ後レテ顯ハレル缺點カアリマスカラ餘リ不必要ナル過剰ヲ用ヒナイ方カヨイト思ヒマス其使用分量ハ砒酸鉛ノ種類使用水質作物ノ種類其成育時期等ニ應シテ使用者ニ於テ決定セラルヘキ問題ヲ千遍一律ニ論シ難イコトテアリマス

各砒酸鉛ノ特徴ト其殺蟲劑トシテノ價值

殺蟲劑トシテ吾人ノ希望スル性質ハ作物ニ撒布サレアル間ハ普通ノ天然ノ作用即チ雨、風、空氣、碳酸瓦斯等ニ對

シテ比較的安定テアツテ害蟲ノ腹ニ入ツテ直チニ分解シテ可溶性砒酸ヲ分離シ少量ノ藥劑ヲ速カニ害蟲ヲシテ死ニ至ラシムルニアルノテアル此點カラ既ニ述ヘタ何レノ化學成分ノ砒酸鉛カ殺蟲劑トシテ最モ適當テアルカヲ少シク論シテ見タイト思ヒマス

之ヲ論スルニハ昆蟲ノ腹ノ中ノ成分ト砒酸鉛ノ分解作用トノ關係ヲ考ヘナケレハナラス昆蟲ノ腹ノ中ノ成分ヲ取出シテ之ト砒酸鉛トノ作用ヲ研究スルコトハ實驗上ニ色々ノ困難カ伴ヒ未タ御話シ致ス程ノ實驗的數字ヲ持チマセンカ其分解作用ハ主トシテ前ニ述ヘタ加水分解ニ屬スルモノテアルト考ヘラルル種々ノ有力ナル理由カアリマス

一般ニ之ヲ加水分解ノ作用テアルトスルト次ノ式ニ示ス様ニ酸性砒酸鉛カ他ノ中性鹽基性ノ砒酸鉛ニ比シテ約一〇倍ノ可溶性砒酸鉛カ出來ルモノト考ヘラレマス



今酸性砒酸鉛一封度ト中性砒酸鉛一、三封度トヲ別々ノ桶ニ取り五斗ノ水ニ解キテ撒布シタ場合ヲ考ヘマスト全體ノ As_2O_5 ノ含量ハ全ク同一テアルカ實際夜盜蟲等ノ驅除ニ用ヒラレタ今日迄ノ結果ヲ綜合スルト酸性砒酸鉛ヲ八十時間内外テ殆ト全部死滅シ中性砒酸鉛ヲハ二晝夜モ經過シナケレハ死滅シナイト云フ結果ヲ示シテ居リマスノハ明カニ蟲ノ腹ノ中テハ主トシテ加水分解作用カ起ツテ居ルモノト考ヘルトヨク説明カ出來マスモシ該分解作用ナラハ全體ノ As_2O_5 ノ含量カ同一ナラハ同一量ノ可溶性砒酸鉛ヲ生成シ効力ニモ何等差支ナキ筈テアル

サレハ殺蟲力ノ方面カラ考ヘルト酸性砒酸鉛ノ方カ遙カニ他ノ砒酸鉛ニ卓越シテ居ルト云ヘマス最近米國ノ市場ニアルモノハ殆ト大部分砒酸含量三〇乃至三二%ヲ含ム酸性砒酸鉛ヲ主成分トスルモノミニ變ツテ來タノモ此理由ニ基

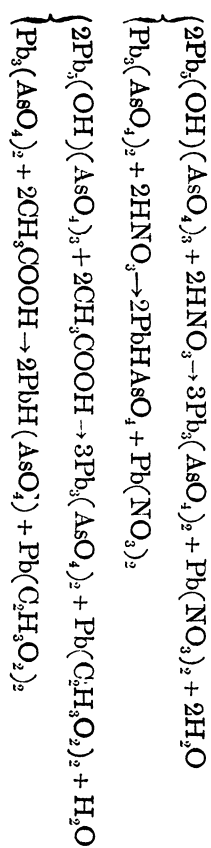
クモノト考ヘラレマス

而シ元來酸性砒酸鉛ハ一立ノ蒸溜水中ニ〇、〇〇二五瓦内外ノ砒酸ヲ溶出スル性質カアリ又之ヲ水ニテ濕ホシタ鋭敏ナル青色「リトマス」試験紙ヲ接觸セシメルト之ヲ赤變スル性質カアリマスカラ之カ使用ニ際シテハ作物ノ種類、成育ノ季節等ニ應シテ其分量ヲ適當ニ加減シ又少量ノ石灰又ハ「カセイソ」石灰等ヲ混用スル方法ヲ取ラネハナラヌ使用方法ヲ誤マレハ時トシテハ作物ニ藥害ヲ起ス恐レカアル而シ此性質ハ人體ニ對スル藥劑ニモ常ニアルモノテ巧ニ醫者カ利用シテ病氣ヲ全快セシムルコトカ出來ルノテアリマスカラ作物ニ驅蟲劑ヲ施スニモ常ニ此考ヘカナクテハナラヌト思ヒマス

而シ荳科植物梨ノ六月以後ノ撒布桃ノ或ル種ノモノ等ノ砒素劑ニ對シテ抵抗力ノ弱イモノニ對シテハ或ハ中性鹽基性等ノ砒酸鉛ヲ用フルカ安全ナル場合カアリマス

コレ等ノ砒酸鉛ハ何故ニ安全ナルカト申シマスト少々稀薄ナ酸性ノモノニアツテモ直チニ可溶性砒酸ヲ出スカ如キコトナク先ツ鉛ヲ溶出シテ一旦酸性砒酸鉛トナル性質カアルカラテアリマス

其ノ二三ノ例ヲ示スト次ノ様テアリマス



以上申シ上ケタ通り酸性砒酸鉛ハ殺蟲効力卓越シ又使用方法ヲ會得スレハ多クノ場合ニ於テ殆ト全ク安全ナモノテアリマスカラ成ルヘク酸性砒酸鉛ヲ主成分トスルモノヲ使用シ止ムヲ得サル特殊ノ場合ニ限り中性又ハ鹽基性砒酸鉛ヲ

使用スヘキモノテアルト考ヘマス

購入ニ際シテハ必ス多クノ數量中ヨリ任意ノモノヲ採取シテ分析ニ附スルヲ安全トシ尙政府ニ於テ何等カ取締リノ法令ヲ規定サレンコトヲ切望スルモノテアリマス

印刷物配付目錄

今回ノ協議會ニ際シ參考ノ爲出席者ニ配付シタル印刷物左ノ如シ

一、大正十四年度病害蟲驅除豫算並病害蟲專任技術員調

* 一、害蟲發生豫察並點火誘殺實施狀況

* 一、病害蟲分布調査 第一報

一、病害蟲防除用器具機械並殺菌殺蟲劑ニ關スル調査

* 一、作物ノ品種ト病害蟲トノ關係ニ關スル調査

一、螟蟲卵寄生蜂ニ關スル調査

一、葉鞘變色莖摘採ノ効果並踏込動搖ノ影響ニ關スル調査

右ノ中特ニ參考トナルヘキモノヲ輯録スルコト次ノ如シ(* 印ノモノハ既ニ汎ク配付シタルヲ以テ茲ニ再録ヲ省略ス)

大正十四年度道府縣病害蟲驅除豫算並病害蟲專任技術員調査

	豫算額	同上内譯	專任技術員	農事試驗場 專任技術員
北海道	五、三一九 _円		技師 一	技師二 技手四

青森	岩手	宮城	秋田	山形	福島	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	東京	神奈川	新潟	富山	石川	福井
三、二四六	七五六	五〇〇		八〇〇	五三六		二、五〇〇	五一三	一一、三〇四	八、〇六三	一、〇一八	五、七三九	三、五六〇	八〇〇	五、二一七	四、一五〇
									普通二、一九四苗木病害蟲驅除一、四四三移出苗木檢査七、六六七						普通二、二一七黑椿象驅除三、〇〇〇	普通九二二黑椿象驅除三、二二八
技手									技手			技手	技手			
一									八			一	一			
技手	技手		技手		技師		技手	技手	技手	技手		技師	技手	技手	技手	技手
一	一		一		一		一	一	一	二		一	一	一	一	一

		豫算額	同上内譯	專任技術員	農事試驗場 專任技術員
山梨	九〇〇			技師一	技師一
長野	一、九二〇			技師一	技師一
岐阜	一、四九七			技師一	技師一
靜岡	九、〇九七	普通四、四三〇輸出蜜柑檢查三、五六七柑橘聯合會補助一、一〇〇〇		技師一	技師一
愛知	三、九五八	普通二、五四五移出苗木檢查一、四一三		技師一	技師一
三重	五、〇〇〇			技師一	技師一
滋賀				技師一	技師一
京都				技師一	技師一
大阪	四、五六〇	普通三、三六〇輸出蜜柑檢查六〇〇移出苗木檢查六〇〇		技師一	技師一
兵庫	三、九八一	普通二、四八一移出苗木檢查一、五〇〇		技師一	技師一
奈良	三、六一六			技師一	技師一
和歌山	二〇、九四九	普通二、六四五輸出蜜柑檢查二、八九四柑橘聯合會補助三、〇〇〇矢根介殼蟲驅除二、四一〇		技師一	技師一
鳥取	五〇〇			技師一	技師一
島根	六四八			技師一	技師一
岡山	六、六八四			技師一	技師一
廣島	六、九七七	普通五、七七七矢根介殼蟲驅除一、二〇〇		技師一	技師一

山口	四、九四四	技手	一	技師	一
徳島	三、四一七	技師	一	技手	一
香川	一、四五〇	技手	一	技手	一
愛媛	九、八〇五	技手	二	技手	一
高知	二、七八五	技手	一		
福岡	一二、八四八	技師一 技手二		技師一 技手一	
佐賀	五、一八七	技手	一	技手	一
長崎	五、四二八	技手	一	技手	一
熊本	五、〇五〇	技手	一	技手	一
大分	三、九六二	技手		技手	一
宮崎	二、四四三	技手		技手	一
鹿児島	四、六三七	技手	一	技手	一
沖縄	一、二七三	技手	一	技手	一
計	一八七、五三七	技師三 技手三〇		技師一 技手四〇	

備考 本表豫算ニハ道府縣立農事試験場費中ニ計上セラレタルモノハ之ヲ含マス

螟蟲卵寄生蜂ニ關スル調査

凡 例

一、本調査ハ大正七年以降道府縣農事試驗場ニ於テ施行シタル連絡調査ノ成績ヲ取纏メタルモノナリ

二、寄生歩合ノ算出ハ左記ノ方法ニ依レリ

第一法	被寄生卵粒數 總卵粒數
第二法	寄生蜂數 卵化螟蟲數 + 寄生蜂數

目 次

- 一、螟蟲卵寄生蜂ノ地方別寄生歩合
- 二、螟蟲卵寄生蜂ニ關スル調査其ノ一(二化性螟蟲)
- 三、螟蟲卵寄生蜂ニ關スル調査其ノ二(三化性螟蟲)

螟蟲卵寄生蜂ノ地方別寄生歩合(二化性螟蟲)

地 方 名	大正七年	大正八年	大正九年	大正十年	大正十一年	大正十二年	平 均
東 北 地 方	% 	三、〇四%	三、七六%	% 	% 	% 	三、九〇%
關 東 地 方	三、五六	七、九六	五、七六	五、八〇	一、〇八	三、〇三	一、二六七
北 陸 地 方	一、六五七	三、八二	一、七一六	三、五六六	四、三〇三	一、一〇〇	三、五八七

中部地方	東海地方	近畿地方	山陰地方	山陽地方	四國地方	九州地方	平均
三三、三七	一二、八七	五三、四七		七九、九	二八、七〇	四八、四八	三六、四
三七、九	一〇、九一	三八、八二		八五、六〇	五四、七六	三〇、四三	三六、八八
四三、六三	二〇、九七	三三、五六		六〇、三	二九、九五	四三、三八	二九、五一
	六七三	三三、六七		六九、八七	四〇、九〇	三八、七五	三三、〇五
	四〇、九〇	四九、七四	八五、八〇	八二、八七	五四、五四	五〇、八一	五三、三六
		二八、一三	五、九〇	五三、八七	三八、一一	三三、九	三三、八六
	二七、五七	一二、八七			一九、七〇	三九、七三	二四、四七
三七、七三	一九、九九	三四、一七	七二、三五	七二、〇九	三八、〇九	四〇、三五	三五、七七

備考

本州、四國、九州ヲ左ノ如ク十區ニ分ツ

東北地方 青森縣、岩手縣、宮城縣、秋田縣、山形縣、福島縣

關東地方 茨城縣、栃木縣、群馬縣、埼玉縣、千葉縣、東京府、神奈川縣

北陸地方 新潟縣、富山縣、石川縣、福井縣

中部地方 山梨縣、長野縣、岐阜縣

東海地方 靜岡縣、愛知縣、三重縣

近畿地方 滋賀縣、京都府、大阪府、兵庫縣、奈良縣、和歌山縣

山陰地方 鳥取縣、島根縣

蜚蠊卵寄生蜂ニ關スル調査

山陽地方 岡山縣、廣島縣、山口縣
 四國地方 德島縣、香川縣、愛媛縣、高知縣
 九州地方 福岡縣、佐賀縣、長崎縣、熊本縣、大分縣、宮崎縣、鹿兒島縣

螟蟲卵寄生蜂ニ關スル調査其ノ一(二化性螟蟲)

大正七年

地方名	採卵ノ場所面積	採卵日期	調査卵數	總粒數	螟蟲孵化數	寄生蜂總數	寄生步合	種類別寄生蜂數	寄生步合算出	備考
茨城	本田二反步	七月二日 1回	三三	一、二六六	四九	七五三	六、一二%	赤卵蜂 七五三 黑卵蜂 一	第二法ニ依ル	六月ハ寄生蜂ナシ
千葉	苗代	六月六日 3	四	—	—	—	四、〇〇	—	—	—
新潟	本田三反步	七月八日 2	二七	一、八八六	一、三〇二	四四五	二五、六五	三三	第二法ニ依ル	—
富山	一町步	六月六日 3	二五〇	一四、七四四	二、二二九	五五九	二〇、四七	五五九	第二法ニ依ル	寄生步合算出ニハ以下單ニ記ス
石川	苗代一反步 本田一反步	六月九日 3	一〇二	四、六三六	三、三二二	四九二	一〇、六〇	四九二	—	—
福井	—	自、至 至八、二五 5	一六七	一、五八七	五、〇一八	九三二	九、五七	五九二	—	—
山梨	苗代一五〇坪	六月二日 3	三〇	二、三六八	一一、二六〇	七七八九	三七、〇〇	五、三〇五 二、四八四	—	—

宮崎	大分	長崎	高知	香川	徳島	山口	岡山	和歌山	兵庫	京都	滋賀	静岡	長野
苗代	苗代二八〇坪	苗代五畝歩 本田四反歩	本田四畝歩 苗代一反四畝歩	本田三反五畝歩 苗代五坪	苗代五坪 本田五坪	苗代三畝歩 本田五畝歩	苗代 本田	苗代一反歩 本田一反歩	苗代二六九坪	苗代一反歩 本田二町歩	苗代一反歩	本田四畝歩 苗代一反歩 本田二町歩	苗代三畝歩又ハ 一畝歩 本田四畝歩
六、三 六、八	六、二 六、下	六、一 六、中	六、七 六、上	七、二 七、一	六、四 六、二	七、八 七、三	六、八 六、三	七、二 六、二	六、三 六、一	六、三 六、三	六、五 六、一	七、四 六、四	六、九 六、八
2	3	3	4	3	2	3	3	3	3	3	3	4	3
八三 七、五二〇	四九七 一六、一六	五八 六、九〇四	三六〇 二、五、六二	一七一 一〇、一六八	七 四、三九	一四〇 一〇、三七七	一三一 一〇、五五二	一二 一、二三九	三〇〇 一、一四一七	一九七 一、一九二	三〇〇 二、八、五五五	二〇〇 一、三、七七四	三〇〇 一、四、三六四
三、〇三八	七、五五三	四、四三八	一七、七七七	四、〇四五	二九一	二、〇五九	一、七六四	七七	一五、一二五	七、六六七	一〇、二三六	一三、七七四	一一、〇〇九
四、三六三	八、五六四	二、五五七	七、三二二	二、〇三二	一四八	八、三三八	六、二九五	一、一四六	五、七〇四	三、五三三	一、八、三三九	一、六九二	三、二七五
五七、九〇	四六、九〇	四〇、六四	二七、三五	二二、一〇	三七、七五	八〇、〇〇	七九、九七	九四、〇〇	二四、三九	三、五〇	六四、〇〇	一二、八七	二九、五三
四、三四七		二、五五七	七、三二二		一四八	六、六五四	五、六九五	一、一四六	五、六六三	二、五八七	一、八、三三九	一、六九二	二、五五八
一五						一、六六四	六〇〇		四二	九三八			七二七
一	二	二	二	一	二	二	二	二	一	二		二	二
一	ニ	ニ	ニ	一	ニ	ニ	ニ	ニ	一	ニ		ニ	ニ
殆ント赤卵蜂	ニ	ニ	ニ	一	ニ	ニ	ニ	ニ	一	ニ		ニ	ニ
以生九五、一五八、 ツ蜂ノ調査ハ寄 テナキヲ	殆ント赤卵蜂	ニ	ニ	一	ニ	ニ	ニ	ニ	一	ニ		ニ	ニ
省略	ニ	ニ	ニ	一	ニ	ニ	ニ	ニ	一	ニ		ニ	ニ

地方名	採卵ノ場所面積	採卵ノ期	調査卵總數	卵螟蟲癭數	寄生蜂數	合生	種類別寄生蜂數	寄生歩	備考
		日回數	塊數粒	數化	數總	數步	赤卵蜂 黑卵蜂 其ノ他	法合算出	備

[illegible]

一六九

[illegible]

大分	宮崎
苗代二八〇坪	
六、六、六、上 六、六、六、中 六、六、六、下	
3	2
二七九	八二
一九、二九〇	六、八二九
一五、六〇八	二、七五
三、六八二	四、〇三四
一九、〇九	五、八〇九
	三、九八三
	五
ニ殆赤卵蜂	一

大正十年

茨城	群馬	千葉	富山	石川	静岡	京都	兵庫	岡山	山口
本田	苗代 本田	本田九〇坪	三町歩	苗代一反歩 本田一反歩	苗代一反歩 本田二町歩	苗代一反歩	苗代二六九坪	苗代 本田	苗代二畝歩 四畝歩及
六、六、三 六、三、四	六、一、一 七、一、七	六、六、六	六、六、一、七 六、六、三	五、九、九 六、三、三	六、三、三 六、三、三	六、三、三 六、三、三	六、三、三 六、三、三	七、二、四 六、二、九	六、六、三、五 六、六、三、五
2	3	1	3	3	3	3	3	4	5
一九	二六	七	四七	一五三	三〇〇	一七〇	二二	二〇〇	八四二
七、七二	二、六六	三九	一九、五九	七、三六〇		一一、〇九	—	一九、七六〇	四、五、五七三
五、五〇六	一、三六六	二七九	七、四二	四、二八一	二、三、四九三	八、九八九	一、九五六	四、六八〇	一、五、五七五
二九	八三元	三四	七、一七四	六、六三	一、二六八	三、一一〇	四、〇五〇	一一、〇三〇	三、〇、一一
〇、五〇	三、八八	一〇、八六	六三、六三	八、七〇	六、七三	二五、七〇	四、一六三	七、三、七三	六、六、〇〇
二九	八三四				一、二六八	二、三、九〇	三、七五	一〇、四七	一、三、三七六
	五	三四	七、一七四	六、六三		七、二〇	二七五	五七三	一、六、六三五
									八
ニ六月上中旬寄 生蜂ナシ	一	ニ六月寄生蜂ナ シ	一	一	ニ	ニ	ニ	ニ	ニ

螟蟲卵寄生蜂ニ關スル調査

地方名	採卵ノ場所面積	採卵ノ期	調査卵總數	卵數	螟蟲孵化數	寄生蜂總數	寄生蜂步合	種類別寄生蜂數	赤卵蜂	黑卵蜂	其ノ他	寄生步合算出	備考
德島	苗代一反步 二〇坪	六、二六 六、二七 六、二八 六、二九 六、三〇 六、三一 六、三二 六、三三 六、三四 六、三五	8	八二塊	四、四八六粒	二、六六五頭	一、八二三頭	四九七〇%	一八二三頭			二	
香川	本田一畝步 苗代二畝步	六、二六 六、二七 六、二八 六、二九 六、三〇 六、三一 六、三二 六、三三 六、三四 六、三五	6	四五	一九一七	八三六	七八一	四二、〇五	七五三		二九	二	
愛媛	苗代四畝步 本田一反五畝步	七、一八 七、一九 七、二〇 七、二一 七、二二 七、二三 七、二四 七、二五 七、二六 七、二七	2	八三	七、五〇九		粒數 寄生卵 一、九四三	三一、〇五				一	
福岡	苗代	五、二六 五、二七 五、二八 五、二九 五、三〇 五、三一 五、三二 五、三三 五、三四 五、三五	3	一五〇	一五、六八九	一〇、〇九四	四、〇六八	二九、二三				二	殆赤卵蜂
長崎	苗代二反步 本田五畝步	六、二六 六、二七 六、二八 六、二九 六、三〇 六、三一 六、三二 六、三三 六、三四 六、三五	3	七二	八、〇四八	五、四九〇	二、五五七	三〇、七七	二、五五七			二	
熊本	苗代三畝步 本田二反步	六、二六 六、二七 六、二八 六、二九 六、三〇 六、三一 六、三二 六、三三 六、三四 六、三五	3	一四五	一六、二二一	一〇、三六二	五、七五九	三四、三三	五、七五九			二	
宮崎	苗代	六、二六 六、二七 六、二八 六、二九 六、三〇 六、三一 六、三二 六、三三 六、三四 六、三五	2	八五	六、一四七	二、一六一	三、七二九	六〇、六六	三、七二九			一	

大正十一年

茨城	苗代	六、九	1	二九	一、六七六	一、三九二	四	〇、二八				二	
群馬	苗代 本田	六、二六 六、二七 六、二八 六、二九 六、三〇 六、三一 六、三二 六、三三 六、三四 六、三五	6	一一三	九、五三三	三、八九七	三、八〇八	四、六七	三、八〇二	七		一	
千葉	苗代三〇六坪	六、二六 六、二七 六、二八 六、二九 六、三〇 六、三一 六、三二 六、三三 六、三四 六、三五	3	一〇一六	四三、四〇四	三一、二〇三	五、六七六	二八、二九				二	
富山	二町步	六、二六 六、二七 六、二八 六、二九 六、三〇 六、三一 六、三二 六、三三 六、三四 六、三五	3	一三七	五、六五一	六二二	二、六〇二	四三、〇二		二、六〇二		一	

[illegible]

大正十二年

地方名	採卵ノ場所面積	採卵ノ日 同數	調査數	卵粒總數	螟蟲 孵化數	寄生蜂 總數	寄生 歩合	種類別寄生蜂數 赤卵蜂 黑卵蜂 其ノ他	寄生蜂 合算出	備考
千葉	苗代三〇六坪	六、七、五	四三	二、三四六	一六九九	一三	三、〇三%	一	二	
石川	苗代一〇〇坪 本田一反歩	四、三、三 五、三、三	七六	一、九六二	一三三六	二五	二、〇〇	二五	一	
京都	苗代一反歩	六、三、七 六、三、七	三〇	一、八八八	一六五五	一六三	八、二三	一〇	二	
兵庫	苗代三八四坪	六、三、五 六、三、五	一八五	—	一、一七〇	一八一五	一四、三〇	一、一三〇	三	
奈良	縣下五ヶ所	六、三、八 六、三、八	三四三	九、五〇五	三七五四	五、七五一	六、一八三	五、七五一	二	五ヶ所共同日ニ調査
島根	苗代一反歩	六、三、三	一三〇	五、五五六	二、三九三	三、一六三	五、六九〇	三、一六三	二	
岡山	苗代 本田	六、三、六 六、三、六	一五〇	一四、六八七	五四〇〇	六、八三六	六〇、七三	一、三三四	二	
山口	苗代一畝歩乃至 四畝歩	六、三、三 六、三、三 六、三、三 六、三、三	八七四	四四、五九四	二、三、七九	二〇、八三五	四七、〇〇	七、四三三	二	
徳島	苗代一畝又ハ 四畝歩	六、三、〇 六、三、〇	四三	二、八二八	一、八二四	一、〇〇四	三七、三四	一、〇〇四	二	
香川	本田一〇坪 苗代一反歩	七、三、〇 七、三、〇	二四三	一、一六三	四八一二	六、三五一	四八、一五	四、九九九	二	
媛	本田	七、二、一 七、二、一	二四	二、〇九六	—	七、六五	三六、五〇	—	一	

大正十三年

千葉	三重	京都	兵庫	愛媛	福岡
苗代三〇六坪 本田三〇〇坪	四〇坪	苗代一反歩	苗代四一八坪	苗代一〇坪 苗代七坪 三坪	苗代
六、七、五 九、七、五 六、七、五	六、七、五 九、七、五 六、七、五	六、七、五 九、七、五 六、七、五	六、七、五 九、七、五 六、七、五	六、七、五 九、七、五 六、七、五	六、七、五 九、七、五 六、七、五
2	4	5	5	3	4
一四二	一、三九七、五〇二五	一五五	九五	二五	一七六
六、一八五	三、三、四、五三	一、一八三〇	一、〇一〇	一、八七三	一、五五九
四六三三	一、二、三、〇一	一、〇五七	六〇一〇	一、五四一	三、七二三
一九二	二、七、五七	一、一、三三	一、〇六三	三三三	三、八五三
二、三、五二	二、三、〇一	一、一、二〇	一、四、五四	一九七〇	五、三、五八
一	一、二、三、〇一	五九九	六六六	三三三	一
一九二	一	七三四	三六四	一	一
二	二	二	二	二	二
二六日毎ニ調査	二六日毎ニ調査	二五日毎ニ調査	二	二	二殆赤卵蜂

高知	福岡	長崎	熊本	大分	宮崎
本田四五坪	苗代	苗代二反歩 本田五畝歩	苗代一畝歩 五畝歩	苗代二八〇坪	苗代
五、一、七 五、一、七 五、一、七	六、一、四 六、一、四 六、一、四	六、一、四 六、一、四 六、一、四	六、一、四 六、一、四 六、一、四	六、一、四 六、一、四 六、一、四	六、一、四 六、一、四 六、一、四
2	4	3	3	5	2
三〇	二六三	五三	六八	二〇四	八七
二、七、三五	二、〇、二三	六、四、五一	六、四、九七	一、三、〇、五三	六、四、一五
一、八、一四	一、二、〇、四七	四、二、八三	五、二、二一	九、九、八九	二、一、三〇
八九六	五、〇、九四	二、二、三三	一、三、三〇	三、〇、六三	四、〇、三三
三〇、四五	二、七、二〇	三、四、九七	一、五、六〇	一、九、六〇	六、三、五七
八九六	一	二、二、三三	一、三、三〇	一	四、〇、三三
一	一	一	一	一	一
一	一	一	一	一	一
二殆赤卵蜂	二殆赤卵蜂	二	二	二殆赤卵蜂	一

地方名	採卵ノ場所面積	採卵ノ期	調査卵總數	卵蟬孵化數	寄生蜂總數	寄生蜂歩合	種類別寄生蜂數	寄生歩合算出	備考		
佐賀	苗代一反七畝歩	自六、四至六、六	二六九塊	一五、六八〇粒	一一、二〇頭	一、〇三五頭	八、四三%	一、〇〇三頭	三頭	二	殆赤卵蜂
長崎	苗代二反歩 本田五畝歩	五、二六至六、一五 六、二六至六、三五	七三	八、三三九	四、〇三九	四二八〇	五四、六五	四、三六		二	
大分	苗代二〇〇坪	六、一六至六、二五 六、二六至六、三五 六、三六至六、四五	一九四	一三、八五六	七、四〇三	六四四三	四二、一〇			二	殆赤卵蜂

螟蟲卵寄生蜂ニ關スル調査其ノ二(三化性螟蟲)

大正七年

平均	山口	和歌山
	苗代一畝歩	苗代一畝歩
	六、二	六、二
	I	1
	二〇	三
	五〇七	五〇
	四二	一四六
	九五	四
一一、五〇	一九、〇〇	四〇〇
	九五	四
	二	二

大正八年

山口	苗代一畝歩	六六 五五	2	七一	四七 二三	四〇 八九	六三四	一三〇〇	五九八	二六	—	二
----	-------	----------	---	----	----------	----------	-----	------	-----	----	---	---

大正九年

山	福	平
口	岡	均
苗代一畝步 本田五畝步	苗代 本田	
六、二八六	五、七三六	九、七三六
六、二八六	五、七三六	九、七三六
六、二八六	五、七三六	九、七三六
四	四	
九三	一七五	
四、九六九	二、八三八	
四、三八六	八、七一九	
五、三	三、二七一	
一、三〇〇	二、二六八	一、六八四
五、三		
二	二	殆赤卵蜂

山 口	福 岡	長 崎	平 均
苗代一畝步	苗代	本 田	苗代
六、二五	九、一三	九、一五	六、二五
2	二六	二七	2
一三五	一三九	一八	
七、七〇四	九、九一五	八七〇	
六八五六	六、七七一	五九四	
八五三	二、二四七	二七六	
一、一〇〇	二九四七	三九、九六	二三八一
八四三		二七六	二七六
九			
二	二	二	
	殆赤卵蜂		

平均	山口
	苗代一畝歩
	五、三 1
	一三
	四七四
	三七六
	九六
	二、三、〇
	八三
	一六
	二
	殆赤卵蜂

地方名	採卵ノ場所面積	採卵ノ期 日回數	調査數 塊卵總數	螟蟲寄生蜂總數	寄生步合	種類別寄生蜂數 赤卵蜂 黑卵蜂 其ノ他	寄生步 法算出	備考
山口	苗代一畝歩又ハ二畝歩	五、三、一 六、四、一 六、九、一 六、七、四 六、五、一 六、一、五 六、二、六 六、七、二 六、七、二	一、四、三 四、三、三 三、〇、八 三、三、五 三、六、八 四、二、七 一、四、八	一、二、四 一、二、九 一、四、七 一、九、九 一、四、九 一、九、九 一、四、八	二七、〇〇% 二七、〇〇% 二七、〇〇% 二七、〇〇% 二七、〇〇% 二七、〇〇% 二七、〇〇%	一、〇、四 六、六 三、三 二、二	二法 二 二	殆赤卵蜂

大正十三年

福岡	苗代	六、四、一 六、四、一 六、三、五 六、二、七 六、二、七 六、二、八 五、三、〇	七、二 二、七、三 一、二、九 七、九 三、九、五 三、五、〇	一、〇、〇 一、〇、〇 一、〇、〇 一、〇、〇 一、〇、〇 一、〇、〇 一、〇、〇	二 二 二 二 二 二 二	殆赤卵蜂
佐賀	苗代一反七畝歩	六、二、七 六、二、七 六、二、七 六、二、七 六、二、七 六、二、七 六、二、七	七、二 二、七、三 一、二、九 七、九 三、九、五 三、五、〇	一、〇、〇 一、〇、〇 一、〇、〇 一、〇、〇 一、〇、〇 一、〇、〇 一、〇、〇	二 二 二 二 二 二 二	殆赤卵蜂
長崎	苗代	六、二、七 六、二、七 六、二、七 六、二、七 六、二、七 六、二、七 六、二、七	七、二 二、七、三 一、二、九 七、九 三、九、五 三、五、〇	一、〇、〇 一、〇、〇 一、〇、〇 一、〇、〇 一、〇、〇 一、〇、〇 一、〇、〇	二 二 二 二 二 二 二	殆赤卵蜂
平均		五、三、〇 六、二、七 六、二、七 六、二、七 六、二、七 六、二、七 六、二、七	七、二 二、七、三 一、二、九 七、九 三、九、五 三、五、〇	一、〇、〇 一、〇、〇 一、〇、〇 一、〇、〇 一、〇、〇 一、〇、〇 一、〇、〇	二 二 二 二 二 二 二	殆赤卵蜂

大正七年ヨリ大正十三年ニ至ル七ケ年間平均寄生步合 二二、四二

葉鞘變色莖摘採ノ効果及稻ノ開花期ニ於テ踏込動搖ノ影響ニ關スル調査

目次

- | | |
|---------------------|-------------------------|
| 一、葉鞘變色莖摘採ノ效果ニ關スル調査 | 二、稻ノ開花期ニ於テ踏込動搖ノ影響ニ關スル調査 |
| イ、地方別平均摘採時間及收量増減表 | イ、地方大別平均摘採時間及收量増減表 |
| ロ、葉鞘變色莖摘採ノ效果ニ關スル調査表 | ロ、踏込動搖ノ影響ニ關スル調査表 |

概 括

- 一、本調査ハ大正七年以降府縣農事試驗場ニ於テ施行シタル連絡調査成績ヲ取纏メタルモノナリ
- 一、各地方ニ於ケル調査成績ハ其ノ施行及成績ノ如何ヲ問ハス之ヲ採用セリ
- 一、葉鞘變色莖ノ摘採ハ螟蟲ノ發生多キ場合ハ勿論發生普通ノ場合ニ於テモ概シテ有利ニシテ實施其ノ宜シキヲ得ハ著シキ增收ヲ舉ゲ得ヘシ
- 一、本調査成績ニ依レハ葉鞘變色莖摘採ノ效果ハ全國平均ニ於テ反當九升(三、六%)ノ增收ヲ示シ摘採時間二十四時間半ヲ要セリ
- 一、東北地方ニ於テ摘採カ有利ニ施行シ得ラルルヤ否ヤニ付テハ尙調査ヲ要スヘシ
- 一、葉鞘變色莖摘採ノ爲稻ノ開花期ニ於テ踏込動搖(三同施行)ヲ爲シタル場合稻ノ收量ニ及ホス影響ハ全國平均ニ於テ反當三升(約一%)内外ノ減收ヲ示スサレハ葉鞘變色莖ノ摘採ヲ施行スル場合其ノ利益ハ通常此減收ヲ補フテ充分餘リアルモノナルヤ敢テ言フ要セス

葉鞘變色莖摘採ノ效果及稻ノ開花期ニ於テ踏込動搖ノ影響ニ關スル調査

一八〇

一、葉鞘變色莖摘採ノ效果ニ關スル調査ヲ完了シタル地方ニ於テハ今後摘採ニ關スル經濟的調査ヲ施行スルハ甚タ肝要ナル事項ナリト認ム

一葉鞘變色莖摘採ノ效果ニ關スル調査

イ、地方別平均摘採時間及收量増減表

地方大別	東北地方	關東地方	摘採時間		標準ニ比シ増減	増減歩合(%)
			反	當		
府縣別	青森縣 岩手縣 秋田縣 山形縣 福島縣 平均縣	茨城縣 栃木縣 群馬縣 千葉縣 神奈川縣 平均縣	一四、二四 ^時 五九、四〇 一八、二〇 三〇、四八	〇、二六八 ^石 〇、一九〇 〇、〇九〇 〇、一三五 〇、二〇九 〇、〇四八	(+)(+)(-)(+)(+) (+)(-)(-)(-)(+)(+)	一二、六 八、四 三、八 五、一 七、八 〇、二
			二五、〇一 七六、〇〇 二、三〇 二八、〇二 七〇、〇六 四〇、二〇	〇、〇二七 〇、二九五 〇、〇〇七 〇、一七〇 〇、二三九 〇、一四四八	(+)(+)(-)(+)(+) (+)(+)(+)(-)(+)(+)	一、一 一五、二 〇、五 八、五 九、四 七、一

北陸地方	中部地方	近畿地方	中國地方
新瀨 富山 石川 平川縣均	山梨 岐阜 靜岡 平岡縣均	三重 京都 滋賀 兵庫 奈良 和歌 平歌縣均	島根 岡山 岡山縣(甲) 岡山縣(乙)
一五、〇八 二九、五二 二四、五八 二三、一九	一三、三七 四、〇〇 八、四九	一二、三六 三二、二八 一一、〇〇 二三、〇〇 一八、四五 一〇、〇〇 一七、五八	二二、四六
(+)(+)(-)(+)	(+)(+)(+)(+)	(+)(+)(+)(+)(+)(+)(-)	(+)(+)(+)
〇、〇七〇 〇、〇七五 〇、〇四〇 〇、〇四五	〇、〇八二 〇、〇三四 〇、〇六〇 〇、〇九二〇	〇、〇九五 〇、〇二五 〇、〇二五 〇、〇四二 〇、〇三八 〇、〇三五 〇、〇一〇七	〇、〇四三 〇、〇五八 〇、〇二三〇
(+)(+)(-)(+)	(+)(+)(+)(+)	(+)(+)(+)(+)(+)(+)(+)	(+)(+)(+)
二、二五 二、二九 五、三 一、六九	六、八 一、三 一、九 三、三一	八、七 八、七 二五、〇 二、一 四、四 四、七 四、八九	五、五 五、八 四、三

地方大別	府縣別	反當		増減歩合(%)
		摘採時間	標準ニ比シ増減	
四國地方	德島縣 香川縣 高知縣 平均	三三、三九 二四、五四 二九、一七	(-)(-)(+)(+) 〇、〇八〇 〇、〇〇九 〇、一九八 〇、〇三六三	(-)(-)(+)(+) 三、二 〇、四 一〇、〇 一、六一
九州地方	福岡縣 佐賀縣 長崎縣 熊本縣 大分縣 宮崎縣 平均	七一、一九 一七、二二 二、一〇 一九、〇五 一六、三一 一二、二九	(+)(+)(+)(+)(+)(+)(+) 〇、一八四 〇、〇八〇 〇、〇六五 〇、一三六 〇、二〇一 〇、〇九七 〇、一二七二	(+)(+)(+)(+)(+)(+)(+) 六、〇 三、二 三、〇 五、〇 六、七 三、二 四、六二
總平均 東北地方ヲ除ク		二二、五〇 二二、三七	(+)(+) 〇、〇九〇五 〇、一〇一二	(+)(+) 三、五七 四、一〇

表 調査結果ノ採摘色葉綠葉ノ效果ニ關スル調査結果

府 縣 別	調 査 年 度 (大正)	被 害 程 度	調 査 區 別	稻 品 種 及 及 早 中 晩	調 査 地 面 積	摘 採 月 日 回 數	摘 採 時 ノ 生 育 狀 況	反				當		玄 重 米 一 升 ノ 量	玄 米 ノ 品 等	備 考
								摘 採 本 數	摘 採 時 間	玄 米 收 量	標 準 比 減	批 容 量	玄 重 米 一 升 ノ 量			
青森縣	9年	多	摘採區 保村三號	同 上	不 明	(1) 7.29 8.16 2回	不 明	9.30	不明	2,388	5(+) 0.268	不明	不明	不明	不明	
								—	—	2,120	—	不明	不明	不明		
								3046	時分 14.24	2,458	(+) 0.190	0.108	0.376	3 等		
岩手縣	7年	不明	摘採區 關山 岩手 關山一號	同 上	同 上	3回	不 明	—	—	2,268	—	0.152	0.375	4 等		
								—	—	—	—	—	—	—		
								—	—	—	—	—	—	—		
秋田縣	7年 自11年 至5ヶ年 平均	中府	摘採區 大正7.8年 總尾 大正9.10.11年 豐國 同 上	同 上	大正7.8年 1畝15歩 大正9.10.11年 1畝1歩 同 上	(1) 8.23 (2) 8.30 (3) 9.6 3回	不 明	599	59.40	2,191	(-) 0.030	0.314	0.371	3 等	開花期 8月17日	
								—	—	—	—	0.396	0.372	3 等	總尾出穂期 8月10日 豐國出穂期 8月8日	
								—	—	2,281	—	—	—	—		
山形縣	7年	中府	摘採區 總尾 (中 生) 豐國(中 生)	同 上	2畝半 同 上	(1) 8.15 (2) 8.22 (3) 8.29 3回	乳熟期 同 糊熟期	1570	18.20	2,490	(-) 0.135	0.255	0.385	2 等		
								—	—	2,625	—	0.158	0.377	2 等		
								—	—	—	—	—	—	—		
福 島	自10年 至12年 平均	少	摘採區 愛國 (晩生)	同 上	6 歩	大正10年 (1) 7.20 (2) 8.20 (3) 8.25 大正11年 (1) 7.20 (2) 7.30 (3) 8.10	不 明	—	不明	2,487	(-) 0.209	不明	0.395	中 等		
								—	—	—	—	—	—	—		
								—	—	—	—	—	—	—		

府縣別	調査年度(大正)	被害程度	調査區別	稻ノ早中晩	調査地面積	摘採月日回数	摘採状況 採時ノ生育 方狀	反當				玄重 米一升ノ量	玄米ノ品等	備考
								摘採本數	摘採時間	玄米收量	標準ニ 比増減	批 容量		
縣	大正7年 平均	中府	標準區	同 上	大正7年 5畝 自大正8年 2畝 自大正11年 2畝	大正12年 月日 (1) 7.28 (2) 8.10 (3) 8.30 各年3回	不明	—	—	2.696	—	不明	0.3305	中 等
			摘採區 愛國(中生)	同 上	大正7年 5畝 自大正8年 2畝 自大正11年 2畝	大正7年 (1) 8.19 (2) 8.26 (3) 9.2 自大正8年 自大正11年 (1) 8.下旬 (2) 出穗期 (3) 9.下旬 (3) 同	大正7年 (1) 穗孕期 (2) 出穗期 (3) 乳熟期 自大正11年 自大正11年	3614	25.01	2.438	(+) 0.027	0.133	0.386	大正7年 4等 自大正8年 自大正11年 3等
			標準區	同 上	同 上	8.28 9.? 9.? 3回	同 上	—	—	2.411	—	0.185	0.383	同 上
茨城縣	大正7年	中府	摘採區 愛國(中生)	同 上	5畝	8.28 9.? 9.? 3回	調査映シ	1456	76.00	2.230	(+) 0.295	0.085	0.390	輸出三ノ下 二三回ノ摘採日 不明
			標準區	同 上	同 上	8.18 8.25 2回	同 上	—	—	1.935	—	0.105	0.388	輸出四ノ上
			摘採區 愛國6號(中生)	同 上	5畝	8.18 8.25 2回	(1) 穗孕期 (2) 出穗期	264	2.30	1.305	(-) 0.007	0.206	0.385	48株 5本植
栃木縣	大正7年	中府	標準區	同 上	同 上	3回	(1) 穗孕期 (2) 出穗期 (3) 乳熟期	6339	28.02	2.173	(+) 0.170	0.171	0.377	大正7年 4等 摘採月日 不明
			摘採區	同 上	同 上	3回	(1) 穗孕期 (2) 出穗期 (3) 乳熟期	—	—	1.312	—	0.204	0.385	同 上
群馬縣	大正7年	中府	標準區	同 上	同 上	3回	(1) 穗孕期 (2) 出穗期 (3) 乳熟期	—	—	1.312	—	0.204	0.385	同 上
			摘採區	同 上	同 上	3回	(1) 穗孕期 (2) 出穗期 (3) 乳熟期	—	—	1.312	—	0.204	0.385	同 上
縣	大正7年	中府	摘採區	同 上	同 上	3回	(1) 穗孕期 (2) 出穗期 (3) 乳熟期	—	—	1.312	—	0.204	0.385	同 上
縣	大正7年	中府	摘採區	同 上	同 上	3回	(1) 穗孕期 (2) 出穗期 (3) 乳熟期	—	—	1.312	—	0.204	0.385	同 上
縣	大正7年	中府	摘採區	同 上	同 上	3回	(1) 穗孕期 (2) 出穗期 (3) 乳熟期	—	—	1.312	—	0.204	0.385	同 上

葉縣	3年平均	席	關渡 (何レモ中生)	50歩	—	同	上	—	—	2.008	—	0.192	0.377	3等 大正11年 5等	同	上	大正11年 5等
神奈川縣	7.8年平均	中席	標準區	同	上	—	同	上	—	—	—	—	—	中	中	等	標準區 長早生(早生)
			標準區	同	上	—	同	上	—	—	—	—	—	中	中	等	標準區 同
			標準區	同	上	—	同	上	—	—	—	—	—	中	中	等	標準區 同
新潟縣	7.8年平均	中席	標準區	同	上	—	同	上	—	—	—	—	—	中	中	等	標準區 同
			標準區	同	上	—	同	上	—	—	—	—	—	中	中	等	標準區 同
			標準區	同	上	—	同	上	—	—	—	—	—	中	中	等	標準區 同
富山縣	7.8年平均	中席	標準區	同	上	—	同	上	—	—	—	—	—	中	中	等	標準區 同
			標準區	同	上	—	同	上	—	—	—	—	—	中	中	等	標準區 同
			標準區	同	上	—	同	上	—	—	—	—	—	中	中	等	標準區 同

府 縣 別	調 査 年 (大 正 度)	被 害 程 度	調 査 區 別	稻 ノ 品 種	調 査 地 面 積	摘 採 月 日 回 數	摘 採 ル 況 採 種 ノ 生 育 ケ 於 ケ ル	反				玄 ノ 米 重 一 升 量	玄 米 ノ 品 等	備 考
								摘 採 本 數	摘 採 時 間	玄 米 收 量	標 準 増 減	批 容 量		
山 縣	7年 自 5ヶ 年 平均	中 庸	標 準 區	上	大正11年 80歩 30歩 (1) 8.中旬 (2) 9.中旬 (3) 但10年 9.13 各年3回	大正8.9.10. 11年 8.中旬 9.中旬 9.13 各年3回	同 上	—	—	2,508	—	不明	大正7.8.9. 11年丙 10年丁	ノハ被害甚トリ テ取除キタリ
								591	24.58	2,761	(+) 0.140	0.182		
								—	—	2,621	—	0.170		
石 川 縣	7年 自 5ヶ 年 平均	標 準 區	同 上	同 上	同 上	—	同 上	—	—	—	—	0.368	大正7.9年 3等 大正8年 1等 大正10年 等外甲 大正11年 等外甲 大正7.9年 4等 大正8年 3等 同 10.11年 等外甲	
								1996	13.37	2,804	(+) 0.182	0.347		
山 梨 縣	7, 9. 10.11. 4ヶ 年 平均	中 庸	標 準 區	同 上	同 上	5畝	摘採區明治錦(晩生)	—	—	—	—	0.379	大正7年 2等 大正 9. 10. 11年 3等 大正7年 2等 同 10.11年 3等	
								1996	13.37	2,804	(+) 0.182	0.347		

岐皇縣	9年	中庸	摘採區	埼玉(晩生)	上	5歩	9.11 18 26 3回	(1)出穂期 (2)不乳熟期 (3) —	420	4.00	2.560	(+)0.034	0.095	0.389	3等	病害ニテ倒伏シ タルモノ殊ニ多 カリキ
静岡縣	4年	中庸	摘採區	神力(中生)	上	1畝	8.30 9.9 9.18 9.29 4回	(1)總孕期 (2)總蒴期 (3)乳熟期 (4)實熟期	4160	不詳	3.190	(+)0.060	1.165	0.385	不詳	
			標準區	同	上	1畝	同	—	—	3.130	—	1.150	0.394	同上		
三重縣	10年 11年 2ヶ年 平均	中庸	摘採區	大正10年 伊勢錦(中生) 大正11年 神力(晩生)	上	15歩 2畝15歩	大正10年 (1)9.8 (2)9.2 2回 大正11年 (1)8.25 (2)9.7 2回	大正10年 (1)乳熟期 (2)同 大正11年 (1)出穂期 (2)乳熟期	1490	12.36	2.433	(+)0.195	不明	0.330	大正10年 中ノ上 大正11年 不明	
			標準區	同	上	上	同	—	—	2.238	—	0.374	不明	0.379	不詳	
京都府	自7年 至9年 平均	中庸	摘採區	不詳	不詳	50歩	3回	不詳	972	32.28	2.699	(+)0.215	不明	0.379	不詳	
			標準區	不詳	不詳	50歩	—	不詳	—	—	2.484	—	0.383	不詳		
滋賀縣	12年	中庸	摘採區	渡船(晩生)	上	50歩	9.10 1回	中	4300	11.00	1.075	(+)0.215	不明	0.380	中	
			標準區	同	上	上	—	中	—	—	2.860	—	不明	0.350	下	
兵庫縣	7年	中庸	摘採區	東	上	10歩	9.3 9.16 9.16 3回	不明	1830	23.00	2.062	(+)0.042	0.450	0.380	不明	
			標準區	同	上	上	同	—	不明	—	—	2.020	—	0.447	0.380	不明

府 縣 別	調 査 年 度 (大正)	被 害 程 度	調 査 區 別	稻 ノ 品 種	及 早 中 晩	調 査 地 面 積	摘 採 日 回 數	摘 採 時 ノ 生 育 於 狀	反				玄 米 重 一 升 量	玄 米 ノ 品 等	備 考
									摘 採 本 數	摘 採 時 間	玄 米 收 量	標 準 増 減	批 容 量		
奈 良 縣	自 7年 至 11年 平均	中 庸	摘 採 區	大正7年 神力(晩) 大正8.9.10. 11年 雄町(中生)	大正7年 7.5歩 大正8.9年 5歩 大正10.11年 10歩	大正7年 (1) 8.8歩 (2) 9.15歩 (3) 9.22歩 大正8.9. 10.11年 3回	(1) 出穂期 (2) 乳熟期 (3) 乳熟期	924	15.45	2.996	(+) 0.138	0.094	0.386	大正7年 3等 大正8.9年 10.11 2等	
			標準區	同	同	同	同	同	—	—	3.135	—	0.089	0.388	同 上
			摘 採 區	太政官(晩生)	5畝歩	大正7年 (1) 9.1歩 (2) 9.7歩 (3) 9.14歩 大正9年 (1) 9.4歩 (2) 9.12歩 (3) 9.20歩 各年3回	(1) 穂孕期 (2) 出穂期 (3) 乳熟期	4,242	10.00	2.975	(+) 0.135	0.360	0.381	摘採區ニ於 テ優良モ大 ニ感アルコ トナシ	
和 歌 山 縣	7年 9年 2ヶ年 平均	中 庸	標準區	同	同	同	同	同	—	—	2.840	—	0.410	0.381	
			摘 採 區	大正7年 彦四郎(晩生) 大正8.9年 龜治(晩生) 大正10.11年 朝日山(中生)	大正7.10. 11年 4畝 大正8.9. 5畝 但 大正8.10年 1回 目上旬 9月上旬	(1) 8.下旬 (2) 9.上旬 (3) 9.中旬 大正10. 11年 3回	大正7.8.9年 (1) 出穂初 (2) 開花中 (3) 乳熟前 大正10. 11年 開花後 乳熟期	1,382	22.46	2.724	(+) 0.142	0.130	0.378	但 大正9年 3等	
			標準區	同	同	同	同	同	—	—	2.582	—	0.141	0.377	但 大正9年 3等
鳥 根 縣	自 7年 至 11年 平均	中 庸	標準區	同	同	同	同	同	—	—	2.582	—	0.141	0.377	
			摘 採 區	大正7年 彦四郎(晩生) 大正8.9年 龜治(晩生) 大正10.11年 朝日山(中生)	大正7.10. 11年 4畝 大正8.9. 5畝 但 大正8.10年 1回 目上旬 9月上旬	(1) 8.下旬 (2) 9.上旬 (3) 9.中旬 大正10. 11年 3回	大正7.8.9年 (1) 出穂初 (2) 開花中 (3) 乳熟前 大正10. 11年 開花後 乳熟期	1,382	22.46	2.724	(+) 0.142	0.130	0.378	但 大正9年 3等	
			標準區	同	同	同	同	同	—	—	2.582	—	0.141	0.377	

岡山縣(甲)	大正7年 8,10,12年 平均	摘採區	雄町(中生)	但大正7年 10歩	下ノ月日ニ 各一回	(1) 穂孕期 (2) 出穂期 (3) 穂揃期	1.863 2.423 4.540	不明 不明 不明	2.989 2.887 2.772	(+)0.264 (+)0.162 (+)0.047	不明 不明 不明	0.386 0.386 0.387	不明	
	7年 12年 平均	標準區	同	上	—	平均	2.943 —	不明 —	2.883 2.725	(+)0.158 —	不明 不明	0.386 0.386	不明	
	7年 12年 平均	摘採區	神力(晩稻)	但大正7年 30歩 10歩	下ノ月日ニ 各一回	穂孕期 上	1.823 2.543 2.700	不明 不明 不明	3.234 3.172 3.156	(+)0.177 (+)0.115 (+)0.099	不明 不明 不明	0.387 0.387 0.388	不明	
岡山縣(乙)	7年 12年 平均	標準區	同	上	—	平均	2.369 —	不明 —	3.187 3.057	(+)0.130 —	不明 不明	0.387 0.387	不明	
	7年 12年 平均	摘採區	穀良郡(早生)	15歩	3 同	不明	5.180	22.40	2.703	(+)0.041	不明	0.391	大粒 3 等	
	7年 12年 平均	摘採區	同	上	—	同	—	—	2.654	—	不明	0.391	大粒 3 等	
廣島縣	7年 12年 平均	摘採區	大正7年 辨慶(中生)	1 畝	(1) 7,上旬 (2) 5,日前 (3) 9,上旬	(1) 穂孕期 (2) 出穂期 (3) 穂揃期	3.630	25.44	3.472	(+)0.145	0.432	0.388	小粒 2 等	
	7年 12年 平均	標準區	同	上	—	同	—	—	—	—	不明	0.385	小粒 2 等	
	7年 12年 平均	摘採區	同	上	—	同	—	—	—	—	不明	0.382	合 格	
山口縣	7年 12年 平均	摘採區	神力 9號(晩生)	5 畝	(1) 9,上旬 (2) 9,中旬 (3) 9,下旬	(1) 穂孕期 (2) 出穂期 (3) 乳熟期	8.146	33.39	2.427	(-)0.083	不明	0.382	合 格	
	7年 12年 平均	標準區	同	上	—	同	—	—	—	—	不明	0.382	合 格	
	7年 12年 平均	摘採區	同	上	—	同	—	—	—	—	不明	0.382	合 格	
徳島縣	7年 12年 平均	標準區	同	上	—	同	—	—	—	—	不明	0.382	合 格	
	7年 12年 平均	摘採區	同	上	—	同	—	—	—	—	不明	0.382	合 格	
	7年 12年 平均	摘採區	同	上	—	同	—	—	—	—	不明	0.382	合 格	

府縣別	調査年度 (大正)	被害程度	調査區別	稲ノ早中晩 品種	調査面積	摘採月日 回数	摘採ノ生育 時期ニ於ケル 状況	富				玄ノ米 重量 一升量	玄米ノ品等	備考
								摘採本數	摘採時間	玄米收量	標準ニ 比増減	批客量		
香川縣	自9年 至11年 平均	中庸	採區 香川神力 (晩生)	大正9年 大正10.11年 大正11年 10歩	大正9.10年 (1) 9.上旬 (2) 9.11年 (3) 9.12.10歩 (50日後) 日前 (50日後) 日前 (2) 9.中旬 (1) 9.7. (2) 9.12. (3) 9.17. 各年3回	大正9年 (1) 穂孕期 (2) 出穂期 (3) 乳熟期 (50日後) 日前 (2) 9.中旬 (1) 9.7. (2) 9.12. (3) 9.17. 各年3回	大正9年 (1) 穂孕期 (2) 出穂期 (3) 乳熟期 (50日後) 日前 (2) 9.中旬 (1) 9.7. (2) 9.12. (3) 9.17. 各年3回	3015	不明	2,244	(-) 0.009	不明	不明	不明
								—	—	2,293	—	不明	不明	不明
								4,408	24.54	2,176	(+) 0.198	0.323	0.378	大差ナシ
高知縣	7.8. 9.10 12年 平均	中庸	採區 豐良郡(中生)	一畝 但大正12年 6歩	(1) 8.8. (2) 8.15. (3) 8.25. 3回	(1) 穂孕期 (2) 出穂期 (3) 乳熟期	(1) 穂孕期 (2) 出穂期 (3) 乳熟期	—	—	1,978	—	0.443	0.378	批ノ容量ハ大正7. 8.9.年ノ3ヶ年平均 トス
								—	—	—	(+) 0.184	不明	0.352	中位
								780	7.19	3,244	(+) 0.184	不明	0.352	中位
福岡縣	11. 12年 2ヶ年 平均	中庸	採區 神力(晩生)	5畝 但大正12年 25歩	(1) 9.上旬 (2) 9.下旬 (3) 9.12.2回	(1) 穂孕期 (2) 出穂期 (3) 乳熟期	(1) 穂孕期 (2) 出穂期 (3) 乳熟期	—	—	3,060	—	同上	0.265	中位
								—	—	—	—	0.067	0.376	4等
								518	17.22	2,612	(+) 0.080	0.061	0.372	批容量ハ大正7年 ヨリ9迄ノ3ヶ年 平均トス
佐賀縣	自7年 至11年 平均	不明	採區 神力(晩生)	5畝	(1) 9.5 (2) 9.12 (3) 9.12.3回	不明	不明	—	—	2,532	—	—	—	4等

長崎縣	7年	中庸	摘採區	藤坊主	同上	31.8歩 (1) 9.5 (2) 9.10 (3) 9.15 3回	開花期及ソ ノ前後	31	2.10	2.238	(+) 0.065	0.511	0.361	不明	両者共に來米ニ付 品質粗悪ニシテ大 差ナシ
熊本縣	大正9年少 大正10年多 大正11年中 大正12年中 平均	摘採區	神力(晩生)	同上	大正7年7歩 大正10年3歩 大正11年18歩 大正12年15歩	(1) 9上旬 (2) 9下旬 (3) 9.10 2回	9年 (1) 穂孕期 (2) 出穂期 (3) 10.11年 (1) 出穂期 (2) 開花期 (3) 12年 (1) 穂孕期 (2) 乳熟期	1.422	19.05	2.843	(+) 0.136	不明	0.384	不明	摘採時間ハ大正11 年ノミヲトル他ハ 不明
大分縣	8年 自13年 至5ヶ 年平均	中庸	摘採區	雄町(中生)	同上	10歩 (1) 8.30 (2) 9.4 (3) 9.9 3回	(1) 出穂前 (2) 直前 (3) 開花後	2.610	不明	3.215	(+) 0.201	不明	0.383	不明	摘採時間ハ少面積 ニシテ不正確ノ故 アルヲ以テ算定セ ズ
宮崎縣	7年 自11年 至5ヶ 年平均	中庸	摘採區	神力	同上	10歩 (1) 8.上旬 (2) 9.上旬 (3) 9.上旬 3回	(1) 穂孕期 (2) 出穂期 (3) 乳熟期	1.711	16.31	3.147	(+) 0.097	不明	0.375	不明	2等
										3.050	—	—	0.371	不明	

葉綫變色並摘採ノ效果及稻ノ開花期ニ於テ踏込動搖ノ影響

二、稻ノ開花期ニ於テ踏込動搖ノ影響ニ關スル調査

イ、地方大別平均踏込動搖時間及收量増減表

地方大別	府縣別	段		増減歩合(%)
		踏込動搖時間	標準ニ比シ増減	
東北地方	岩手縣 秋田縣 山形縣(甲) 山形縣(乙) 平泉均	一四、二八 ^{時分} 一四、二八	(-)○、〇三二 ^石 (-)○、〇八二 (-)○、一四〇 (-)○、二八五 (-)○、二三四八	(-)一、五 二、五 五、〇 九、一 五、一
關東地方	茨城縣 千葉縣 平泉均	 二七、五一 二七、五一	(-)○、〇一五 (+)○、一七一 (+)○、〇五一	〇、七 五、六 二、三
北陸地方	新潟縣 富山縣	 	(+)○、〇四四 (-)○、〇九四	一、七 三、二

中國地方 (山陰地方) (山陽地方)	近畿地方	中部地方	北陸地方
山 島 口 根 縣 縣	平 和 奈 兵 滋 三 三 歌 良 庫 賀 重 重 山 縣 縣 縣 縣 縣(乙) 縣(甲) 均 縣 縣 縣 縣 縣 縣	平 岐 山 阜 梨 均 縣 縣	平 石 川 均 縣
三、〇〇 一七、二六	六、二二 三、〇〇 一五、〇五 一、〇〇 	四、三〇 四、三〇	二一、〇二 ^時 二一、〇二 ^分
(+)(+) 〇、〇五六 〇、〇三二	(-)(-)(-)(-)(+)(-)(-) 〇、〇六四三 〇、〇四二 〇、〇二七 〇、〇二八 〇、〇四二 〇、〇三九 〇、〇一二	(-)(-)(-) 〇、〇五九 〇、〇三九 〇、〇七九	(-)(-) 〇、〇九四 〇、〇二三 ^石 〇、〇二二
(+)(+) 一、五 一、一	(-)(-)(-)(-)(+)(-)(-) 二、七 一、八 七、〇 一、四 一、四 一、九 五、七	(-)(-)(-) 二、〇 一、七 二、二	(-)(-) 三、四 八、二

總 平 均	九州 地 方						四 國 地 方			地 方 大 別		
	福 岡 縣	佐 賀 縣	長 崎 縣	熊 本 縣	大 分 縣	宮 崎 縣	德 島 縣	高 知 縣	平 均	廣 島 縣	府 縣 別	踏 込 動 搖 時 間
一 二 、 二 七	〇、五 八	〇、四 七	〇、三 八	〇、二 九	〇、一 〇八	〇、〇 二六	〇、〇 九〇	〇、〇 三六	一四、四 一	九、〇〇	六、〇〇	九、四 九
(-) 〇、〇 三二四	(-) 〇、〇 一〇八	(-) 〇、〇 二九	(-) 〇、〇 三八	(+) 〇、〇 六〇	(+) 〇、〇 一七二	(-) 〇、〇 一二八	(+) 〇、〇 二六	(-) 〇、〇 三八	(+) 〇、〇 二六	(-) 〇、〇 二八	標準ニ 比シ増 減	踏 込 動 搖 時 間
一 、 二 三	〇、四	一、〇	一、三	二、〇	八、九	四、三	三、〇	一、一	一、六	四、一	増 減 歩 合 (%)	踏 込 動 搖 時 間

踏込動搖ノ影響ニ關スル調査表

府 縣 別	調査年度	調査區別	稻ノ品種 及 早中晩	調査面積	踏込動搖 月日、回數	踏込動搖ノ際 稻ノ生育狀況	段				米 玄米品等	備考
							時分	石	石	米 一升ノ量		
岩手縣	大正 7年	踏込動搖區	陸羽 7號 尾 1號 同 關山 3號	15歩	—	不明	14. 28	2.068	石 (-) 0.032	0.198	0.375	3 等 使用人夫ハ男子
		標準區	同	同上	—	不明	—	2.100	—	0.390	0.319	4 等
秋田縣	自大正 7年 至大正 11年 5箇年 平均	踏込動搖區	大正 7, 8年 龜 尾 大正 10, 11年 豐 國	1畝	1. 8月 12日 2. 8月 17日 3. 8月 22日	調査セズ	不明	2.225	(-) 0.082	0.302	0.373	大正 7, 10, 11年 米檢 3 等 大正 8年 不合 格 大正 9年 米檢 4 等
		標準區	同上	同上	—	同上	—	2.307	—	0.310	0.372	大正 7, 8, 9年 4 等 大正 10, 11年 3 等
山形縣 (甲)	大正 7年	踏込動搖區	豐國(中生)	2.5畝	1. 8月 15日 2. 8月 20日 3. 8月 20日 同	1. 乳熟初期 2. 乳熟中期 3. 糊熟期	不明	2.650	(-) 0.140	0.052	0.386	2 等中 1. 出穗期 8月 8日
		標準區	同上	同上	—	同上	—	2.790	—	0.082	0.384	2 等下 1. 米質等級ハ 縣檢査等級
山形縣 (乙)	大正 7年	踏込動搖區	東郷(晩生)	2.5畝	1. 8月 20日 2. 8月 25日 3. 8月 30日 同	1. 出穗期 2. 乳熟期 3. 乳熟期	不明	2.835	(-) 0.285	0.630	0.345	3 等上 出穗期 8月 20日
		標準區	同上	同上	—	同上	—	3.120	—	0.330	0.345	3 等中

稻ノ開花期ニ於テ踏込動搖ノ影響ニ關スル調査

府 縣 別	調 査 年 度	調 査 區 別	箱ノ品種 及早中晩	調 査 面 積	踏 込 期 月 日、回 數	踏込動搖ノ際 稻ノ生育状況	段			當		米 一升ノ 量	玄 米 品 等	備 考
							時 分	石	標準三 比ノ増減	石	容 量			
茨城縣	自大正7年 至大正11年 5箇年 平均	踏込動搖區	愛國(中生)	自大正7年 5畝	五日隔ヲ 八月下旬 2回 九月上旬 1回 5回	1. 8月中旬 2. 8月下旬 3. 9月上旬 4. 9月上旬 5. 9月上旬	不明	2.266	(-) 0.015	0.182	0.380	3 等		
		標準區	同上	同上	同上	同上	—	2.281	—	0.360	0.376	3 等		
		踏込動搖區	愛國(中生) 大正7年 大正8年 關取(中ノ晩)	大正7年 45歩 大正8年 50歩	4回	1. 開花期 2. 開花期 3. 開花期 4. 開花期	27.51	2.190	(+) 0.117	0.180	0.382	大正7年 4 等 大正8年 3 等		
千葉縣	自大正7.8年 2箇年 平均	標準區	同上	同上	同上	同上	—	2.072	—	0.216	0.379	大正7.8年 4 等		
		踏込動搖區	大正7.8.9年 白石(中生) 大正10.11 年 高宮(中生)	15歩	3回	不明	不明	2.560	(+) 0.044	0.205	0.370	大正7年 3 等 大正8年 (5.8點) 大正9年 外 等 大正10年 5 等 大正11年 5 中等		
		標準區	同上	同上	同上	同上	—	2.516	—	0.213	0.370	大正7年 3 等 大正8年 (5.2點) 大正9年 5 等		
新潟縣	自大正7年 至大正11年 5箇年 平均	標準區	同上	同上	同上	同上	—	2.516	—	0.213	0.370	大正7年 3 等 大正8年 (5.2點) 大正9年 5 等		
		踏込動搖區	大正7.8.9年 白石(中生) 大正10.11 年 高宮(中生)	15歩	3回	不明	不明	2.560	(+) 0.044	0.205	0.370	大正7年 3 等 大正8年 (5.8點) 大正9年 外 等 大正10年 5 等 大正11年 5 中等		
		標準區	同上	同上	同上	同上	—	2.516	—	0.213	0.370	大正7年 3 等 大正8年 (5.2點) 大正9年 5 等		

富山縣	踏込動搖區 (晩生)	大正7年 167.0歩 大正8年 192.5歩 大正9年 21.0歩 大正10年 25.0歩 大正11年 20.0歩	大正7.9年 1. 8月下旬 2. 9月上旬 3. 9月上旬 (5日前)	大正8年 (5日後)	出穂期 1. 大正8年 2. 大正8年 3. 大正8年	調査々 大	2,804 (-) 0.0.4	0.373	大正7.8.9.11 年 合格 丙 大正10年 不合格丁	大正10年5等 大正11年5 中等	本調査ノ被害中 本調査ノモノニ付行
石川縣	踏込動搖區 但大正7年 宮内坊主	大正7年 100歩	大正7.9年 1. 8月下旬 2. 9月上旬 3. 9月上旬 (5日後)	大正8年 (5日後)	出穂期 1. 大正8年 2. 大正8年 3. 大正8年	調査々 大	2,804 (-) 0.0.4	0.373	大正7.8.9.11 年 合格 丙 大正10年 不合格丁	大正10年5等 大正11年5 中等	本調査ノ被害中 本調査ノモノニ付行
石川縣	踏込動搖區 但大正7年 宮内坊主	大正7年 100歩	大正7.9年 1. 8月下旬 2. 9月上旬 3. 9月上旬 (5日後)	大正8年 (5日後)	出穂期 1. 大正8年 2. 大正8年 3. 大正8年	調査々 大	2,804 (-) 0.0.4	0.373	大正7.8.9.11 年 合格 丙 大正10年 不合格丁	大正10年5等 大正11年5 中等	本調査ノ被害中 本調査ノモノニ付行
石川縣	踏込動搖區 但大正7年 宮内坊主	大正7年 100歩	大正7.9年 1. 8月下旬 2. 9月上旬 3. 9月上旬 (5日後)	大正8年 (5日後)	出穂期 1. 大正8年 2. 大正8年 3. 大正8年	調査々 大	2,804 (-) 0.0.4	0.373	大正7.8.9.11 年 合格 丙 大正10年 不合格丁	大正10年5等 大正11年5 中等	本調査ノ被害中 本調査ノモノニ付行
石川縣	踏込動搖區 但大正7年 宮内坊主	大正7年 100歩	大正7.9年 1. 8月下旬 2. 9月上旬 3. 9月上旬 (5日後)	大正8年 (5日後)	出穂期 1. 大正8年 2. 大正8年 3. 大正8年	調査々 大	2,804 (-) 0.0.4	0.373	大正7.8.9.11 年 合格 丙 大正10年 不合格丁	大正10年5等 大正11年5 中等	本調査ノ被害中 本調査ノモノニ付行

府 縣 別	調査年度	調査區別	稻ノ品種 及早中晩	調査面積	踏込動搖 月日、回數	踏込動搖ノ際 稻ノ生育状況	段		當		米 一升ノ 量	玄米品等	備 考
							時分	石	石	玄米 比シ増 収量			
山梨縣	自大正7年 至大正11年 5箇年平均	標準區 同上	同上	同上	九月中旬 5回 大正10年ハ 上旬2回 中旬2回 下旬1回	5.糊熟期 但大正9年ハ 3.乳熟期 4.5.糊熟期	—	3.553	—	0.507	0.380	3等	
					—	同上	不明	2.221	(-) 2.039	0.070	0.390	3等	
					1. 9月6日 2. 9月11日 3. 9月16日 3回	1. 穗孕期 出穗期	不明	1.847	(-) 0.112	0.032	0.391	不明	
岐阜縣	大正9年	標準區 同上	同上	同上	—	同上	—	2.210	—	0.095	0.385	3等	
					1. 8月25日 2. 9月1日 3. 9月8日 3回	1. 穗孕期 2. 出穗期 3. 乳熟期	不明	1.847	(-) 0.112	0.032	0.391	不明	
三重縣 (甲)	大正7年	標準區 同上	同上	同上	—	同上	—	1.959	—	0.035	0.391	不明	
					1. 8月25日 2. 9月1日 3. 9月8日 3回	1. 穗孕期 2. 出穗期 3. 乳熟期	不明	2.046	(-) 0.037	0.042	0.390	不明	
三重縣 (乙)	大正7年	標準區 同上	同上	同上	—	同上	—	2.085	—	0.044	0.389	不明	
					2. 同 1. 乳熟期	同上	1. 00	2.979	(+) 0.042	不明	0.390	中等	
滋賀縣	明治12年	標準區 同上	同上	同上	—	同上	—	2.937	—	同上	0.390	中等	

兵庫縣	大正7年	踏込動搖區	東京	10歩	9月3日 9月10日 9月16日 3回	不明	不明	1.992	(-)0.028	0.414	0.380	不明	
	標準區	同上	同上	同上	—	同上	不明	2.030	—	不明	0.380	不明	
	踏込動搖區	大正7年 神力(晩) 大正8.10 雄町中)	大正7年 7.5歩 大正8年 5.0歩 大正10年 5.0歩 大正11年 10.0歩	1.8月下旬 或ハ九月上 旬 2.9月中旬 3.9月中旬 3回	1.2.開花 2.3.開花 3.開花 終	15.05	2.755	(-)0.207	0.094	0.390	大正7年 大正8.10.11年 3等 2等		
奈良縣	大正7.8.10 11年 4箇年平均	標準區	同上	同上	—	同上	不明	2.962	—	0.096	0.388	大正7年 大正8.10.11年 3等 2等	
	踏込動搖區	大正7年 晩生神力 大正9年 改良神力	5畝 開花期一回及 其ノ前後五日 ヲ隔テ一回宛 計3回	1.2.開花 2.開花 3.開花 熱期	3.00	2.24	(-)0.042	0.970	0.381	大正7年 大正8.10.11年 3等 2等	被害中府ノ場所 ニ付試験ス		
	標準區	同上	同上	同上	—	同上	不明	2.306	—	0.160	0.381		
和歌山縣	大正7年 大正9年 2箇年平均	踏込動搖區	大正7年 北部(晩生) 大正8年 新日本 大正9年 早大關 大正10年 小山一本 大正11年 神西一本 (晩生)	大正7.9年 5畝 大正8.10.11年 4畝	1.8月下旬 或ハ九月上 旬 2.9月上旬 3.9月上旬 (5日前) 4.9月中旬 5.9月中旬 計5回	1.2.開花 2.開花 3.開花 4.開花 後	19.26	2.877	(+)0.032	0.362	0.381	大正7年 大正8.9.10年 3等 10年 4等 大正11年 5等	
	標準區	同上	同上	同上	—	同上	不明	2.306	—	0.160	0.381		
	踏込動搖區	同上	同上	同上	—	同上	不明	2.306	—	0.160	0.381		
島根縣	自大正7年 至大正11年 5箇年平均	踏込動搖區	同上	同上	—	同上	不明	2.306	—	0.160	0.381		

稻ノ開花期ニ於テ踏込動搖ノ影響ニ關スル調査

府 縣 別	調 査 年 度	調 査 區 別	稻ノ品種 及 早 中 晩	調 査 面 積	踏 込 動 搖 日 月、回 數	踏 込 動 搖ノ際 稻ノ生 育 状 況	段		當			玄米 一 升ノ 量	玄米品等	備 考		
							踏 込 動 搖 時 間	玄米 收 量	石	—	石				—	玄米 一 升ノ 量
山 口 縣	自大正 8 年 至大正 11 年 4 箇年 平 均	踏込動搖區 神力(晩生) 大正 11 年 大政官 (中生)	同 上	同 上	—	同 上	1. 開花前期 2. 開花中期 3. 開花後期	3.00	3,678	(+) 0.056	0.464	0.390	小粒	2 等	被害中席ノ稻田 トス	
								—	2,632	—	0.500	0.387	小粒	2 等		
								9.00	2,574	(-) 0.008	—	0.390	大粒	3 等		
廣 島 縣	大正 7 年	踏込動搖區 穀良部 (早生)	同 上	同 上	15 歩	同 上	同 上	—	2,582	—	—	1.391	大粒	3 等		
								—	2,276	(+) 0.090	—	0.384	合 格			
								不明	2,276	(+) 0.090	—	0.384	合 格			
德 島 縣	自大正 7 年 至大正 11 年 5 箇年 平 均	踏込動搖區 神力(晩生)	同 上	同 上	5 畝	同 上	同 上	—	2,186	—	—	0.381	合 格			
								—	2,186	—	—	0.381	合 格			
								14.41	2,408	(-) 0.038	—	0.375	大差ナシ			
	自大正 7 年	踏込動搖區 改良坊主 (中生) 大正 9, 10 年 遮千本	同 上	同 上	1. 畝 2. 畝 3. 畝 4. 畝 計 4 回	同 上	1. 開花期 2. 開花期 3. 開花期 4. 乳熟期	14.41	2,408	(-) 0.038	—	0.375	大差ナシ			

高知縣	至大正11年 5箇年平均	標準區	(中生) 大正12年 新赤坊主	同	上	但シ八年ニハ 最後ノモノヲ ナサズ	同	上	—	2,446	—	—	0.373	不明	
福岡縣	大正10年	踏込動搖區	神力(晩生)	同	1畝	9月12日 9月15日	開花期	0.58	3,279	(-) 0.102	不明	不明	不明	4等	批容量ノ大正7. 8,9,年三箇年平均トス
		標準區	同上	同	5畝	9月5日 9月12日 9月19日	不明	不明	2,891	(-) 0.128	同上	同上	同上	4等	
佐賀縣	大正7年	踏込動搖區	膝坊主	同	12.2歩	9月5日 9月10日 9月15日	開花期及其ノ 前後	0.47	2,208	(+) 0.172	0.295	0.364	品質劣悪各區 共大差ナシ	4等	
		標準區	同上	同	—	計 3回	同上	—	2,949	—	0.058	0.352	—	—	
長崎縣	大正7年	踏込動搖區	神力(晩生)	同	18歩	9月上旬 9月中旬	出穂期	不明	3,005	(+) 0.060	不明	0.385	不明	不明	
		標準區	同上	同	15歩	—	同上	—	2,945	—	同上	0.385	不明	不明	
熊本縣	自大正11年 至大正12年 2箇年平均	踏込動搖區	雄町(中生)	同	10歩	五日ヲ隔テ開 花期及共ノ前 後ニ一回 計 3回	開花期 前期 後	不明	2,976	(-) 0.038	不明	0.381	不明	不明	
		標準區	同上	同	—	—	同上	—	3,014	—	不明	0.380	不明	不明	
大分縣	自大正7年 至大正12年 5箇年平均	踏込動搖區	雄町(中生)	同	—	—	同上	—	—	—	—	—	—	—	
		標準區	同上	同	—	—	同上	—	—	—	—	—	—	—	

府 縣 別	調査年度	調査區別	稻ノ品種 及早中晩	調査面積	踏込期 月日、回數	踏込期 稻ノ生育状況	段 當				玄米 一升ノ量	玄米品等	備 考	
							踏込期 時間	玄米 收穫量	標準ニ 比シ増減	當 批容量				
宮崎縣	自大正7年 至大正11年 5箇年平均	踏込期 大正7.8.9年 大正10.11年 標準區	雄町 神力 同上	10歩 同上	開花期其ノ前 後二回宛五日 ヲ隔テ行フ ——	同 上	時分	石	石	々	2等	2等		
							不明	2,916 (-) 0.035	0.168	0.369				
							——	2,945	——	0.163	0.370			

大正十五年三月二十五日印刷
大正十五年三月三十日發行

農 林 省 農 務 局

印刷者 東京市芝區愛宕町三丁目二番地
村 橋 圭 二

印刷所 東京市芝區愛宕町三丁目二番地
東洋印刷株式會社

正 誤 表

頁	行	誤	正	頁	行	誤	正
五	一七	非ル	非サル	九八	一一	二	ニ・
七	六	現行害蟲驅除豫法中	現行害蟲驅除豫法・法中	九九	一	稻熱病	稻熱病
一〇	一一	害蟲驅除豫防第七條	害蟲驅除豫防・第七條	九九	一三	葡萄黒痘病	葡萄黒痘病
一四	一五	取扱ヒツルアル	取扱ヒツツアル	九九	一五	桃炭疽病	桃炭疽病
一六	一	交付セル	交付スル	一〇四	五	繼續	繼續
一九	八	潤濕	濕潤	一一一	一一	カラクダシ	カラクダシ
二八	一〇	以テ	以テ	一二四ノ一	六	補助金交付	補助金・交付
二九	二	巡視スレニ	巡視スル・ニ	一二四ノ一	一七	種苗	種苗
二九	一一	イセリヤ	イセリヤ	一二〇	五	問題	問題
三五	一六	消耗品ハ	消耗品費ハ	一二二	一五	サンホーゼ	サンホーゼ
四一	一一	有利ナ	有利ニ	一二二	一六	蟲介殼	介殼蟲
四五	下段五ノ三	散布	撒布	一二三	一四	附托	附託
五九	三	以テ	以テ	一二六	一七	塊卵數	卵塊數
五九	一二ト一三ノ間	第二章	第二章	一二九	一六	粉斑螟蛾	粉斑螟蛾
七〇	一四ト一五ノ間	第四章	第四章	一三〇	一ヨリ二	葉變色莖	葉鞘變色莖
七三	一	除防	防除	一三九	四	斯ノ	斯ク
八一	一六	郡農會	郡農會	一四〇	三	クロールピリリン	クロールピク・リン
八二	九	全般ヲヨリ	全般ヲヨク	一四七	一四ト一五ノ間		傍聴者
八二	一三	負担	負擔	一五〇	六	$2H_3AsO_4$	$2H_3AsO_4$
八二	一七	分坦	分擔	一五二	一二	NH_2O	nH_2O
八八	三	待ニ	特ニ	一五九	一五	H_2O	$2H_2O$
八八	八	病害蟲	病菌・害蟲	一六三	六	移法	移出
九〇	五	機關ヲ	機關ノ	一六三	一二	チンチバツク	甘蔗小翅椿象
九六	四	注意スヘキ事項	注意スヘキ・事項				

病 菌 害 蟲 彙 報 目 録

	書 名	發行年月	發 賣	定 價	備 考
第 一 號	柿實蟲蛾ニ關スル調査	大正 5. 9	(非 賣 品)	四	大正十二年大絶 九月大震ノ爲 火災ノ版
第 二 號	浮塵子注油驅除ニ關スル試験成績	同 6. 4	大日本農會	0.50	
第 三 號	べたりあ瓢蟲及いせりあ介殼蟲ニ關スル調査	同 6. 11	(非 賣 品)	—	
第 四 號	柑橘類潰瘍病	同 6. 12	(非 賣 品)	—	
第 五 號	蜜柑蠅ニ關スル調査	同 8. 3	有 隣 堂	1.00	
第 六 號	農作物病菌害蟲驅除豫防獎勵ニ關スル參考資料	同 8. 5	大日本農會	1.60	
第 七 號	甘藷ノ害蟲いもはむし及梨姬心喰蟲ニ關スル調査研究	同 9. 3	(非 賣 品)	—	
第 八 號	桃炭疽病ニ關スル研究	同 9. 3	大日本農會	6.00	
第 九 號	果樹類ノ根頭癌腫病	同 12. 1	(非 賣 品)	—	
第 十 號	矢根介殼蟲及ルビー蠟蟲ニ關スル研究	同 12. 3	大日本農會	2.50	
第十一號	貯穀害蟲及其ノ驅除豫防ニ關スル調査研究成績	同 12. 5	大日本農會	2.00	
第十二號	農作物病蟲害豫防事務要覽	同 13. 3	(非 賣 品)	—	
第十三號	貯穀害蟲及其ノ驅除豫防ニ關スル調査研究成績	同 13. 7	大日本農會	2.00	
第十四號	日本産介殼蟲科デアスピ亜科ニ關スル研究(其ノ一)(歐文)	同 14. 3	(非 賣 品)	—	
第十五號	稻熱病ニ關スル研究	同 15. 3	(非 賣 品)	—	
第十六號	病菌害蟲驅除豫防主任技術官協議會要録	同 15. 3	(非 賣 品)	—	

